仙台市文化財調査報告書第159集

神柵遺跡

――発掘調査報告書――

平成4年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第159集

神柵遺跡

——発掘調査報告書——

平成4年3月

仙台市教育委員会

序　　文

仙台市内には現在、700余ヶ所の遺跡が知られており、毎年、数10ヶ所において発掘調査が実施され、私たち仙台市民の祖先の暮らしを知るための貴重な資料がつぎつぎと掘り出されております。

沖野地区におきましても、市街地に隣接する土地柄から、近年宅地化が著しく、近郊農村として発展してきたこれまでの姿が、商店街や住宅地へと大きく変貌しつつあります。

北に隣接する南小泉地区には、遠見塚古墳や南小泉遺跡といった著名な遺跡があり、古くから学識者、歴史愛好家の注目を集め、考古学による発掘調査も数多く行われてまいりましたが、この沖野地区では、沖野城跡の調査が昭和60年に一度実施されただけで、原始・古代の様子を知る資料は皆無と言っても過言ではなかったのであります。

この度、この神柵遺跡の発掘調査により、遠く千二百余年前の奈良時代の、公的施設と見られる建物跡が発見されたことは、この地区が古くから重要な土地であったことが明らかになったばかりでなく、当時の律令制度の施行の実態を解明する上でも貴重な成果がえられたものと確信するものであります。

調査に際しましては、伊藤忠商事株式会社、錢高組はじめ地元の皆様方から多大なる御協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げる次第であります。先人の残した貴重な文化遺産を次の世代に継承していくことは現代に生きる私たちの大きな責務であります。これからも文化財保護への深い御理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護精神高揚の一助となりますことを願って止みません。

平成4年3月

仙台市教育委員会

教育長　東海林　恒　英

例　　言

1　本報告書は、伊藤忠商事株式会社による、宮城県仙台市に所在する神柵遺跡における分譲マンション建設工事に伴う、事前調査の報告書である。

2　本書の編集・執筆は仙台市教育委員会文化財課の木村浩二・川名秀一があたり、次のとおり分担した。

本文執筆	木村　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ
	川名　Ⅴ
遺物実測	川名・前田裕志・菅家婦美子・渡辺るり子
トレース	前田・菅家・桜井幸子・渡辺
写真撮影	木村・川名・前田
遺物補修復元	赤井沢千代子・福山幸子
図版作成	川名・桜井・前田
集計資料作成	畑中ゆかり

3　遺構平面図における座標は、平面直角座標第Ⅹ系を座標変換した調査相対座標で表示した

調査座標原点　X＝－196,936.000m　　Y＝7,060.000m

高さは標高値で表示した。

4　検出遺構については、遺構略号を次のとおりとし、発見順に全遺構に通し番号を付した。

SA　柱列跡他塀跡	SB　建　物　跡	SD　溝　　跡
SK　土　　坑	SX　その他の遺構	P　ピット・小柱穴

5　出土遺物については、遺物略号は次のとおりとし、各々種別毎に番号を付した。

C　土師器（ロクロ不使用）	D　土師器（ロクロ使用）	E　須　恵　器
K　石　製　品	N　金　属　製　品	P　土　製　品

6　遺物実測図の中心線は、個体の残存率がほぼ50％以上は実線、ほぼ25～50％で一点鎖線、これ以下は破線とし、網スクリーントーン貼り込みは黒色処理を示している。

7　本書の記述による土色は「新版標準土色帳」（小山・竹原：1970）に基づく。

8　本調査に関わる出土遺物・図・写真は、仙台市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

Ⅰ　はじめに …… 1

1．調査に至る経過 …… 1

2．調査要項 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2

1．遺跡の位置と地理的環境 …… 2

2．周辺の遺跡と歴史的環境 …… 2

Ⅲ　調査の方法と経過 …… 5

Ⅳ　基本層位 …… 6

Ⅴ　発見遺構と出土遺物 …… 9

1．堀　　跡 …… 9

2．掘立柱建物跡 …… 10

3．土　　坑 …… 13

4．溝　　跡 …… 31

5．その他の遺構・遺物 …… 49

Ⅵ　総　　括 …… 50

1．出土遺物の分類と年代 …… 50

2．遺構の変遷と年代 …… 54

3．遺跡の性格と周辺土地区割・字名 …… 58

4．ま と め …… 59

写真図版 …… 61

Ⅰ　はじめに

1．調査に至る経過

平成２年５月24日、仙台市青葉区一番町三丁目１番１号伊藤忠商事株式会社東北支店支店長加藤勝久氏より、仙台市長宛に、当該地において分譲マンション建設に関わる「開発行為事前協議願書」が提出された。当該地は、仙台市文化財分布地図に「神柵遺跡」（仙台市文化財登録番号Ｃ－271）として周知されていたため、仙台市教育委員会文化財課との協議が行われ、平成２年６月13日、①当該地の遺跡発掘届を提出すること、②試掘調査を実施すること、③調査は仙台市教育委員会が実施すること、④試掘調査の結果、事前調査が必要な場合は協議すること、を条件に協議が成立した。

協議事項①により、平成２年６月22日、仙台市教育委員会教育長宛に、遺跡発掘届が提出された。これにより６月29日、当該地内において遺構・遺物の有無を確認するため、試掘調査を実施した。２地点の調査により、３層上面にて、土坑・柱穴等の遺構を検出、１・２層中より土師器・須恵器の破片が多数出土した。この試掘調査の結果をもって、開発者である伊藤忠商事株式会社東北支店との協議により、平成３年度に発掘調査を実施することとなった。

発掘調査の実施にあたっては、仙台市と開発者との間で、平成３年４月15日、発掘調査委託契約が締結され、調査期間は報告書の作成まで含め、平成３年４月16日から平成４年３月31日とした。この契約に基づき、野外調査は平成３年４月16日から実施し、８月９日に終了した。報告書の作成に関わる整理作業は、平成３年12月から開始し、４年３月26日に終了した。

2．調査要項

遺跡名	神柵遺跡〔仙台市文化財登録番号Ｃ－271〕
調査地区	仙台市若林区沖野２丁目282.285.286外
調査面積	857㎡（対象面積1641.87㎡）
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課〔調査員　木村浩二・川名秀一〕
調査期間	平成３年４月16日～平成３年８月９日
整理期間	平成３年12月10日～平成４年３月26日
調査参加者	前田裕志、赤井沢サダ子、赤井沢千代子、安斎直子、伊藤はるよ、大友鶴雄、尾形陽子、菅家婦美子、工藤ふなよ、桜井幸子、寺田ユウ子、鳥畑きみえ、福山幸子、峯岸安好、吉田アキヨ
整理参加者	前田、赤井沢（千）、菅家、桜井、畑中ゆかり、福山、渡辺るり子
調査協力	伊藤忠商事株式会社仙台支店 株式会社銭高組東北支店

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地理的環境

仙台市の市街地の地形は西半部と東半部とに大きく二分される。

西半部は奥羽山脈から派生する七北田丘陵・青葉山丘陵・高館丘陵と、名取川の支流・広瀬川がその中流域に形成した段丘地形からなる。この段丘は上位から青葉山段丘・台ノ原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と命名され、近世初頭、伊達政宗の開府以来、現在に至るまで、仙台の中心市街地はこれらの段丘上に営まれ、拡大してきた。

これに対し東半部は幅約10kmに及ぶ宮城野海岸平野が北は宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町まで40kmにわたって三日月形にひろがっている。この沖積平野は奥羽山脈に水源を発する七北田川・名取川・阿武隈川の運搬物によって形成され、流域には扇状地・自然堤防・後背湿地・旧河道など沖積地特有の地形を形成している。また沿岸部には幅2kmにわたって4列の浜堤が形成されている。

宮城野海岸平野の形成層は上部から順に深沼層（砂丘堆積層）・霞ノ目層（氾濫原堆積層）福田町層（潟沼・湿地堆積層）・岩切層（浅海堆積層）から成っている。沖積平野部も近年急速に市街化が進行しているが、藩政時代からの市街地となっている段丘地帯とは対照的に水田や畑地が多い近郊農業地帯となっている。

神柵遺跡は段丘地帯の東端から3km程東に位置し、宮城野海岸平野の中央西寄りに広範に発達した自然堤防上に立地している。標高は9～10mで、遺跡の西側には旧河道がみられ、東側一帯には後背湿地が広がっている。

2　周辺の遺跡と歴史的環境

神柵遺跡周辺の広瀬川左岸域について、これまでの調査成果をもとに概観する。

縄文時代の遺跡は、3km程下流のH辺地区で近年発見され、調査中の高田遺跡があり、晩期の土器片が出土している（註1）ほかは、今泉城跡で縄文時代後・晩期の土器片が出土しているのみで、縄文時代の遺跡は発見されていないが、水田下層より新たに遺構・遺物が発見される可能性が高い。縄文時代からすでにこの地域で人々の生活が営まれていたことがうかがえるが、広範な人々の活動は後背湿地に水田耕作が開始される弥生時代以降とみられる。

弥生時代の遺跡は、前述の高田遺跡のほか、南小泉遺跡、藤田新田遺跡、中在家南遺跡がある。高田遺跡では、河川跡から弥生時代中期（樹形囲式期）の土器とともに木製品が出土している。南小泉遺跡は東西約1.5km・南北約1km、総面積約125haの広大な遺跡で、仙台市の弥生・古墳時代を代表する遺跡である。出土遺物は弥生時代前期から近世までの各時期のものがある。弥生時代の遺構は霞ノ目飛行場の拡張工事の際に15基以上の合口上器棺が検出されたほ

かはほとんど発見されていない。藤田新田遺跡は弥生土器と共に石庖丁や小型片刃石斧等が出土している。中在家南遺跡は自然堤防上から中期の土壙墓4基と土器棺墓1基が検出され、旧河道からは弥生時代中期から中世に至る各時期の農具等の木製品が出土している。

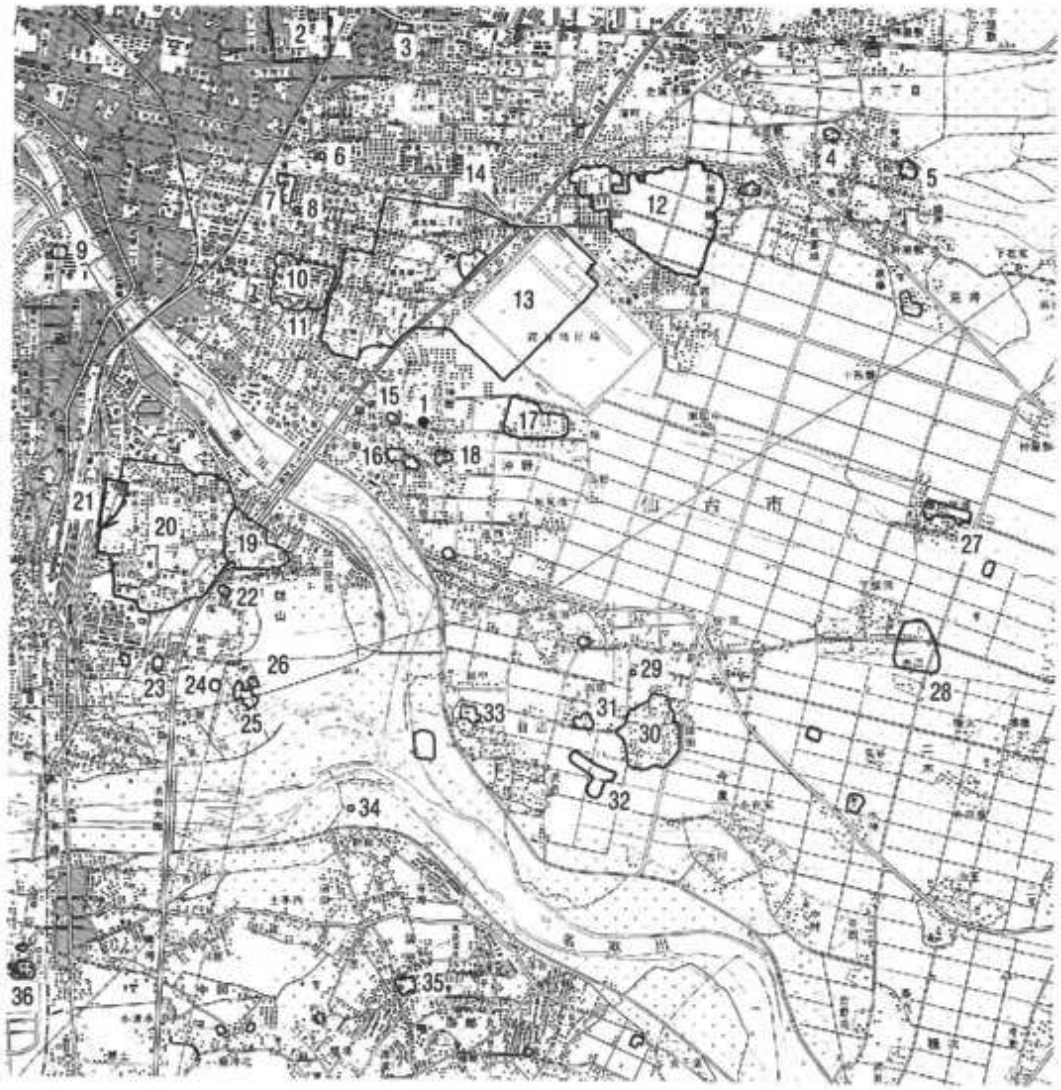
古墳時代の遺跡は、遠見塚古墳、若林城内古墳、法領塚古墳、猫塚古墳等の高塚古墳のほか、前述した南小泉遺跡、中在家南遺跡、藤田新田遺跡がある。遠見塚古墳は前期末ないし中期初頭の全長110mの前方後円墳で、仙台市域では最大級の古墳である。若林城内古墳は近世初頭の城郭造営により削平されたが、墳輪を有し、中期から後期初頭と考えられる。法領塚古墳は仙台平野でも最大級の横穴式石室をもつ、直径32mの後期の円墳である。南小泉遺跡では遠見塚古墳築造と相前後する中期段階の竪穴住居跡が、古墳の周辺でまとまって発見され、大規模な集落が営まれている。中在家南遺跡では河川跡から中期の土器と共に多くの農具等の木製品が出土し、弥生時代に引き続き水田を中心として安定した農業が営まれたものとみられる。藤田新田遺跡では前期から中期の集落跡が調査され、方形周溝墓、竪穴住居跡、水田跡が発見されている。

古墳時代終末から飛鳥時代の7世紀後半になると、広瀬川右岸域の郡山低地に大規模な官衙が造営され、7世紀末には本格的伽藍を擁する官衙付属寺院も造営される。これらの施設は仙台平野のみならず陸奥国全体を統括していたものと考えられ、東北地方南半地域までが、この時期には律令政府の直接支配地域となった。広瀬川左岸域では、古墳時代前期・中期に発展した集落もこの時期になると極端に減少するが、海岸に近い浜堤上に立地する下飯田遺跡では、在地の土器と共に関東系土器や瓦が集落跡から出土し（註2）、律令政府関連施設があったことも考えられる。

奈良時代も遺跡数は少ないが、中期になって本遺跡の北方約2.5kmに陸奥国分寺・尼寺が造営される。国分寺は800尺四方とみられる伽藍域を築地で囲み、金堂・講堂・七重塔を擁する大寺院で、尼寺は僧寺の東約5町に位置している。また国分二寺の東南部から本遺跡の東部一帯に条里地割の跡が観察されたが、近年の圃場整備によりほとんどが湮滅した。遺跡の北方には条里の名残とみられる「三ノ坪」の字名がある。

平安時代には前述した南小泉遺跡で竪穴住居が数多く造られており、再び集落が営まれたものとみられる。また、今泉城跡でも中期以降とみられる竪穴住居跡が発見されている。

中世の遺跡は、沖野城跡、今泉城跡、南小泉遺跡、下飯田遺跡、高田遺跡がある。「仙臺領古城書上」（註3）によれば沖野城跡は、四方百間で葉野大膳の出城とあり、昭和60年の発掘調査により、堀跡が確認された他、土塁なども観察され、城館の付近には「館」「要害」等の字名が残っている。今泉城跡は同書によれば、東西三十六間、南北四十五間で、城主は須田玄蕃とある。数次にわたる発掘調査により、建物跡や区画の溝跡が発見され、全体規模も200m四方程と推定される。下飯田遺跡や南小泉遺跡では堀で区画された掘立柱建物群が発見されてお



遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	立地	年代	No.	遺跡名	種別	立地	年代
1	神柵遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	19	北日城跡	城館	自然堤防	室町・江戸
2	駒奥国分寺	寺院	沖積地	奈良・平安	20	郡山遺跡	官衙	自然堤防	古墳・奈良
3	駒奥国分尼寺	寺院	沖積地	奈良・平安	21	西台畑遺跡	包含地	自然堤防	弥生・古墳
4	押口遺跡	集落跡	沖積地	奈良・平安	22	矢来遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
5	北斧鍛跡	城館	沖積地	中世	23	諸ノ鍛遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
6	法領塚古墳	古墳	沖積地	古墳	24	欠ノ上Ⅰ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
7	黄檗園遺跡	集落跡	沖積地	平安	25	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
8	鶴塚古墳	古墳	沖積地	古墳	26	欠ノ上Ⅲ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
9	先塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	27	藤田新田遺跡	集落跡	浜堤	弥生・古墳
10	若林城跡	城館	沖積地	戦国～江戸	28	下飯田遺跡	集落跡	浜堤	古墳・奈良・中世
11	若林城内古墳	古墳	沖積地	古墳	29	鶴塚古墳	古墳	沖積地	古墳
12	仙台東部条里	条里跡	沖積地	奈良	30	今泉遺跡	城館	自然堤防	弥生・古墳・奈良～近世
13	南小泉遺跡	集落跡	沖積地	縄文～近世	31	高田遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安
14	遠見塚古墳	古墳	沖積地	古墳	32	高田B遺跡	集落跡	自然堤防	弥生・奈良・平安
15	砂押Ⅰ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安	33	日辺館跡	城館	沖積地	室町
16	砂押Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安	34	大塚山古墳	古墳	河川敷	古墳
17	沖野城跡	城館	自然堤防	中世	35	中田原中遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・奈良・平安
18	中野西遺跡	集落跡	自然堤防	弥生・古墳・奈良・平安	36	安久東遺跡	集落跡	自然堤防	弥生・古墳・奈良～近世

第１図　神柵遺跡周辺位置図

り、屋敷跡と考えられる。高田遺跡では水田跡が確認されている。

江戸時代初頭には、伊達政宗が晩年居城とした若林城が築城されると、本遺跡の北西部一帯は城下町として整備されたが、政宗の死去以後、周辺の町並みも衰退の途をたどり、「古城」の字名が残る。江戸時代、この一帯は名取郡沖野村となり、城下にも近いことから多くの直轄領がおかれ、藩財政を支える貴重な農村地帯として発展した。

明治時代に入り、27年、沖野村は西南部の村々とともに名取郡六郷村となり、その後、昭和16年には仙台市に併合された。町名変更が施行される以前には「神柵」「中柵」「館」等の字名が残り、古代から中世にかけての遺跡の存在が推定されていた。

Ⅲ　調査の方法と経過

今回調査の対象となったのは、神柵遺跡として周知されていた範囲のほぼ全域にあたり、その敷地内1641.87㎡で、駐車場用地となる予定の北部分を除く建物建築予定部分約857㎡について発掘調査を実施した。調査区は建築計画図による建物配置にあわせ不整L字形に設定し、便宜上、南区・北区・東区に分けて調査を行った。

調査は4月16日から開始した。試掘調査の結果、耕作土下層の第2層が遺物を包含する暗灰褐色シルト、第3層が遺構検出面の黄褐色シルトとなっていることを確認していたことから、重機により調査区全域の耕作土の排土作業を行った。尚、試掘調査で確認した基本層は、本調査時に、第1層は第Ⅰ層、第2層は第Ⅱ層及び第Ⅲ層に含まれる、第3層は第Ⅳ層と変更した。耕作土排土の結果、第Ⅱ・Ⅲ層は全域に広がっておらず、耕作土直下が第Ⅳ層となる部分が多かった。第Ⅱ層上面精査でも遺構が明瞭に検出できなかったことから、第Ⅳ層上面で遺構検出作業を行った。5月上旬で遺構検出作業を終了し、中旬から遺構精査に入った。また遺構精査と並行して測量基準杭の設置作業を行った。基準杭の設置にあたっては、市道基準点の国家座標から移設した基準点（X＝－196,936.000m、Y＝7,060.000m）を原点として、調査区全域に3mメッシュで実測基準点を設置しE・W・N・Sの座標数値で示した。高さ表示にあたっては、同じく市道基準点から移設したB.M.（標高10.000m）を使用した。遺構精査は南区・北区・東区の順で行った。調査の結果、塀跡1条、掘立柱建物跡5棟、土坑76基、溝跡71条等を検出した。出土遺物は土師器、須恵器、鉄製品、土製品、石製品等である。実測図は1/20を基本として作製し、写真は35mm判モノクロとリバーサルを併用し、適宜6×7判の大型カメラを使用した。

調査の成果がまとまった6月27日、報道関係に調査成果の発表を行い、29日には一般に現地を公開し、説明会を開催した。また6月11日には遠見塚小学校6年生児童が遺跡見学学習を行い、6月12・13日には沖野小学校6年生児童を対象に遺跡見学学習会を普及活動の一環として実施した。8月9日、全ての野外調査を終了した。

Ⅳ 基本層位

本遺跡は沖積平野の自然堤防上に立地しており、シルト質の土壌が主体をしめる。発見された遺構の年代的中心をなす古代以降は、河川の氾濫等による顕著な土砂堆積も殆どみられず、耕作土（第Ⅰ層）の直下で遺構が検出される部分もある。調査は便宜上南・北・東と３つに分けて行い、基本層も各々の地区で確認したが、遺構検出面の下層まで深掘り（現地表より130cm）を行ったのは南区南西隅のみである。北区は調査区北壁、東区は調査区東壁で調査区全域に普遍的な広がりが認められる黄褐色シルトを確認し、攪乱穴の壁面の観察からも、下層については全域でほぼ同様の様相とみられたことから、深掘りは行わなかった。

第Ⅰ層　表土。耕作土で層厚20cm。

第Ⅱ層　北区北半・東区にみられる。攪乱層で層厚10cm。

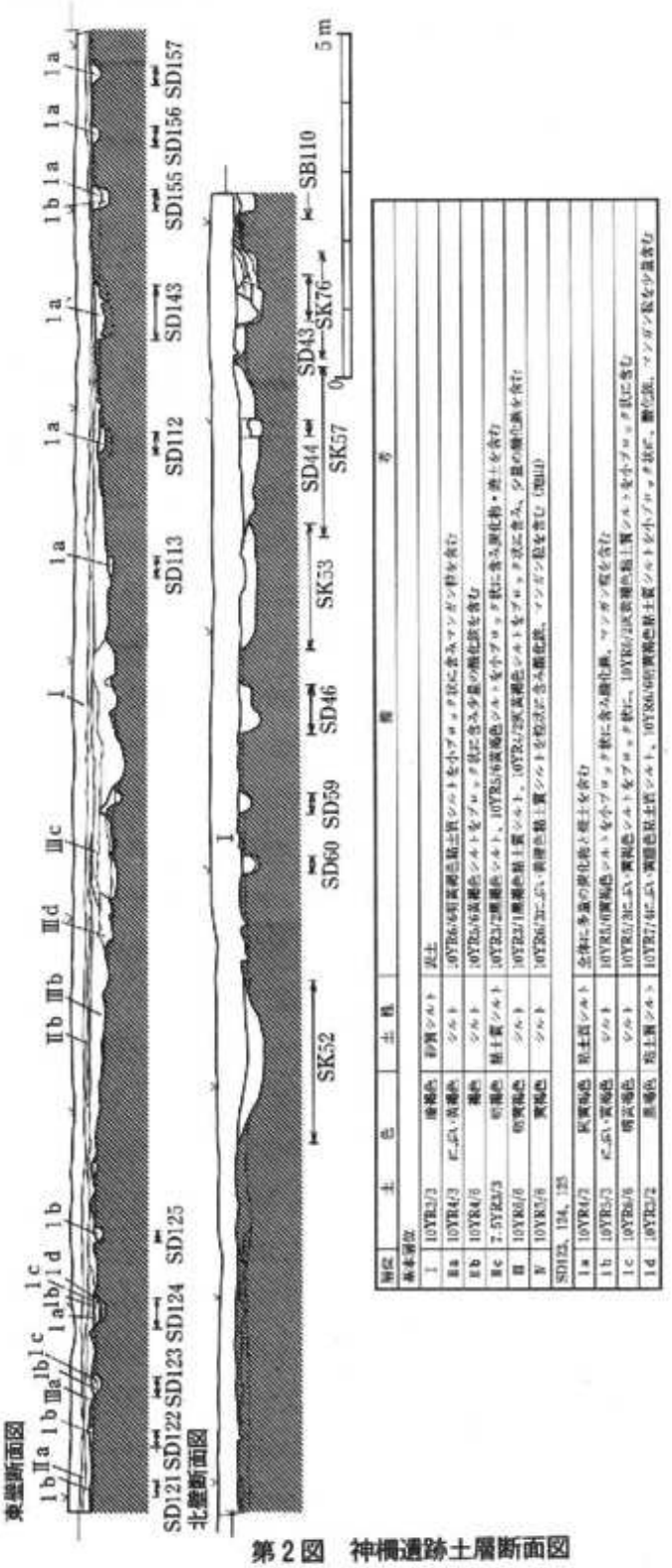
第Ⅲ層　北区の一部と東区にみられる。昭和20年代まで使用されていた道路側溝堆積土等の攪乱層で層厚30cm。

第Ⅳ層　上面が古代（奈良・平安）遺構の検出面で、層厚30cm。

第Ⅴ層　層厚40cm。

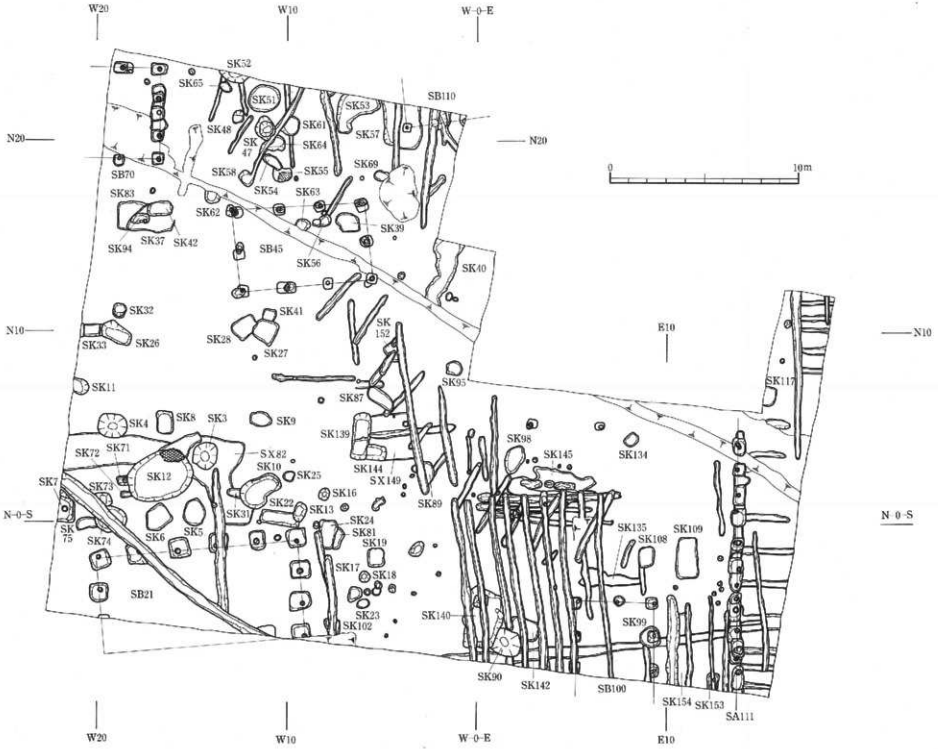
第Ⅵ層　層厚20cm。

第Ⅶ層　層厚30cm以上。



地区	土色	土性	備考
基本層位			
Ⅰ	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	表土
Ⅱa	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含みマンガン粒を含む
Ⅱb	10YR4/6	褐色	シルト	10YR6/6黄褐色シルトを小ブロック状に含み多量の腐植質を含む
Ⅱc	7.5YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/6黄褐色シルトを小ブロック状に含み腐植物・炭土を含む
Ⅲ	10YR3/6	暗黄褐色	シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、10YR5/6黄褐色シルトを小ブロック状にまじり、少量の礫を含む
Ⅳ	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR6/2にぶい黄褐色粘土質シルトを粒状に含み腐植質、マンガン粒を含む（SD125）
SD122、124、125				
1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	全体に多量の腐植質と炭土を含む
1b	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルトを小ブロック状に含み腐植質、マンガン粒を含む
1c	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に、10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む
1d	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR7/6にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に、腐植質、マンガン粒を少量含む

第２図　神楯遺跡土層断面図



第3図　神柵遺跡調査区全体図

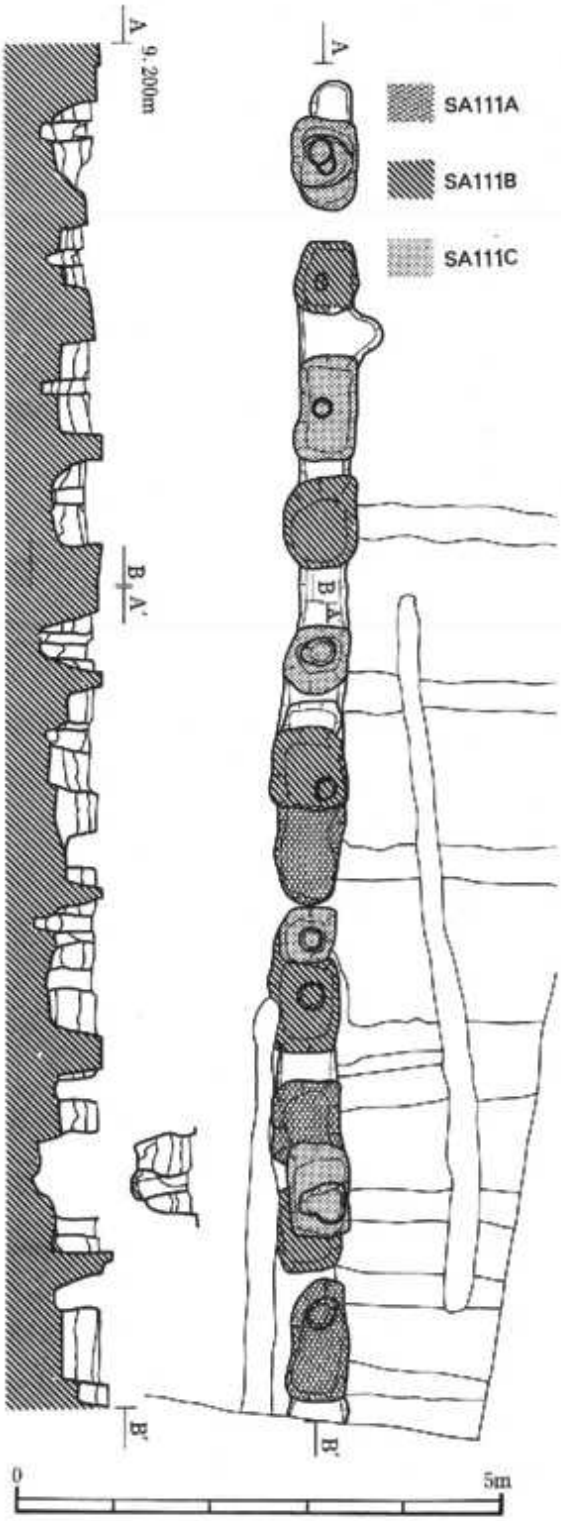
V　発見遺構と出土遺物

1．塀　　跡

ＳＡ111一本柱塀跡　調査区東端部で検出した。当初、溝跡と考えられたが、精査の結果３期にわたって重複する一本柱列による塀跡と判明した。柱穴列は調査区の北・南方向にさらに延びる。重複関係から、古い順にＳＡ111Ａ、Ｂ、Ｃとした。

［ＳＡ111Ａ］長さ2間以上・総長4.50m以上（柱間寸法145cm）一本柱列で、方向はＮ-0°-Ｗである。柱穴は隅丸長方形を呈し、44～68cm×88～122cmを計る。3基の柱穴のすべてに抜き取り穴が見られる。柱痕跡は直径22～32cmで、深さは35～47cmを計る。柱穴埋土は褐色・にぶい黄褐色シルト・黄褐色粘土質シルトである。柱穴からは土師器Ｃ-13坏片（線刻文字『玉』）（第21図2）を始め、土師器坏・高台付坏・甕片、須恵器坏・高台付坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。柱抜取穴からは須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕片が出土している。SD112・143・156・157を切り、SA111B･Cに切られている。

［SA111B］　長さ4間以上・総長9.75m以上（柱間寸法180～200cm）の一本柱列で、方向はＮ-0°-Ｓである。柱穴は隅丸長方形を呈し、60～78cm×72～120cmを計る。柱痕跡は直径18～32cmで深さは60～66cmを計る。柱穴埋土は明黄褐色・褐色粘土質シルト、暗褐色粘土である。



第４図　ＳＡ111塀跡平面、断面図

須恵器E-3円面硯片（第24図6）、須恵器E-16蓋（第21図1）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。SA111A、SD114を切り、SA111C、SD105に切られている。

［SA111C］　長さ4間以上・総長10.70m以上（柱間寸法250～270cm）の一本柱列で、方向はN-0°-Sである。柱穴は隅丸長方形を呈し、48～66cm×54～104cmを計る。柱痕跡の直径は30～32cmで、深さは53～65cmを計る。柱穴埋土はにぶい黄褐色粘土質シルト、黒褐色粘土である。多量の土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。

2．掘立柱建物跡

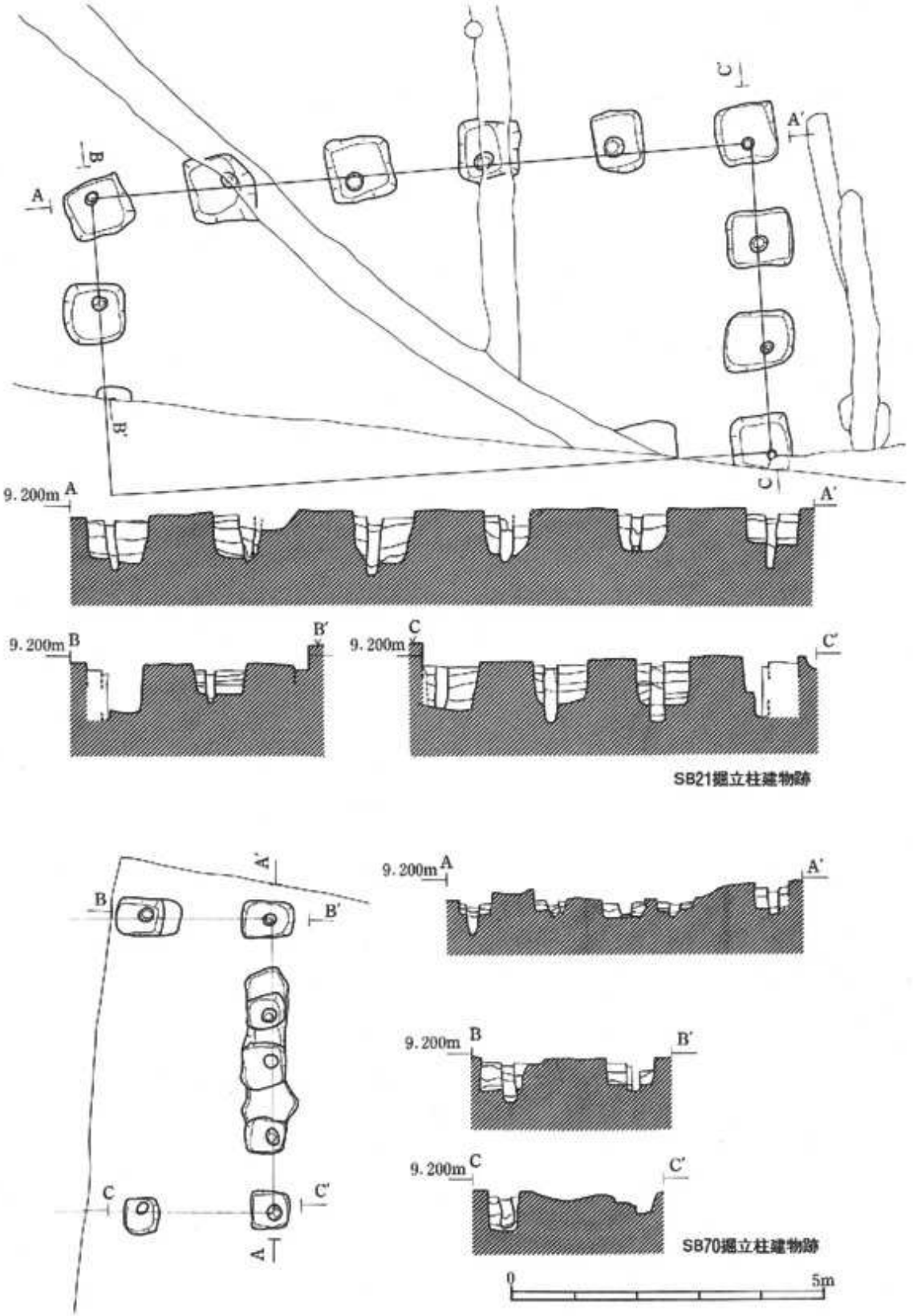
SB21掘立柱建物跡　桁行5間・総長10.50m（柱間寸法210cm）、梁行3間・総長5.00m（柱間寸法（160～170cm）の東西棟で、建物方向はE-5°-Nである。柱穴は隅丸長方形を呈し、76～108cm×90～102cmを計る。柱痕跡は直径18～26cm、深さ50～85cmを計り、柱穴埋土は灰黄褐色・褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器蓋片が出土している。

SB45掘立柱建物跡　桁行3間・総長6.90m（柱間寸法220～250cm）、梁行2間・総長4.00m（柱間寸法200cm）の東西棟で、建物方向はE-6°-Nである。柱穴10基の内、9基は柱抜取穴が見られる。柱穴は隅丸長方形を呈し、46cm以上×52cm以上と推定される。柱抜取穴は直径24～72cm、深さ36～64cmを計る。柱痕跡は直径14～28cm、深さ36～64cmを計る。柱穴埋土は褐色・明黄褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色・暗褐色・にぶい黄橙色粘土質シルト、褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色・暗褐色粘土である。土師器坏片、須恵器蓋片、鉄滓、用途不明の土製品が出土している。

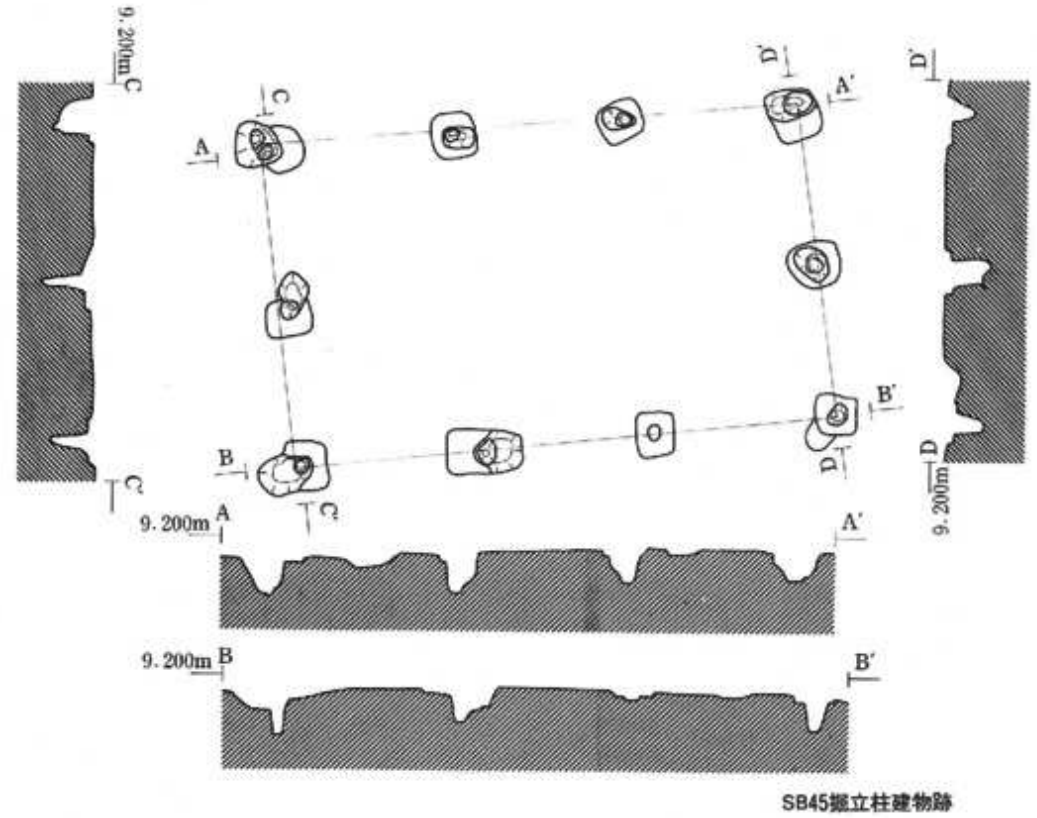
SB70掘立柱建物跡　調査区北西部で建物の東側を検出した。調査区外西側に建物が続いており、全容は不明である。東西1間以上・総長1.00m以上（柱間寸法100cm）、南北4間・総長4.70m（柱間寸法　北から150cm、75cm、125cm、120cm）の掘立柱建物跡で、方向はN-1°-Wである。柱穴は隅丸長方形を呈し、53～82cm×50～70cmを計る。柱痕跡は直径18～22cm、深さ21～64cmを計る。南北列の柱穴の内、南2・3・4東1は上幅64～88cm、長さ296cm、深さ14～18cmの布掘りになっている。柱穴埋土は黄褐色・明黄褐色・にぶい黄橙色シルト、灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。

SB100掘立柱建物跡　調査区南東部で建物の北側を検出した。調査区外南側に建物が続いており、全容は不明である。桁行2間以上・総長3.40m以上（柱間寸法170cm）、梁行2間・総長4.00m（柱間寸法　西から210cm、190cm）の南北棟で、建物方向はN-1°-Wである。柱穴は隅丸長方形を呈し、50～64cm×54～68cmを計る。柱痕跡は直径14～18cm、深さ34～50cmを計る。柱穴埋土は褐色・にぶい黄橙色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片が出土している。SD86、SK99を切っている。

SB110掘立柱建物跡　調査区北端部で建物の南西隅を検出した。調査区外北側に建物が続いており、全容は不明である。東西2間以上・総長3.10m以上（柱間寸法、平均155cm）、柱穴は



第5図　SB21、SB70掘立柱建物跡平面、断面図



第6図　SB45・SB100掘立柱建物跡平面、断面図

検出されなかったが、南北1間以上の掘立柱建物跡で、方向はE-9°-Nである。柱穴は隅丸長方形を呈し、40cm×46cmを計る。柱痕跡の直径は12cmである。

3．土　　坑

ＳＫ3土坑　平面形は直径約120cmのほぼ円形を呈し、深さは47cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトである。土師器坏片、須恵器坏片、陶器片、鉄滓が出土している。

ＳＫ4土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸154cm、短軸128cm、深さ60cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに角度をもって立ち上がる。堆積土は灰黄褐色シルトである。須恵器坏・蓋片、瓦片、鉄滓が少量出土している。

ＳＫ5土坑　平面形は直径約130cmの円形を呈し、深さは19cmを計る。底面は平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏片が出土している。

ＳＫ6土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸144cm、短軸118cm、深さ21cmを計る。底面は凹凸があり、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色シルト・にぶい黄褐色粘土質シルトである。

ＳＫ7土坑　調査区西端で部分的に検出した。平面形は不整形を呈し、東西軸86cm、南北軸132cmを計り、深さ34cmを計る。壁は角度をもって立ち上がり、北東側に段を有する。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色・暗褐色・褐色粘土質シルト、明黄褐色シルトである。土師器坏片、須恵器蓋片が出土している。

ＳＫ8土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸119cm、短軸86cm、深さ28cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色・にぶい黄褐色・灰黄褐色・褐色シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。

ＳＫ9土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸122cm、短軸80cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

ＳＫ10土坑　平面形は不整形を呈し、長軸217cm、短軸114cm、深さ20cmを計る。底面は凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色・黒褐色粘土質シルトである。土師器C-5甕（第21図4）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。SK31を切っている。

ＳＫ11土坑　調査区西端で部分的に検出した。平面形は不整形を呈し、東西軸88cm以上、南北軸80cm、深さ38cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・明黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・壺片、鉄滓が出土している。

ＳＫ12土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸334cm、短軸243cm、深さ37cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってほぼまっすぐに立ち上がる。堆積土は５層に分けられ、灰黄褐色シルト、黒褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色・暗褐色シルトで、北東部2層中に多量の鉄滓、下部に炭化物・焼土を含む。土師器Ｃ-３壺（第21図8）、土師器Ｃ-7坏（第21図5）、土師器Ｃ　8坏（第21図6）、土師器Ｃ　11坏（第21図3）、須恵器Ｅ-3円面硯（第24図6）片、須恵器Ｅ-5高台付坏（第21図11）須恵器Ｅ-6高台付坏（第21図7）、須恵器Ｅ-17蓋（第21図10）、須恵器Ｅ-24坏（第21図9）を始め、土師器坏・高台付坏・高坏・甕片、須恵器坏・高坏・蓋・甕・壺片、用途不明の土製品が出土している。SK71・72を切っている。

ＳＫ13土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸93cm、短軸59cm、深さ11cmを計る。西壁は角度をもってまっすぐに、東壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器Ｃ-6壺（第21図13）が出土している。SK22を切っている。

ＳＫ16土坑　平面形は直径約60cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・暗褐色・にぶい黄褐色シルトである。土師器坏・甕片、須恵器甕片、用途不明の土製品が出土している。

ＳＫ17土坑　平面形は不整形を呈し、長軸88cm、短軸70cm、深さ23cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器甕片が出土している。

ＳＫ18土坑　平面形は直径60cmのほぼ円形を呈し、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は褐色・黄褐色粘土質シルトである。

ＳＫ19土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸95cm、短軸84cm、深さ10cmを計る。西壁は角度をもって、東壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。

ＳＫ20土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸94cm、短軸61cm、深さ20cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・暗褐色・黄褐色粘土質シルトで、炭化物、焼土を部分的に含む。土師器坏片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓、小玉石が出土している。

ＳＫ22土坑　平面形はほぼ長方形を呈し、長軸208cm、短軸67cm、深さ27cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色シルトで、下部に炭化物を少量含む。土師器坏片、須恵器坏・蓋片が出土している。SK13に切られている。

ＳＫ23土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸65cm、短軸46cm、深さ13cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土は黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。

ＳＫ24土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸144cm、短軸90cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって外反しながら立ち上がる。堆積土は黄褐色粘土質シルトである。

SK81を切り、SD15に切られる。

ＳＫ26土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸170cm、短軸90cm、深さ44cmを計る。底面は北側がやや凹み、南壁はほぼ垂直に、北壁は角度をもって立ち上がる。堆積土は褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器甕片、鉄滓が出土している。

ＳＫ27土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸113cm、短軸110cm、深さ14cmを計る。底面はゆるやかな凹凸があり、南壁はほぼ垂直に、北壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色・黄褐色粘土質シルトである。SK28・41を切っている。

ＳＫ28土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸129cm、短軸98cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色シルトである。SK27に切られている。

ＳＫ31土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸81cm以上、短軸52cm、深さ29cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器E-20蓋（第21図12）を始め、土師器甕片が出土している。SK10に切られている。

ＳＫ32土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸78cm、短軸68cm、深さ21cmを計る。底面は西側がやや凹み、壁は角度をもって立ち上がり、南壁に段を有している。堆積土は褐色シルトである。

ＳＫ33土坑　平面形はほぼ長方形を呈し、長軸84cm、短軸65cm、深さ36cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土は暗褐色・黒褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。

ＳＫ37土坑　東側は攪乱を受けて消滅している。平面形は不整形を呈し、長軸236cm以上、短軸153cm、深さ13cmを計る。底面は凹凸があり、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐色シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄製品、鉄滓が出土している。SK83・93・94を切っている。

ＳＫ39土坑　平面形は不整形で、長軸134cm、短軸108cm、深さ15cmを計る。底面は西側がやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器坏・蓋片が少量出土している。

ＳＫ40土坑　南側は攪乱を受けて消滅している。平面形は不整形を呈し、長軸342cm以上、短軸は69～144cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・黄褐色粘土質シルトで西部に部分的に焼土を含む。須恵器E-19蓋（第22図1）を始め、土師器坏片、鉄滓が出土している。

ＳＫ41土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、東西軸65cm、南北軸62cm以上、深さ6cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐色粘土質シルトである。SK27に切られている。

ＳＫ42土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸128cm、短軸71cm、深さ32cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器坏・蓋片、鉄滓が出土している。SK37・93を切っている。

ＳＫ47土坑　平面形は不整楕円形で、長軸130cm、短軸105cm、深さ94cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がり、上部で外反する。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色・暗褐色粘土である。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。SD59を切っている。

ＳＫ48土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸76cm、短軸57cm、深さ10cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はまっすぐに立ち上がる。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。

ＳＫ51土坑　平面形は直径約160cmのほぼ円形を呈し、深さ19cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色・にぶい黄褐色シルトである。土師器甕片、須恵器蓋片、鉄滓が出土している。

ＳＫ52土坑　調査区北端で部分的に検出した。平面形は直径167cm以上の円形を呈し、深さ36cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐灰色シルト、にぶい黄褐色粘土質シルト、暗褐色粘土である。土師器坏片が出土している。SD66・67を切っている。

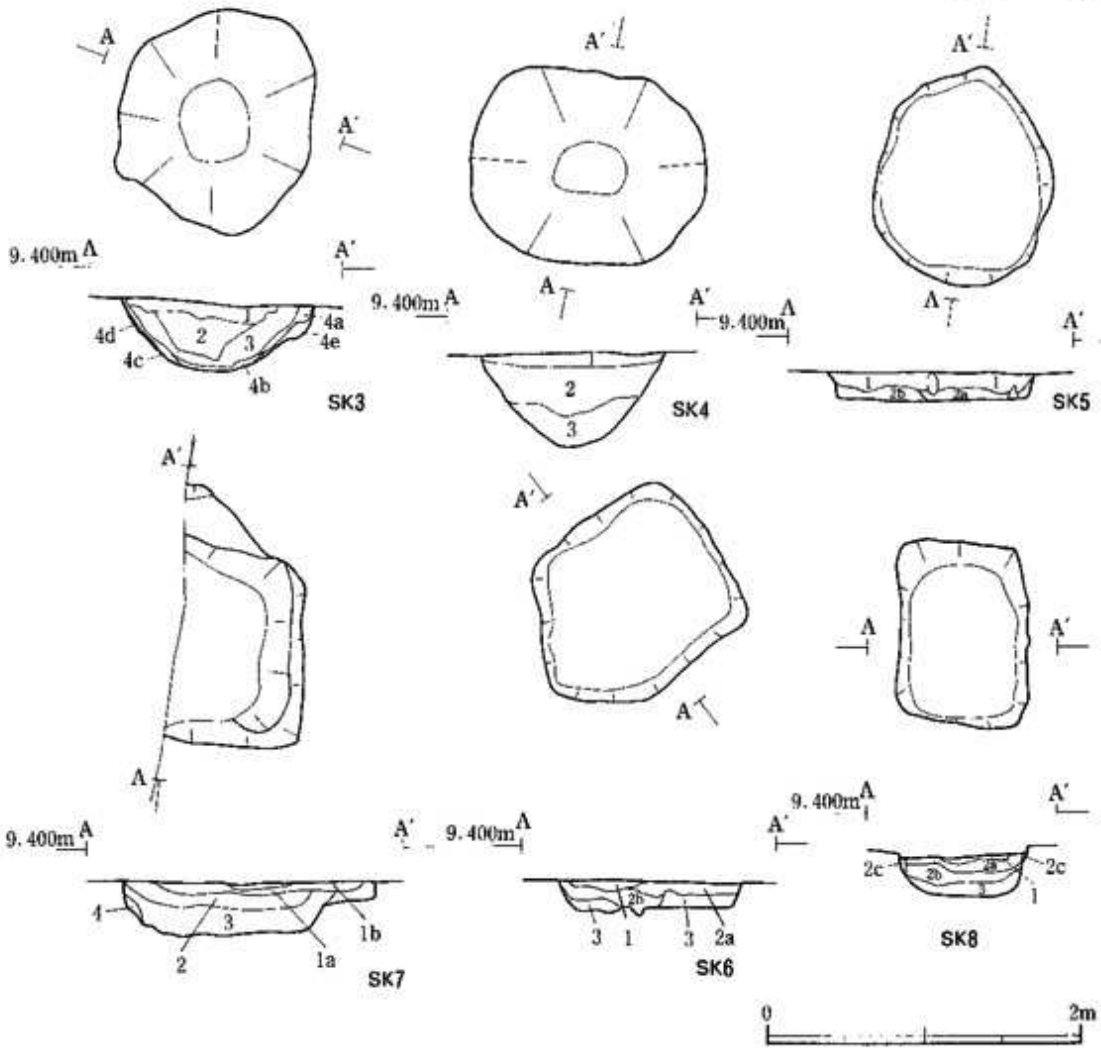
ＳＫ53土坑　調査区北端で部分的に検出した。平面形は不整形を呈し、長軸266cm以上、短軸67～203cm、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。

ＳＫ54土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸116cm、短軸56cm、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色粘土、暗褐色粘土質シルトである。SK55を切っている。

ＳＫ55土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸102cm、短軸75cm、深さ４cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトで、多量の炭化物を含む。SD54に切られている。

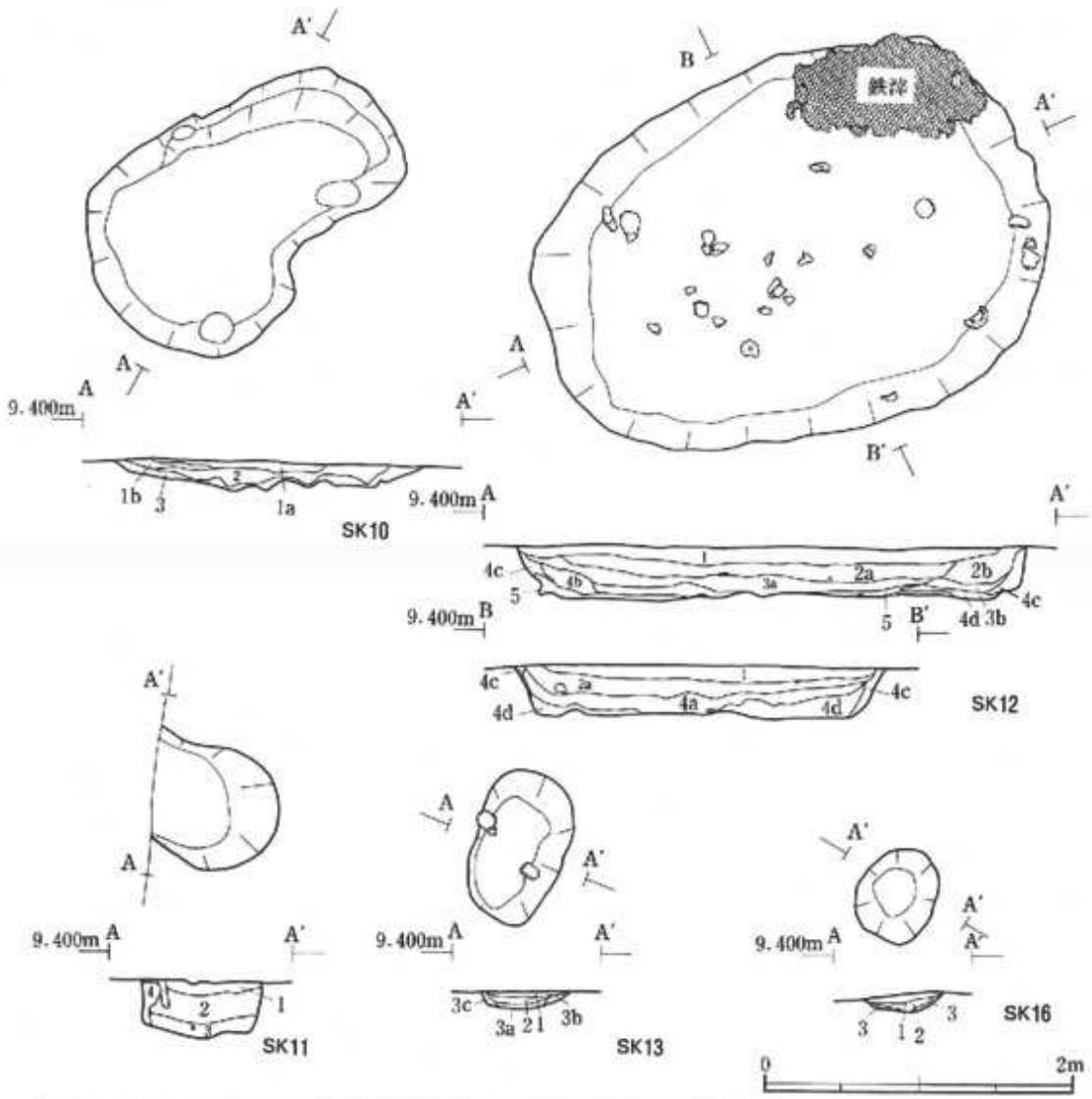
ＳＫ56土坑　平面形は直径66cmのほぼ円形を呈し、深さ23cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・明黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片が出土している。SD49を切っている。

ＳＫ57土坑　調査区北端で部分的に検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸245cm以上、短軸198cm、深さ15cmを計る。底面は凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器C-9坏（第24図3）を始め、土師器坏・甕片、須恵器蓋片・甕片が出土している。SB110を切り、SD44に切られている。



遺構名	層位	土色		土性	備考
SK3	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR3/1黒褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に含む。
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトを小ブロック状に含む。
	4a	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	4b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	4c	10YR4/2	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。
	4d	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトを部分的に含む。
	4e	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1褐灰色粘土質シルトを部分的に含む。
SK4	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR4/6褐色・10YR3/2黒褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色・10YR5/6黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色・10YR6/6明黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
SK5	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色シルトを小ブロック状に含む。
SK6	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2a	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR4/2灰黄褐色シルトをブロック状に含む。
	2b	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/2灰黄褐色シルトをブロック状に含む。
SK7	1a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/3	明黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト、10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを部分的に含む。
	3	10YR5/4	鈍黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR5/2灰褐色粘土質シルト、10YR5/8黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK8	1	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR3/1黒褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2a	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2b	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。
	2c	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR4/4	褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。

第7図　土坑平面・断面図



遺構名	層位	土色		土性	備考
SK10	1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルトを部分的に含む。
	1b	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含み、10YR3/3暗褐色粘土質シルトを多く含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを部分的に含み、炭化物を少量含む。
	3	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR5/3黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/8明黄褐色シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状にまばらに含み、炭化物を少量含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/8明黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR4/1褐灰色シルト、10YR6/4にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。
	2a	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に含み、炭化物を少量含む。
	2b	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR4/6褐色シルトを斑状に含む。
	3a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	3b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	4a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4b	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	4c	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。
	4d	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルトをブロック状に含み、10YR2/2黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。炭化物、焼土を少量含む。
	5	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。
	3層	遺構面よりに多量の鉄滓を含む。			
SK13	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	焼土粒を多く含む。炭化物を含む。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。焼土粒、炭化物を少量含む。
	3a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR5/6黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3c	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。
SK16	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロック状に含む。焼土を多く含む。炭化物を少量含む。
	3	10YR5/3	にぶい黄褐	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。

第8図　土坑平面・断面図

ＳＫ58土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸82cm、短軸61cm、深さ６cmを計る。底面はほぼ平坦で、東壁は角度をもって、西壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片が出土している。SD59に切られている。

ＳＫ61土坑　平面形は直径約100cmのほぼ円形を呈し、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、北壁は角度をもって、南壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・明黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器坏・蓋片、鉄滓が少量出土している。SD60を切り、SD59に切られている。

ＳＫ62土坑　北側は攪乱を受けて消滅している。平面形は直径約80cmのほぼ円形を呈し、深さ21cmを計る。底面は凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器蓋片、土師器坏片、鉄滓が出土している。

ＳＫ63土坑　南側は攪乱を受けて消滅している。平面形は不整形を呈し、東西軸78cm、南北軸56cm以上、深さ24cmを計る。東壁は角度をもって、西壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。

ＳＫ64土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸84cm以上、短軸72cm、深さ19cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がり、深さ19cmを計る。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトで、土師器坏片、須恵器坏片が少量出土している。SD59に切られている。

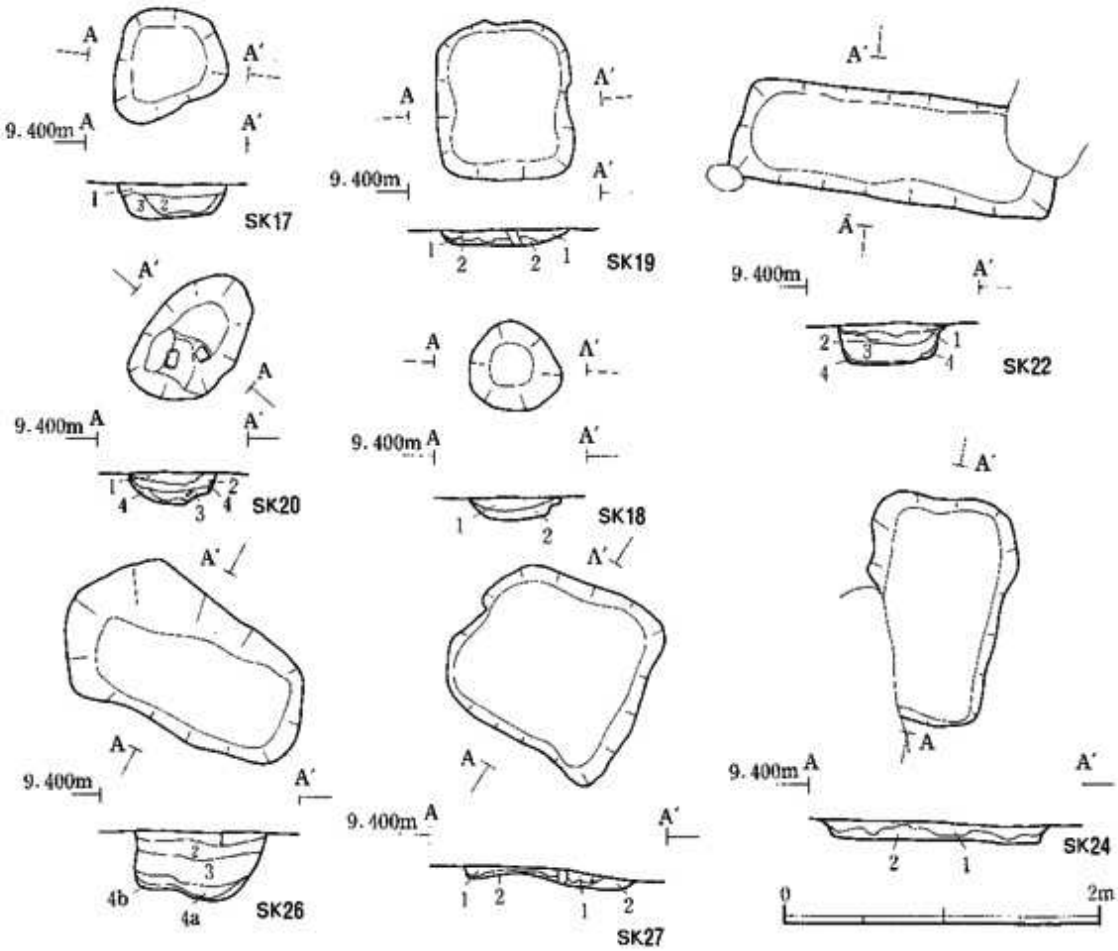
ＳＫ65土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸72cm、短軸50cm、深さ20cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトで、炭化物を少量含む。SD66を切っている。

ＳＫ69土坑　東側は攪乱を受けて消滅している。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸72cm以上、短軸54cm、深さ12cmを計る。南壁はほぼ垂直に、北壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。

ＳＫ71土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸57cm以上、短軸45cm、深さ28cmを計る。底面はやや凹み、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がり、西側に段を有する。堆積土はにぶい黄褐色・黄褐色・明黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器蓋片、鉄滓が少量出土している。SK12に切られている。

ＳＫ72土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸54cm以上、短軸27cm、深さ17cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。SK12に切られている。

ＳＫ73土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸84cm以上、短軸72cm、深さ48cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトが互層をなす。土師器坏・甕片が出土している。SD1に切られている。



遺構名	層位	土色	土性	備考
SK17	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
SK18	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	10YR5/8黄褐色シルト、10YR2/0暗褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4鈍黄褐色粘土質シルト、10YR4/6褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK19	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/6褐色粘土質シルト、10YR3/1暗褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルトをブロック状に含み、10YR5/6黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK20	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルト、10YR6/6明黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒を含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を含む。
	4	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK24	1	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
SK26	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質がまばらに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4黄褐色粘土質シルトをまばらに含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK27	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。

第9図　土坑平面・断面図

ＳＫ74土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸166cm、短軸133cm、深さ25cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ちあがる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトで、土師器坏・甕片が少量出土している。SK75を切り、SD1に切られている。

ＳＫ75土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸104cm以上、短軸53cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。SK74に切られている。

ＳＫ81土坑　平面形は不整形を呈し、長軸120cm、短軸36cm以上、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。SK81に切られている。

ＳＫ83土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸164cm以上、短軸147cm、深さ18cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである SK37に切られている。

ＳＫ87土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸168cm、短軸66cm、深さ13cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである 土師器坏片が出土している。SD88、SD150を切っている。

ＳＫ89土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸60cm以上、深さ23cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がり、南壁に段を有する。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器C−18蓋（ツマミ部分）（第22図2）、須恵器E 9高台付坏（第22図4）を始め、土師器坏・甕片、須恵器蓋片が出土している。SD136を切り、SD36に切られている。

ＳＫ90土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸166cm、短軸114cm、深さ40cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色シルトで、下部に焼土を少量含む。土師器坏・甕片、須恵器蓋・甕片、陶器片が出土している。SD79・142・143を切り、SK140に切られている。

ＳＫ93土坑　平面形は不整楕円形を呈し、東西軸50cm以上、深さ21cmを計る。底面はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。SK37を切り、SK42に切られている。

ＳＫ94土坑　平面形は不整楕円形を呈し、長軸93cm、短軸49cm、深さ38cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。SK37に切られている。

ＳＫ95土坑　平面形は直径約86cmの不整円形を呈し、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。

ＳＫ98土坑　平面形は楕円形を呈し、長軸153cm、短軸92cm、深さ38cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色・褐色・暗褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器D-4坏（ロクロ使用）（第22図5）、須恵器Ｅ 3円面硯（第24図6）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・甕片が多量に出土している。

ＳＫ99土坑　平面形は直径約110cmのほぼ円形を呈し、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、東壁は角度をもって、西壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色・黄褐色の粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、用途不明の土製品が出土している。SD143を切り、SB100に切られている。

ＳＫ102土坑　平面形は不整形を呈し、東西軸76cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、西側がやや凹み、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・暗褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。SD14に切られている。

ＳＫ108土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸106cm、短軸75cm、深さ16cmを計る。底面はゆるやかな凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器坏・甕片、土師器坏・甕片が出土している。SD107を切っている。

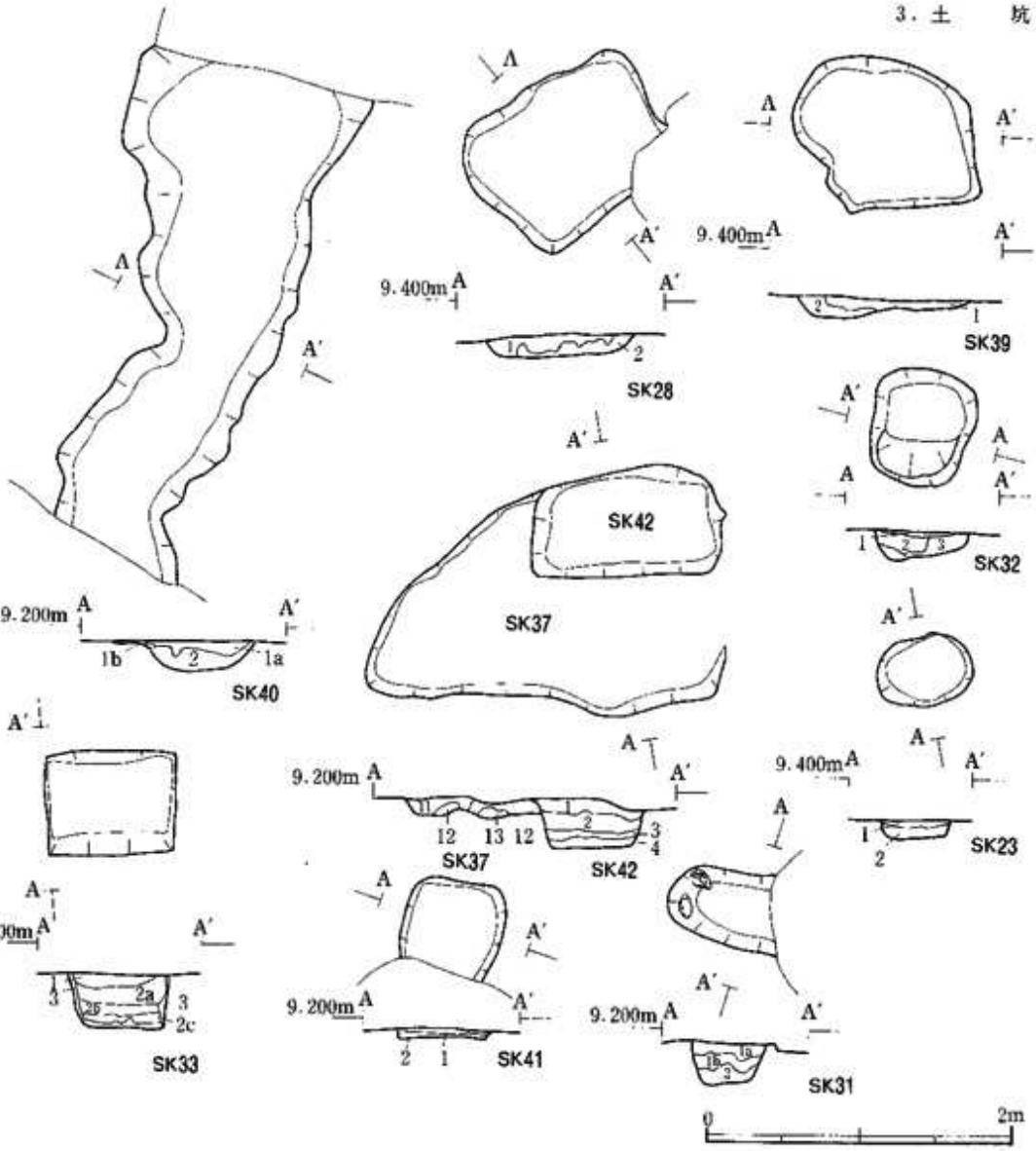
ＳＫ109土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸212cm、短軸114cm、深さ20cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトで、全体に焼土粒を含む。須恵器壺片、土師器坏・甕片、用途不明の土製品・石製品が出土している。SD103に切られている。

ＳＫ134土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸77cm、短軸61cm、深さ22cmを計る。底面はほぼ平坦で、東壁はほぼ垂直に、西壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトで、上部に黒褐色の灰を含む。

ＳＫ135土坑　平面形は不整形を呈し、長軸341cm、短軸33～164cm、深さ19cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルト、暗褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土で、須恵器坏・蓋片、土師器坏・甕片が出土している。SD96・97・107に切られている。

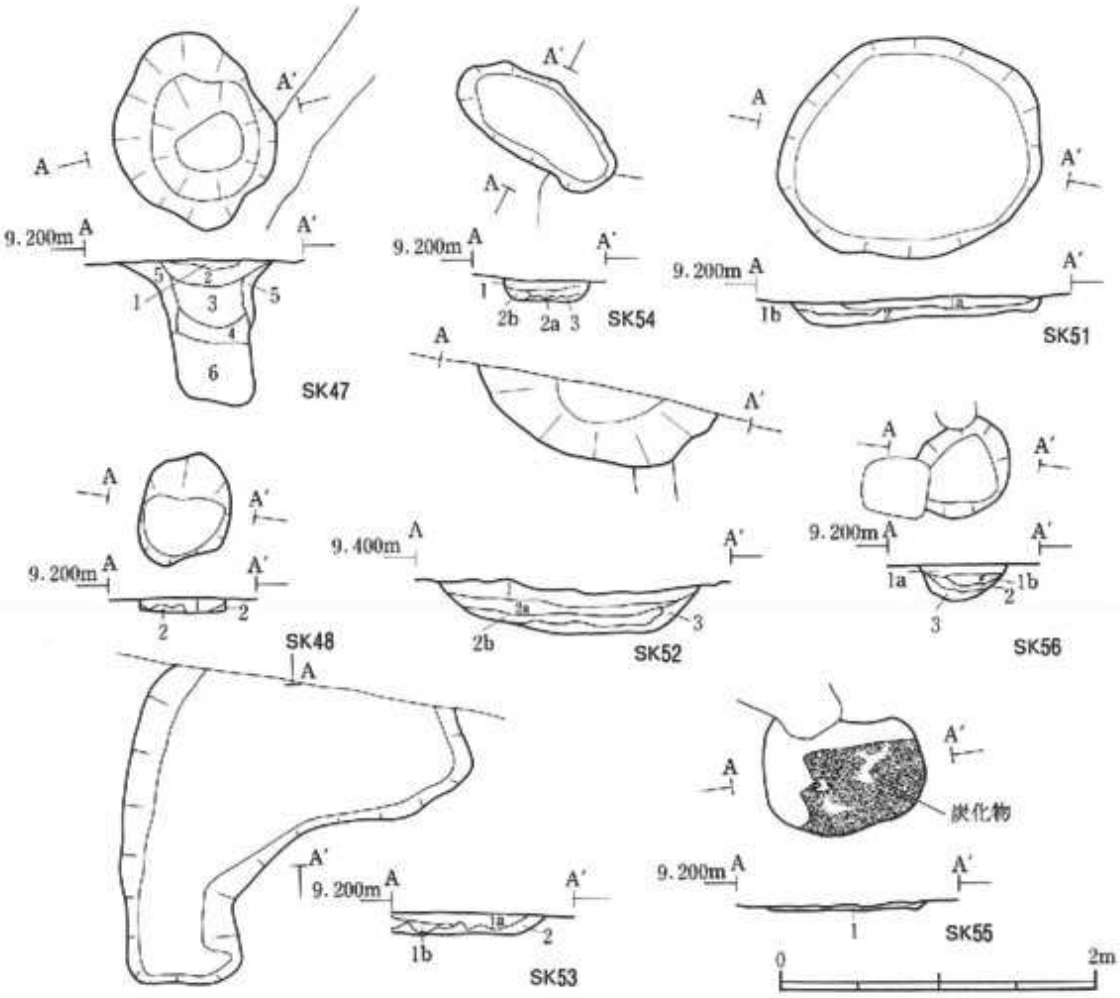
ＳＫ139土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸247cm、短軸94cm、深さ34cmを計る。底面はゆるやかな凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色・灰黄褐色粘土質シルトで部分的に焼土粒、炭化物を含む。須恵器Ｅ 15蓋（第22図6）、須恵器Ｅ-18蓋（第22図8）、土製品Ｐ 1紡錘車（第22図3）をはじめ、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、用途不明の土製品、鉄滓が出土している。

ＳＫ140A土坑　SK140Bの土層観察中に確認した。平面形は不明である。SK140Bの断面から長軸224cm、短軸136cm、深さ32cmと推定される。底面はゆるやかな凹凸があり、壁は角度をも



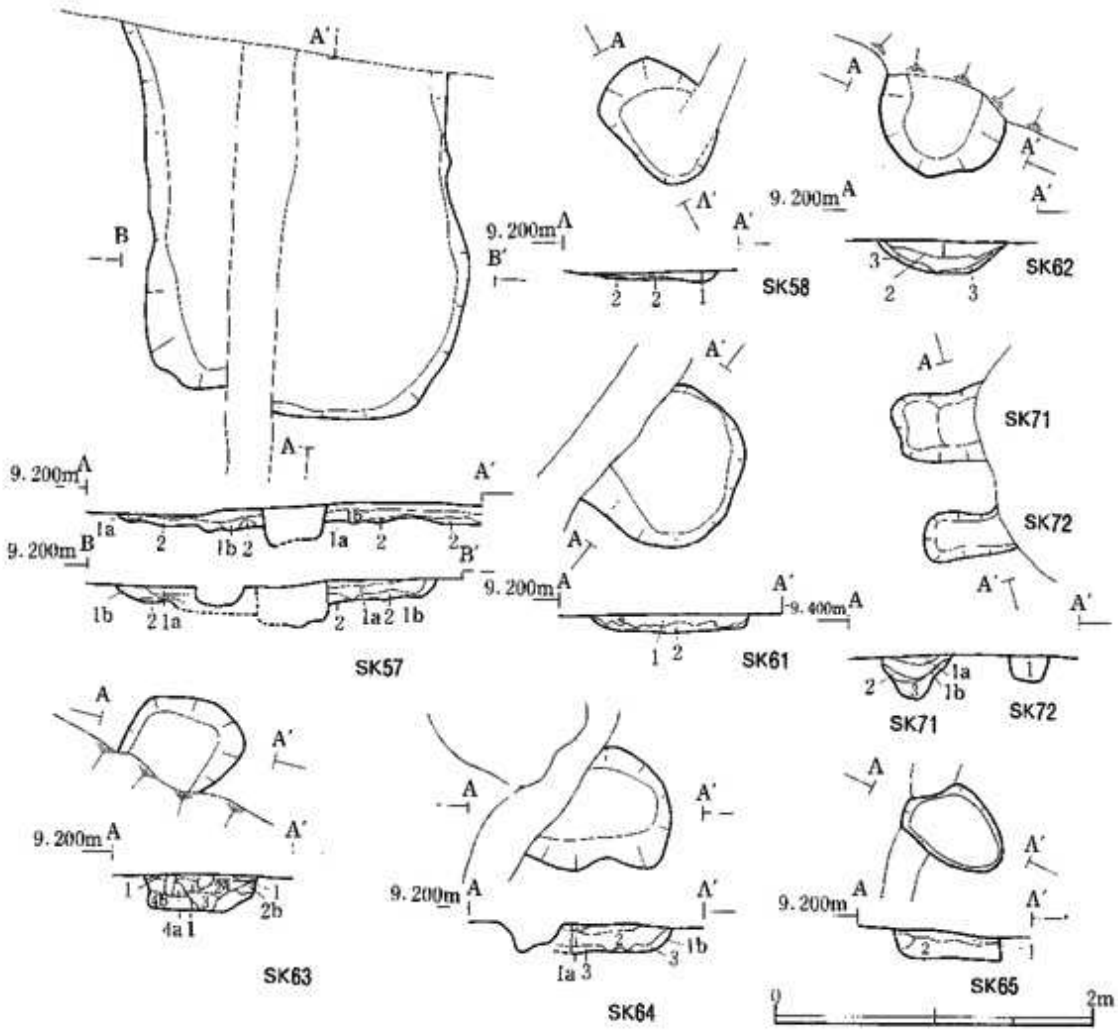
遺構名	層位	土色		土性	備考
SK28	1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを縞状に含む。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK37	1a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを縞状に含む。
	1b	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
SK32	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを含む。
SK33	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘土粒を含む。
	2b	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	2c	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK37	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを含む。
SK39	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK40	1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	1b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。焼土を含む。
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK41	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色シルトを小ブロック状に含む。炭化粒を含む。
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを縞状に含む。
SK42	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをまばらに含む。

第10図　土坑平面・断面図



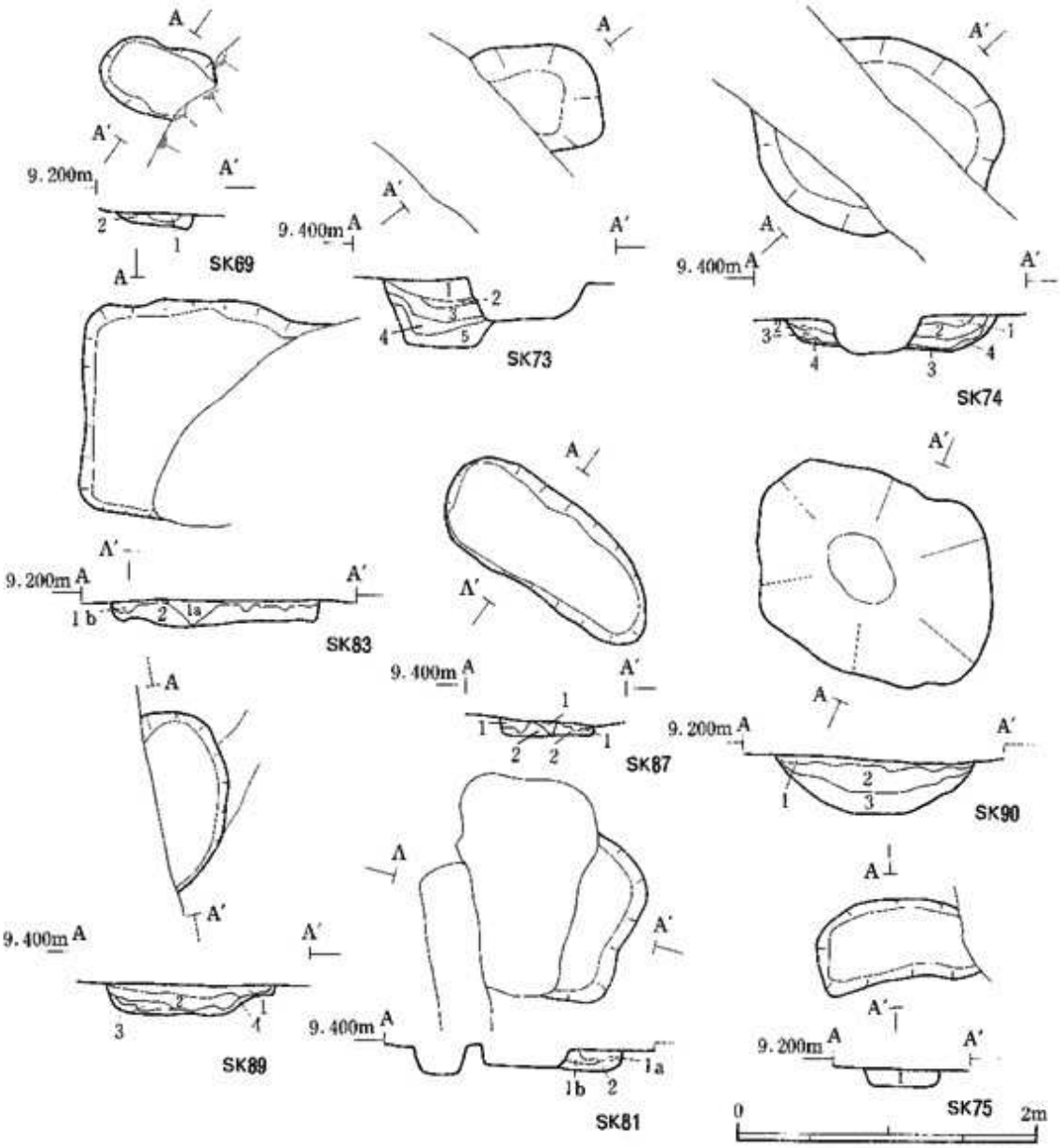
遺構名	層位	土色	土性	備考
SK47	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含み、10YR5/4にぶい黄褐色シルトを斑状に含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	10YR3/3黒褐色粘土を小ブロック状に含み、10YR3/3にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含み、10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土	10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含み、10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。
SK48	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	10YR6/3黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/6 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK51	1a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトを小ブロック状に含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含み、10YR2/2黒褐色粘土を斑状に含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土、10YR2/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK52	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR4/1褐灰色シルトを小ブロック状に含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR2/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3灰黄褐色粘土を小ブロック状に含む。炭化物を少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土	10YR3/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK53	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR3/3暗褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK54	1	10YR3/3 暗褐色	粘土	10YR3/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土をブロック状に含み、10YR4/2灰黄褐色粘土を小ブロック状に含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土	10YR4/4褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK55	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色粘土質シルトをブロック状に含む。多量の炭化物を含む。
SK56	1a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト、10YR3/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
	1b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土、10YR3/2黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂、10YR3/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。

第11図　土坑平面・断面図



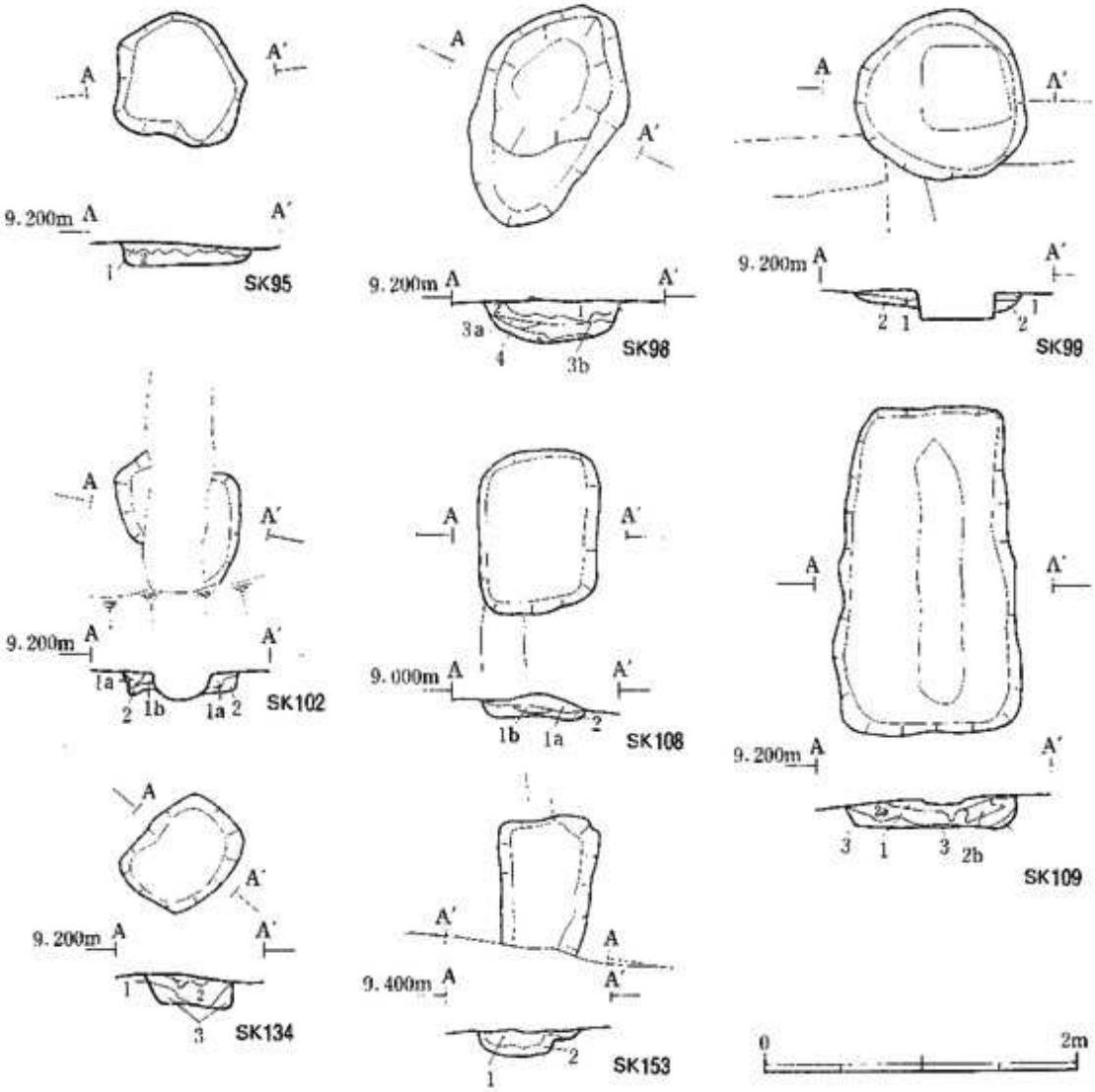
遺構名	層位	土色		土性	備考
SK57	1a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1褐灰色粘土を小ブロック状に含む。
SK58	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/1黄褐色粘土をブロック状に含む。
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6明黄褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK61	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/1褐灰色粘土、10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK62	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含む。
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含む。
	3	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK63	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/6黄褐色粘土質シルト、10YR3/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
	2a	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2b	10YR5/4	明褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR3/2黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	4a	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4b	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトがまじりあい10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含む。
SK64	1a	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト、10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含む。
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土がまじりあう。
SK65	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。
	2	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土、10YR4/3にぶい黄褐色粘土を小ブロック状に含む。
	ハード	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK71	1a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを含む。
	1b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
	2	10YR3/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK72	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。

第12図　土坑平面・断面図



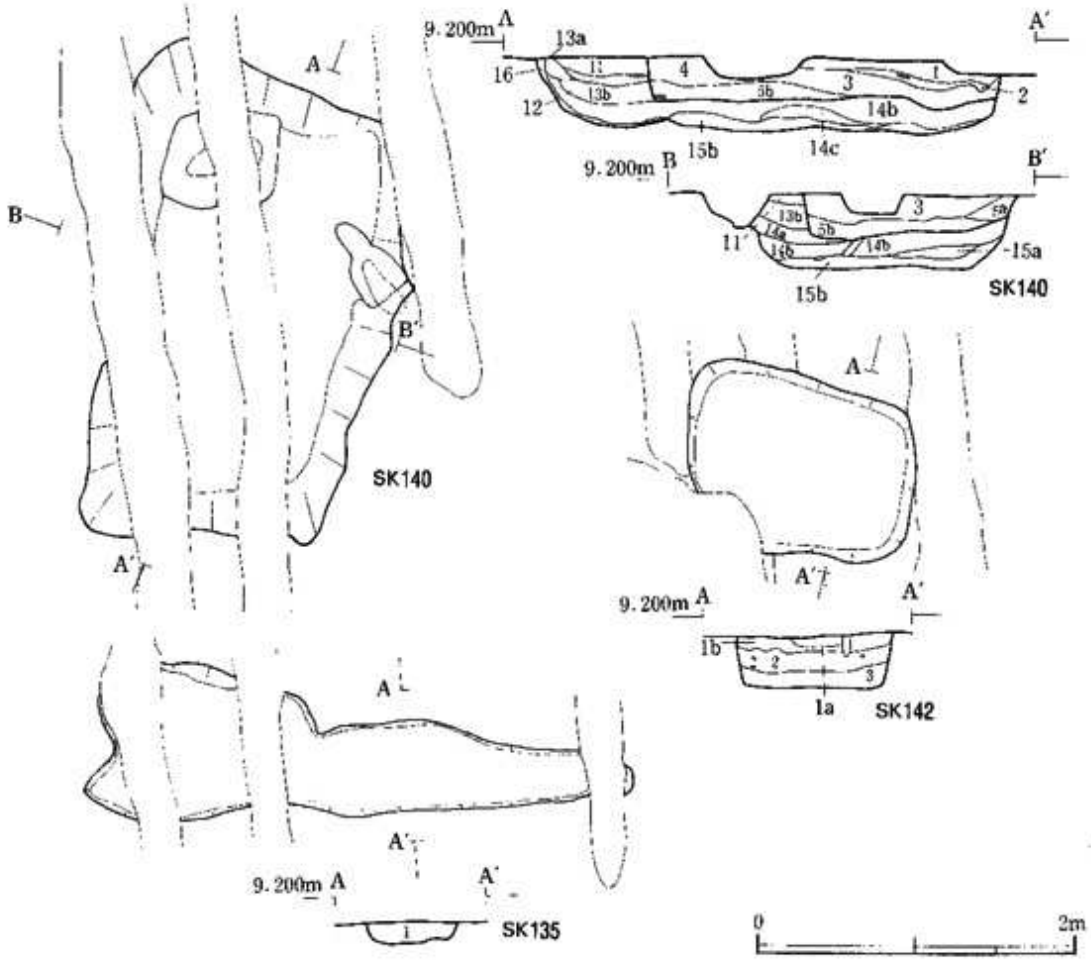
遺構名	層位	土色		土質	備考
SK69	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK73	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/1	褐灰色	粘土質シルト	10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に含む。
SK74	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	4	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に含む。
SK75	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK81	1a	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK83	1a	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR3/1黒褐色粘土をブロック状に含む。
	1b	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK87	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK89	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を多量に含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を少量、焼土粒を多量に含む。
	4	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
SK90	1	10YR6/3	灰黄褐色	シルト	
	2	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色粘土質シルト、10YR3/3にぶい黄褐色粘土質シルトを縞状に含む。
	3	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/2灰黄褐色粘土質シルト、10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。

第13図　土坑平面・断面図



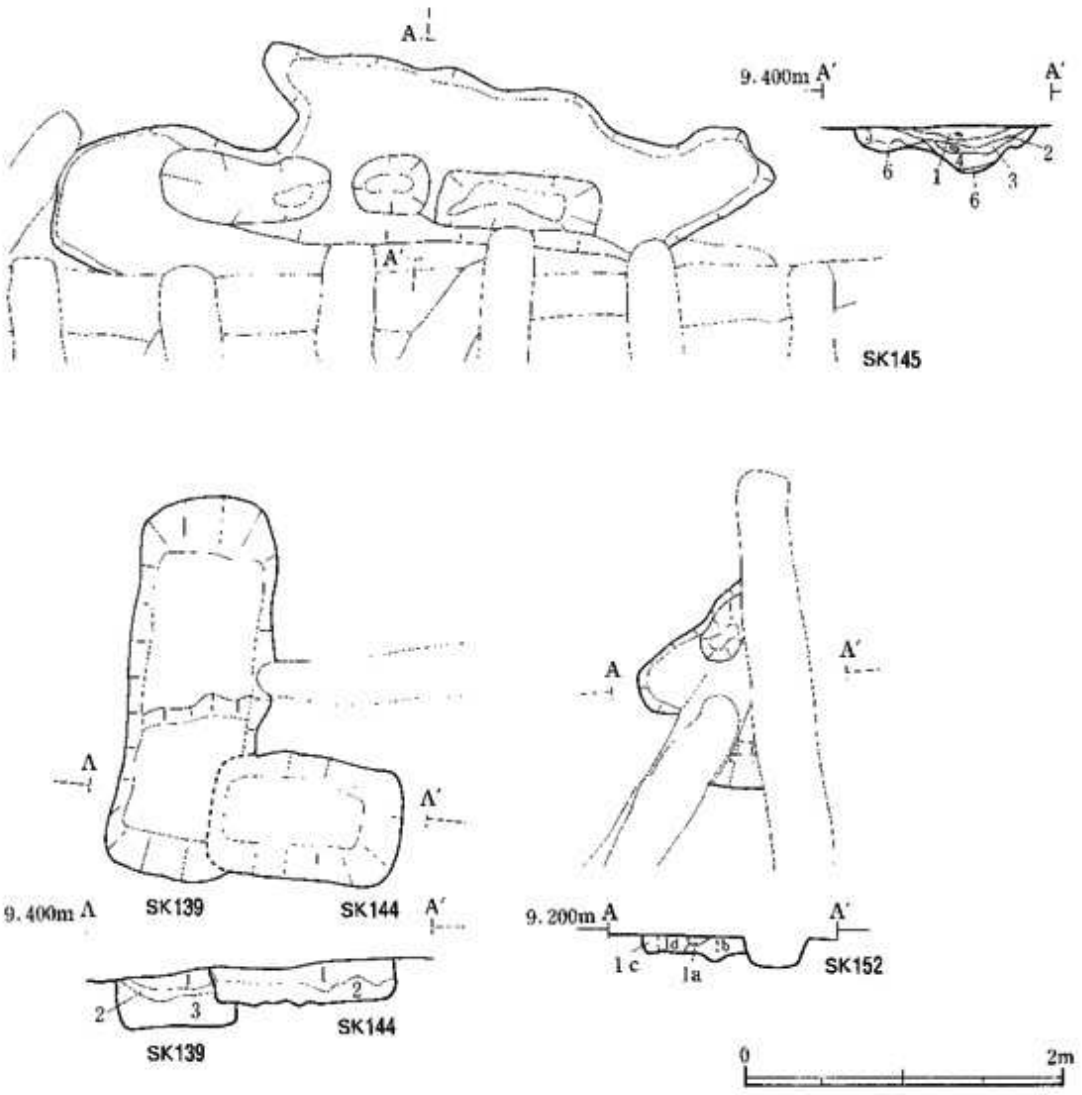
遺構名	層位	土色	土質	備考
SK95	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/2にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK98	1	10YR4/2 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/6にぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
	3a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。焼土粒を少量含む。
	3b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を含む。焼土粒を多量に含む。骨、炭を含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK99	1	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK102	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR2/1黒褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK108	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。炭化物、焼土粒を含む。10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトを部分的に含む。
	1b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土をブロック状に含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR5/3にぶい黄褐色粘土を小ブロック状に含む。
SK109	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に含む。焼土粒を少量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に含む。炭化物を多量に含む。2～5mmの小石を少量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。焼土粒を含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
SK134	-	10YR7/1 灰白色	砂	炭化物を多量に含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土を部分的に含む。
SK153	1	10YR7/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色粘土質シルト、10YR2/1黒褐色粘土を斑状に含む。炭化物、焼土を含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。

第14図　土坑平面・断面図



遺構名	層位	土	色	土	性	備	考
SK135	1	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト		10YR6/2灰色粘土質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。10YR3/2黒褐色粘土を部分的に含む。	
SK140A	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト		10YR4/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。	
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト		10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を含む。焼土をブロック状に含む。	
	3	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。	
	5a	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/2灰黄褐色粘土を部分的に含む。	
	5b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト		10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を含む。	
SK140B	11	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト		10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。	
	12	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト		10YR2/2黒褐色シルトが混じり合い、下層面に炭化物と焼土のブロックを含む。	
	13a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR3/6黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。	
	13b	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。	
	14a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト		10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。	
	14b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR6/2灰黄褐色粘土をブロック状に含む。炭化物を少量含む。	
	14c	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR5/2灰黄褐色シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土を全体に多量に含む。	
	15a	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/2灰黄褐色粘土を部分的に含む。	
	15b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に含む。	
	16	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト		10YR5/6黄褐色粘土質シルト、10YR3/2黒褐色粘土をブロック状に含む。炭化物、焼土粒を多く含む。	
SK142	1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト		10YR5/6にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土を少量含む。	
	1b	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト		10YR4/2灰黄褐色粘土を小ブロック状に含む。焼土粒を少量含む。	
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土		10YR6/6にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含み、土器若干点、礫数個を含む。	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土		10YR3/3暗褐色粘土を小ブロック状に含む。	

第15図　土坑平面・断面図



遺構名	層位	土色	土性	備考
SK139	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/2黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を多く含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR7/3にぶい黄褐色粘土質シルトを一部に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
SK144	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR3/1黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。焼土粒を少量含む。
SK145	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。焼土粒を含み、下面に炭化物、上面片を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。炭化物、焼土粒を含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR4/3灰黄褐色粘土をブロック状に含む。炭化物、焼土粒、上面片を含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトを薄膜に含む。炭化物を含む。10YR4/3黒褐色粘土質シルトを薄膜に含む。10YR5/3炭化物を一部に含む。
	6	10YR7/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
SK152	1a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	1c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。炭化物、焼土粒を少量含む。
	1d	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土を小ブロック状に含む。焼土粒を微量含む。

第16図　土坑平面・断面図

ってまっすぐに立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。須恵器E・11高台付坏（第22図9）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片・鉄滓が出土している。SK140Bを切っている。

ＳＫ140B土坑　平面形は不整長方形を呈し、長軸270～332cm、短軸152～185cm、深さ48cmを計る。底面はゆるやかな凹凸があり、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は黒褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器D 2坏（ロクロ使用）（第22図10）土師器D-3坏（ロクロ使用）（第22図12）、須恵器E 3門面観（第24図6）片、須恵器E 14蓋（第22図7）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕、用途不明の土製品、鉄滓が出土している。

ＳＫ142土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸150cm、短軸114cm、深さ34cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルト、粘土で全体に炭化物、焼土を含む。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。SD79・80・84を切り、SK90に切られている。

ＳＫ144土坑　平面形は隅丸長方形を呈し、長軸102cm以上、短軸82cm、深さ30cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。SX149を切り、SK139に切られている。

ＳＫ145土坑　平面形は不整形を呈し、長軸454cm、短軸65～140cm以上、深さ31cmを計る。底面は凹凸があり、壁はゆるやかな段をもって立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトで、部分的に炭化物の集中が見られる。土師器C 10坏（第22図13）、土師器C-14坏片（線刻文字『玉』）（第23図3）、土師器C 15坏片（線刻文字『玉』）（第23図5）、土師器C-16坏片（線刻文字『玉』）（第23図2）、土師器C 17坏片（線刻文字『玉』）（第23図6）、須恵器E-7稜碗（第23図1）、須恵器E 10坏（第22図14）、須恵器E-21蓋（第22図11）を始め、多量の土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、用途不明の土製品、鉄滓、小玉石が出土している。SD84・85・86・96・130・132・146に切られている。

ＳＫ152土坑　平面形は不整形を呈し、東西軸75cm以上、深さ20cmを計る。底面はやや凹み、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトで、焼土粒、炭化物を少量含む。SD36に切られている。

ＳＫ153土坑　平面形は不整長方形で、長軸84cm以上、短軸58cm、深さ18cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がり、西側に段を有する。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器C-4坏（第23図4）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片、土製品（土錘）が出土している。SD104を切っている。

ＳＫ154土坑　平面形、断面形とも不明である。長軸381cm以上、短軸59cm以上、深さ14cmを計る。堆積土は灰黄褐色・明黄褐色・にぶい黄褐色シルトである。須恵器E-3門面観（第24図6）片を始め、土師器坏・甕片が出土している。SD101・103・143に切られている。

4．溝　　跡

ＳＤ1溝跡　総長1.32m以上、上幅44～84cm、下幅18～50cm、深さ28～34cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色シルト、黒褐色・にぶい黄褐色・褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器蓋片、鉄滓、小玉石が出土している。方向はE-42°-Sである。SB21、SD2、SK73・74を切っている。

ＳＤ2溝跡　総長7.40m以上、上幅34～54cm、下幅20～38cm、深さ20～24cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器蓋・甕片、鉄滓が出土している。方向はN-2°-Wで、SB21を切り、SD1に切られている。

ＳＤ14溝跡　総長4.20m以上、上幅38～44cm、下幅18～32cm、深さ22cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋片、鉄滓、用途不明の土製品が出土している。方向はN-2°-Wである。SD15、SK102を切っている。

ＳＤ15溝跡　総長3.00m以上、上幅32～64cm、下幅16～26cm、深さ21cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は黄褐色・褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏片が出土している。方向はN-11°-Wである。SK24を切り、SD14に切られている。

ＳＤ29溝跡　総長3.00m、上幅23～38cm、下幅11～22cm、深さ8cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片が少量出土している。方向はN 34°-Eである。SD30を切っている。

ＳＤ30溝跡　総長2.90m、上幅18～32cm、下幅16～22cm、深さ9cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。方向はN-5°-Wである。SD29に切られている。

ＳＤ34溝跡　総長3.30m、上幅29～40cm、下幅14～22cm、深さ18cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。方向はN-44°-Eである。

ＳＤ35溝跡　総長4.38m、上幅15～28cm、下幅8～13cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏片が少量出土している。方向はE-1°-Sである。

ＳＤ36溝跡　総長9.08m、上幅28～41cm、下幅19～31cm、深さ20cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は褐色・黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。方向はN-8°-Wである。SD88・137・138、SK89・152、SX149を切っている。

ＳＤ38溝跡　総長5.28m、上幅18～43cm、下幅10～32cm、深さ18cmを計る。底面はほぼ平坦で、

壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は褐色・黄褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片が出土している。方向はN-8°-Wである。SD136・138を切っている。

ＳＤ43溝跡　総長6.30m以上、上幅28～46cm、下幅18～29cm、深さ19cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。鉄製品N-1鉄鎌（第24図1）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓、用途不明の鉄製品が出土している。方向はN 5° Eである。SB110、SD68、SK76を切り、SD91に切られている。

ＳＤ44溝跡　総長3.57m以上、上幅28～38cm、下幅17～29cm、深さ10cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片、須恵器蓋・甕片が少量出土している。方向はN-1°-Eである。SK57を切っている。

ＳＤ46溝跡　総長4.54m以上、上幅24～48cm、下幅10～28cm、深さ13cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト、暗褐色シルトである。方向はN-10°-Wである。

ＳＤ49溝跡　総長2.34m以上、上幅18～26cm、下幅10～16cm、深さ11cmを計る。西壁はほぼ垂直に、東壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。方向はN-31°-Eである。SK56に切られている。

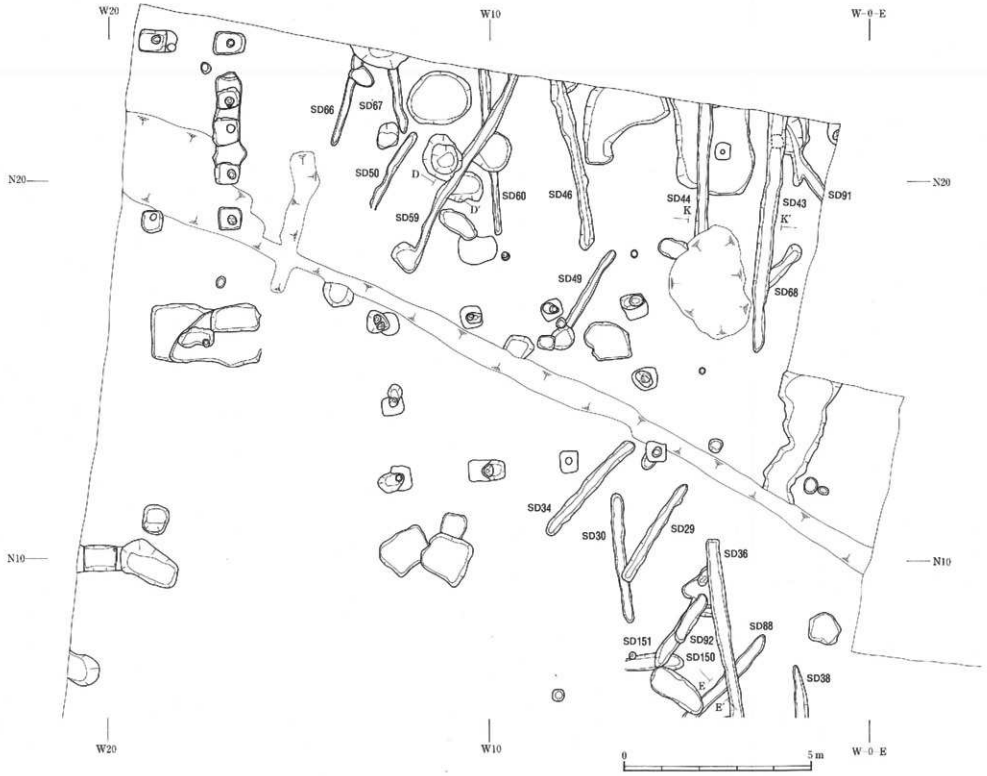
ＳＤ50溝跡　総長2.32m以上、上幅16～26cm、下幅10～19cm、深さ7cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼまっすぐに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・黄褐色粘土質シルトである。方向はN-30°-Eである。

ＳＤ59溝跡　総長5.98m以上、上幅18～34cm、下幅9～22cm、深さ21cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器蓋片が少量出土している。方向はN-28°-Eである。SD60、SK58・61・64を切り、SK47に切られている。

ＳＤ66溝跡　総長2.45m以上、上幅24～29cm、下幅14～20cm、深さ5cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色シルトである。方向はN 16°-Eである。SK52・65に切られている。

ＳＤ67溝跡　総長1.75m以上、上幅24～29cm、下幅14～20cm、深さ6cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はN-10°Wである。SK52に切られている。

ＳＤ68溝跡　総長1.32m以上、上幅28～32cm、下幅13～24cm、深さ11cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。方



第17図　溝跡平面図（北区）

向はN 47° Eである。SD43に切られている。

ＳＤ77溝跡　総長8.60m以上、上幅27～48cm、下幅15～26cm、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は黒褐色粘土質シルト、灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土である。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。方向はN-7°-Wである。SD129・143を切り、SK140に切られている。

ＳＤ78溝跡　総長8.56m以上、上幅26～38cm、下幅16～22cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は黒褐色粘土質シルト、灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土である。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。方向はN-7°-Wである。SD143を切り、SK140に切られている。

ＳＤ79溝跡　総長8.98m以上、上幅26～40cm、下幅12～28cm、深さ17cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、用途不明の土製品、鉄滓が少量出土している。方向はN-7°-Wである。SD128・130・143・146・147・148を切り、SK90・140・142に切られている。

ＳＤ80溝跡　総長9.18m以上、上幅26～40cm、下幅14～28cm、深さ17cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄橙色・にぶい黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色シルトである。須恵器E-15蓋（第22図6）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片が出土している。方向はN-7°-Wである。SD131・143・146・147・148を切り、SK142に切られている。

ＳＤ84溝跡　総長9.32m以上、上幅30～46cm、下幅16～22cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色シルト、黄褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。須恵器E-15蓋（第22図6）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、用途不明の土製品、鉄滓が出土している。方向はN 7°-Wである。SD131・132・143・146・147・148、SK145を切り、SK142に切られる。

ＳＤ85溝跡　総長9.50m以上、上幅26～50cm、下幅10～24cm、深さ13cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。須恵器E-15蓋（第22図6）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・甕・壺片、用途不明の土製品、鉄滓が出土している。方向はN-7° Wである。SD132・143・146・147・148、SK145を切っている。

ＳＤ86溝跡　総長9.68m以上、上幅29～36cm、下幅10～22cm、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。須恵器E-7稜碗（第23図1）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・甕・壺片、用途不明の土製品、焼成痕のある石が出土している。方向はN-7°-Wである。SD132・143・146・147・148、SK145を切り、SB100に切られている。

ＳＤ88溝跡　総長3.19m、上幅29～42cm、下幅22～28cm、深さ24cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片が出土している。方向はN-43°-Wである。SX149を切り、SD36、SK87に切られている。

ＳＤ91溝跡　総長2.26m以上、上幅30～34cm、下幅13～20cm、深さ24cmを計る。底面はやや凹凸があり、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器甕片が出土している。方向はN-20°-Wである。SD43、SK76を切っている。SD91を掘り下げ中にほぼ同規模で重複する溝跡を確認し、SD91′とした。総長は1.83m以上で、上幅、下幅は不明であるが、深さは24cmを計る。方向はN-3°-Wである。SD43・91、SK76を切っている。

ＳＤ92溝跡　総長1.45m、上幅30～40cm、下幅20～27cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色・褐色粘土質シルトである。方向はN-32°-Eである。SD151、SK152を切っている。

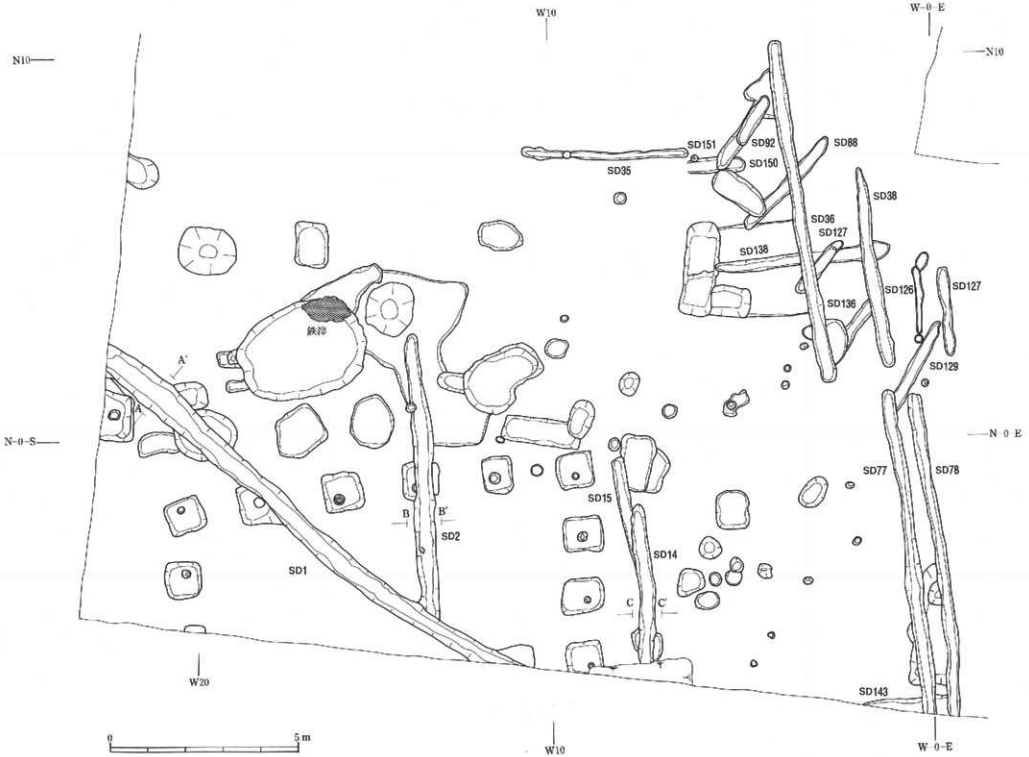
ＳＤ96溝跡　総長6.84m、上幅22～41cm、下幅19～32cm、深さ3cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色粘土質シルトである。石製品K 3滑石製小玉（第24図2）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片、鉄製品が出土している。方向はN-4°-Wである。SD133・146・147・148、SK135・145を切り、SD133に切られている。

ＳＤ97溝跡　総長9.73m以上、上幅20～37cm、下幅10～30cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、用途不明の土製品が出土している。方向はN-5°-Wである。SD133・143・146・148、SK135を切っている。

ＳＤ101溝跡　総長4.68m以上、上幅44～66cm、下幅20～33cm、深さ33cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・灰黄褐色粘土質シルト、にぶい黄橙色シルト、暗褐色・褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器E-12坏（第23図7）を始め、土師器坏・甕・高坏片、須恵器蓋・稜碗片、用途不明の土製品が出土している。方向はN-1°-Wである。SD143、SK154を切っている。

ＳＤ103溝跡　総長7.60m以上、上幅22～31cm、下幅11～23cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・褐色の粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器・坏・蓋・甕・壺片が出土している。方向はN-1°-Wである。SD143、SK109・154を切っている。上層の削平を受けて消滅している部分が見られる。

ＳＤ104溝跡　総長4.90m以上、上幅14～20cm、下幅4～14cm、深さ7cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋片が出土している。方向はN-1°-Wである。SD143を切り、



第18図　溝跡平面図（南区）

SK153に切られている。

ＳＤ105溝跡　総長4.24m以上、上幅14～32cm、下幅6～23cm、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片が出土している。方向はN-2°-Eである。SA111A・111B、SD143を切っている。

ＳＤ106溝跡　総長5.46m、上幅19～32cm、下幅10～25cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器蓋片が少量出土している。方向はN-4°-Wである。SD112・113・143・155・156を切っている。

ＳＤ107溝跡　総長6.10m、上幅22～34cm、下幅18～24cm、深さ30cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はN-3°-Wである。SB100、SD143、SK135を切り、SK108に切られている。

ＳＤ112溝跡　総長2.40m以上、上幅30～42cm、下幅24～30cm、深さ10cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。方向はE 2° Sである。SA111A、SD106に切られている。

ＳＤ113溝跡　総長2.69m以上、上幅24～44cm、下幅20～32cm、深さ10cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はE-2°-Sである。SA111C、SD106に切られている。

ＳＤ114溝跡　総長2.30m以上、上幅29～38cm、下幅19～30cm、深さ17cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色・にぶい黄褐色の粘土質シルトである。方向はE 2° Sである。SA111Bに切られている。

ＳＤ115溝跡　総長2.00m以上、上幅25～30cm、下幅10～21cm、深さ5cmを計る。方向はE-2°-Sである。

ＳＤ116溝跡　総長8.26m以上、上幅36～55cm、下幅16～42cm、深さ10cmを計る。須恵器坏・蓋片、土師器・坏・甕片が出土している。方向はN-0°-Sである。SD121・122・123・124・125を切っている。

ＳＤ118溝跡　総長1.23m、上幅46cm、下幅18～26cm、深さ13cmを計る。土師器坏片が出土している。方向はE-4°-Sである。

ＳＤ119溝跡　総長1.52m以上、上幅23～26cm、下幅14～19cm、深さ11cmを計る。方向はN-0°-Sである。SD121・122を切っている。

ＳＤ121溝跡　総長1.60m以上、上幅19～23cm、下幅16～19cm、深さ12cmを計る。方向はE-3°-Sである。SD116・119に切られている。

ＳＤ122溝跡　総長1.62m以上、上幅20～35cm、下幅18～24cm、深さ10cmを計る。堆積土はにぶい黄褐色シルトである。方向はE-3°-Sである。SD116・119に切られている。

ＳＤ123溝跡　総長1.44m以上、上幅20～30cm、下幅9～12cm、深さ16cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・明黄褐色シルトである。方向はE-3°-Sである。SD116に切られている。

ＳＤ124溝跡　総長1.30m以上、上幅23～41cm、下幅13～28cm、深さ18cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・黒褐色粘土質シルト、黄褐色・明黄褐色シルトである。方向はE-3°-Sである。SD116に切られている。

ＳＤ125溝跡　総長1.08m以上、上幅24～30cm、下幅12～20cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色シルトである。方向はE-3°-Sである。SD116に切られている。

ＳＤ126溝跡　総長1.28m、上幅14～22cm、下幅10～16cm、深さ7cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏片が出土している。方向はN-2°-Wである。

ＳＤ127溝跡　総長1.35m、上幅24～34cm、下幅9～24cm、深さ24cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片が出土している。方向はN-3°-Wである。

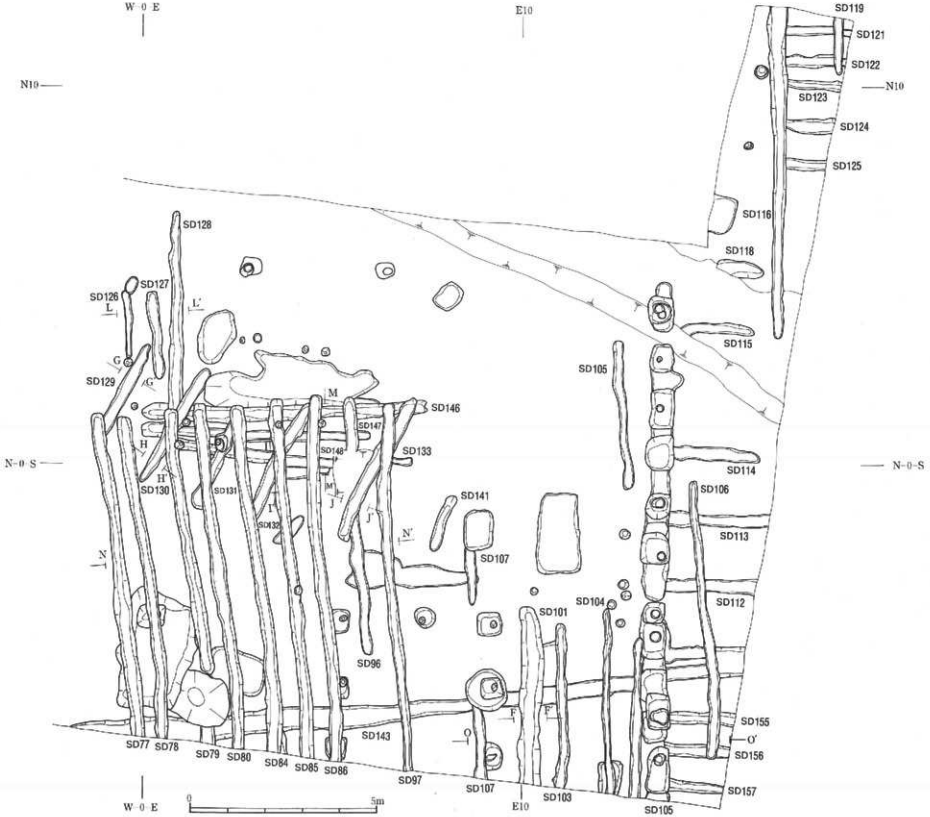
ＳＤ128溝跡　総長5.24m以上、上幅19～40cm、下幅10～22cm、深さ16cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片が出土している。方向はN-0°-Sである。SD146を切り、SD79、SD130に切られている。

ＳＤ129溝跡　総長2.62m以上、上幅24～32cm、下幅12～28cm、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片が出土している。方向はN-28°-Eである。SD77に切られている。

ＳＤ130溝跡　総長3.48m、上幅20～40cm、下幅12～29cm、深さ16cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕片、鉄滓が出土している。方向はN-28°-Eである。SD128・146・147、SK145を切り、SD79に切られている。

ＳＤ131溝跡　総長2.48m以上、上幅24～41cm、下幅13～30cm、深さ14cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。須恵器E-8高台付坏（第23図9）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器甕片が出土している。方向はN-28°-Eである。SD146・147・148を切り、SD80・84に切られている。

ＳＤ132溝跡　総長3.41m以上、上幅32～41cm、下幅19～26cm、深さ23cmを計る。底面はほぼ平坦で、北壁はゆるやかに、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色・黒褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。多量の土師器・須恵器、用途不明の土製品が出土し



第19図　溝跡平面図（東区）

ている。方向はN 28°-Eである。SD146・147・148を切り、SD80・84に切られている。

ＳＤ133溝跡　総長4.17m、上幅30～46cm、下幅16～28cm、深さ28cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は褐色・暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。多量の土師器、須恵器が出土している。方向はN-28°-Eである。SD96・146・148を切り、SD97に切られている。

ＳＤ136溝跡　総長1.34m以上、上幅27～32cm、下幅16～21cm、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・壺片、陶器壺片が出土している。方向はN 36°-Eである。SD38・89に切られている。

ＳＤ137溝跡　総長1.82m、上幅24～30cm、下幅20～27cm、深さ12cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器蓋片が出土している。方向はN-36°-Eである。SD138、SX149を切り、SD36に切られている。

ＳＤ138溝跡　総長4.64m、上幅30～50cm、下幅13～39cm、深さ18cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は明黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はE-6°-Nである。SK139、SX149を切り、SD36・38・137に切られている。

ＳＤ141溝跡　総長1.56m、上幅26～29cm、下幅14～22cm、深さ6cmを計る。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はN-20° Eである。

ＳＤ143溝跡　総長18.00m以上、上幅34～62cm、下幅26～50cm、深さ20cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。方向はE-5°-Nである。SA111A、SD77・78・79・80・84・85・86・97・101・103・104・105・106・107、SK90・99・154に切られている。

ＳＤ146溝跡　総長7.54m、上幅26～42cm、下幅10～24cm、深さ30cmを計る。底面はゆるやかに凹み、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。土師器Ｃ-19坏（線刻文字『玉』）（第23図10）、須恵器Ｅ-7稜埦（第23図1）片、須恵器Ｅ-8高台付坏（第23図9）片を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、鉄滓が出土している。

ＳＤ147溝跡　総長6.08m、上幅20～40cm、下幅12～22cm、深さ8cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片が出土している。方向はE-1° Sである。SD79・80・84・85・86・96・130・131・132に切られている。

ＳＤ148溝跡　総長5.20m、上幅17～34cm、下幅10～23cm、深さ16cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。

須恵器蓋片が出土している。方向はE-7°-Sである。SD79・80・84・85・86・97・131・132・133に切られている。

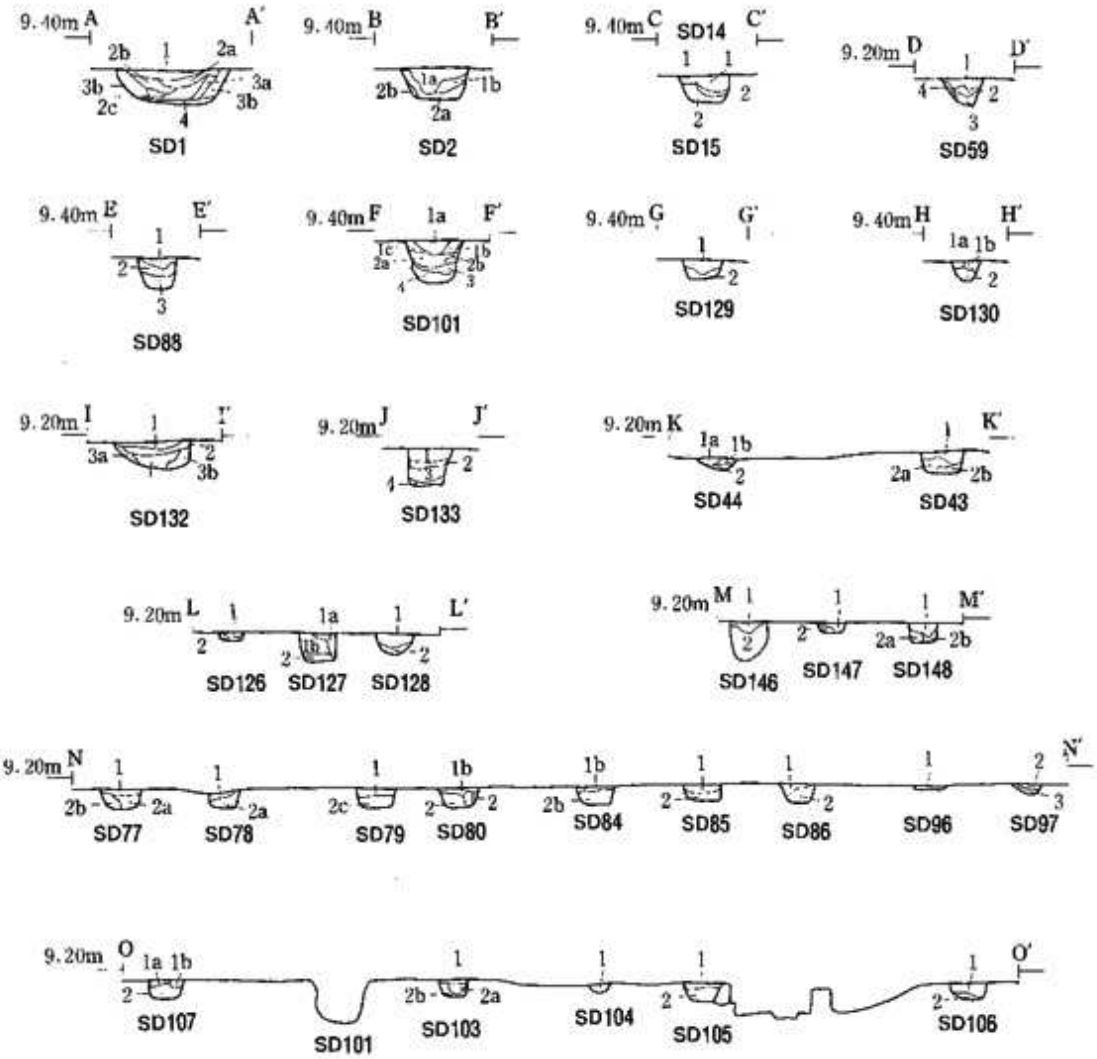
ＳＤ150溝跡　総長1.55m以上、上幅28～40cm、下幅22～27cm、深さ15cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。方向はE-2°-Nである。SD151、SK87に切られている。西側は上層の削平を受けて消滅している。

ＳＤ151溝跡　総長1.10m以上、上幅37～40cm、下幅21～25cm、深さ24cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。土師器坏・甕片、須恵器坏・壺片が出土している。方向はN 35° Eである。SD150、SK152を切り、SD92に切られている。

ＳＤ155溝跡　総長1.74m以上、上幅28～36cm、下幅10～18cm、深さ25cmを計る。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもってまっすぐに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色シルトである。方向はE-3°-Sである。SA111C、SD106に切られている。

ＳＤ156溝跡　総長1.76m以上、上幅30～33cm、下幅18～24cm、深さ13cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。方向はE-3°-Sである。SA111A、SD106に切られている。

ＳＤ157溝跡　総長1.45m以上、上幅18～34cm、下幅13～16cm、深さ16cmを計る。底面はやや凹み、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。方向はE-3°-Sである。SA111Aに切られている。

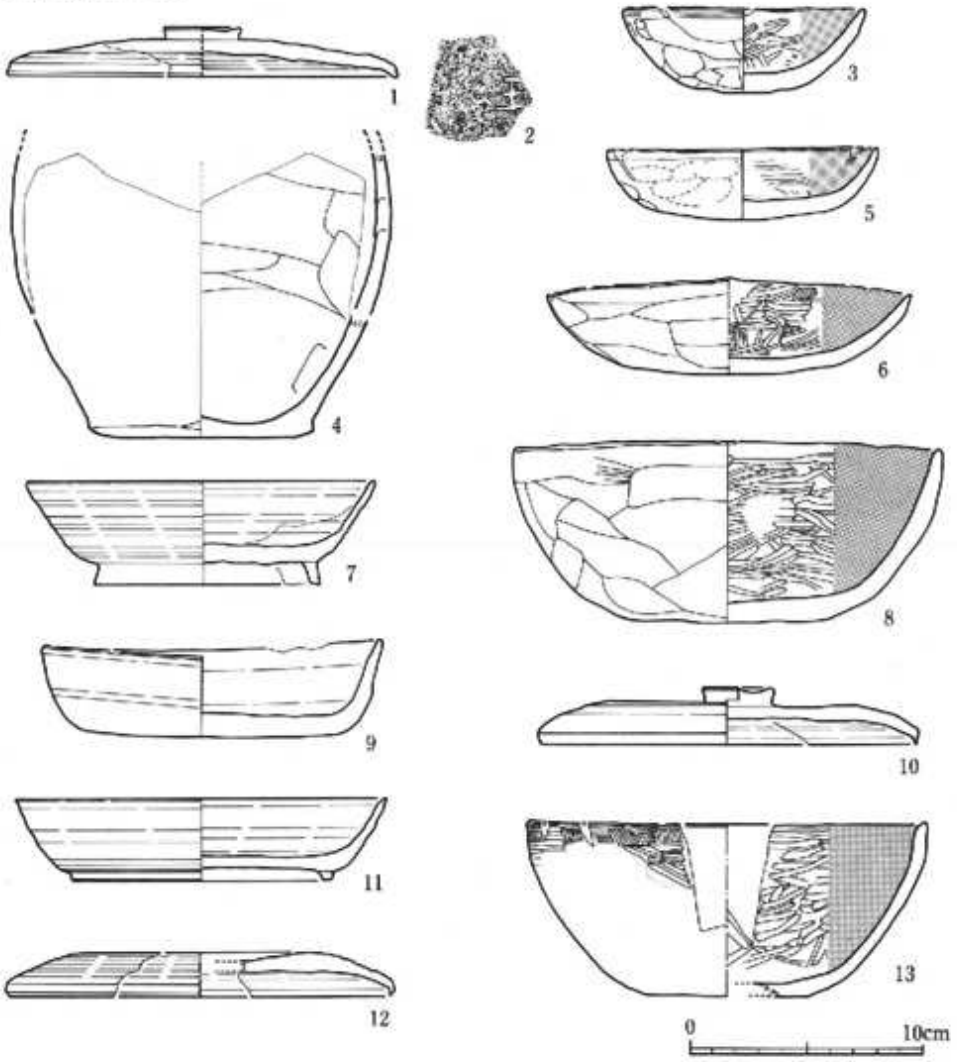


遺構名	層位	土色	土性
SD1	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	2b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト
	2c	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	3a	10YR4/1	褐色	粘土質シルト
	3b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト
	4	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
SD2	1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト
	2b	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト
SD14	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト
SD15	1	10YR5/8	黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/8	黄褐色	粘土質シルト
SD59	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	4	10YR7/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト
SD88	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	3	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト
SD101	1a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	1c	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト
	2a	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト
	2b	10YR4/6	褐色	粘土質シルト
	3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト
	4	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト
SD129	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD130	1a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト

遺構名	層位	土色	土性
SD130	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD132	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	3a	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	3b	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD133	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD44	1a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR4/1	黒褐色	粘土質シルト
SD43	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD126	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD127	1a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト
SD128	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD146	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD147	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD148	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト

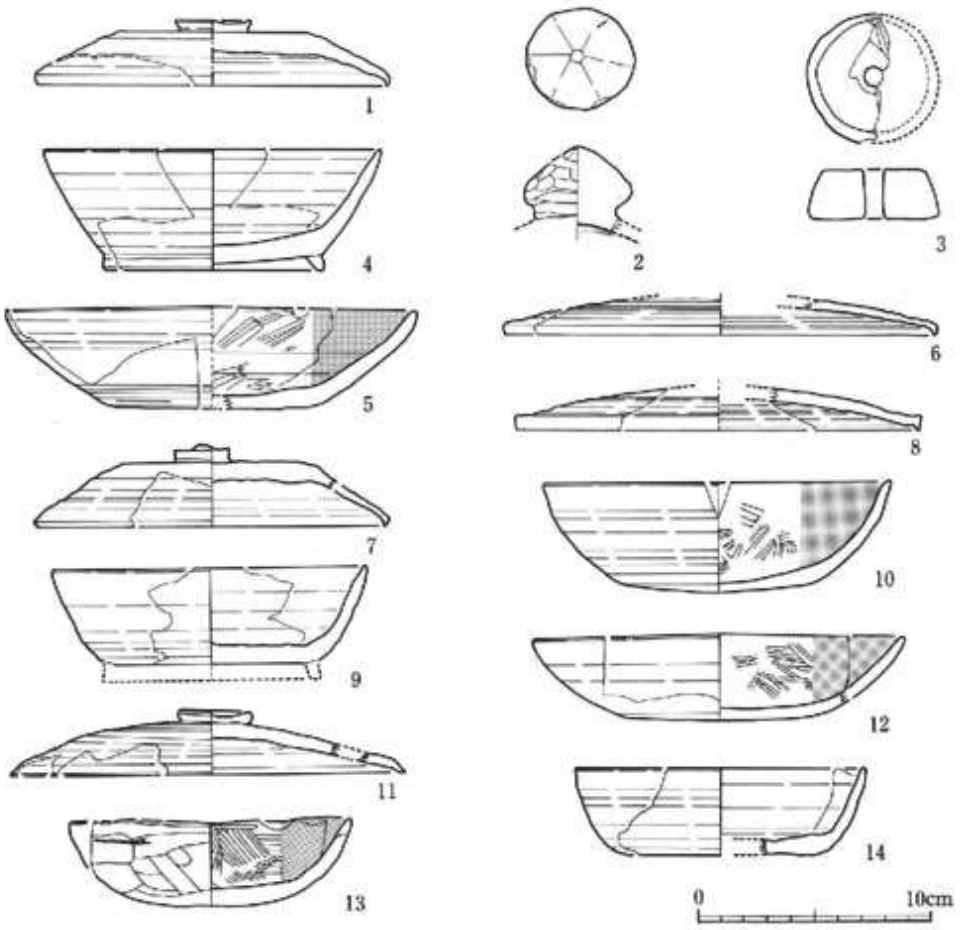
遺構名	層位	土色	土性
SD77	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR4/3	暗褐色	粘土質シルト
	2b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD78	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD79	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD80	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD84	1a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	1b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト
SD85	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD86	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD96	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
SD97	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト
	3	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土
SD101	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2a	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2b	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD103	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト
SD104	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト
SD105	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
SD106	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト
SD107	1a	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
	1b	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
	2	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト

第20図　溝跡断面図



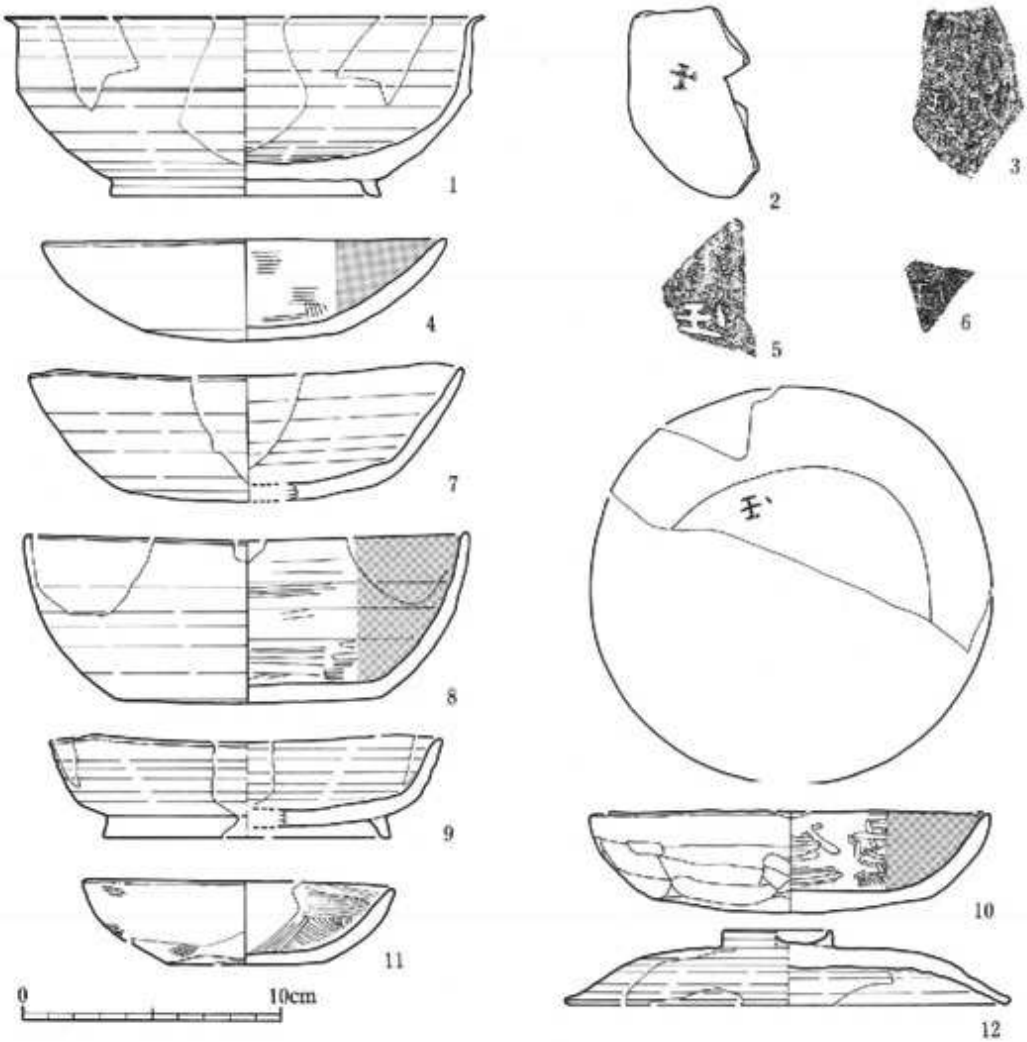
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整			内面調整			法量			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E-16	弥生土器	壺	SA 113B	ヨコナデ	ヨコナデ→上半部横ヘラミガキ		ヨコナデ	ヨコナデ	光沢有 ヨコナデ	2.1 (ツマミ 0.5)	16.8	完体部 6.6	1/4	口縁加飾に2条凹線	142-3
2	C-13	土師器	甕	SA 118A			不明			ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	不明	不明	不明	不明	底部、再整備補注4 "底"	142-9
3	C-11	土師器	甕	SK03	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	3.6	16.4	4.3	1/2	摩滅著しい	143-2
4	C-5	土師器	壺	SK06		ヘラナデ	無調整		ヘラナデ	ヘラナデ	12.2~	不明	9.2	不明	底部に木葉圧	143-1
5	C-7	土師器	坏	SK12	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	3.6	11.6	6.2	2/3		144-2
6	C-8	土師器	坏	SK12	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	4.1	13.6	8.8	1/2		143-4
7	C-6	弥生土器	高台付坏	SK12	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り 高台貼り付け 後ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	4.4	15.9	9.7	2/3	歪み成形？	143-6
8	C-3	土師器	甕	SK12	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	7.7	18.4	8.6	1/2		143-9
9	B-24	弥生土器	甕	SK12	ヨコナデ	ヨコナデ →刷毛 →ヘラケズリ	回転ヘラ切り	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	3.8 →4.3	13.7	10.2	胴部 2/3	粘土で補成 歪みあり	143-5
10	B-17	弥生土器	壺	SK12	ヨコナデ →上半部横ヘラミガキ			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	1.7 (ツマミ 0.7)	16.25		3/4	クロバケ内心とヨビメン	143-8
11	B-5	弥生土器	高台付坏	SK12	ヨコナデ →下半部横ヘラケズリ	脚とヘラ切り 高台貼り付け 後ナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	3.5	16.0	11.2	胴部 破片	歪み顕著	143-7
12	B-19	弥生土器	甕	SK21	ヨコナデ	ヨコナデ→上半部横ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ		1.9	16.4		1/2		143-11
13	C-4	土師器	鉢	SK13	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	7.4	17.2	6.8	2/3		143-10

第21図　出土遺物実測図



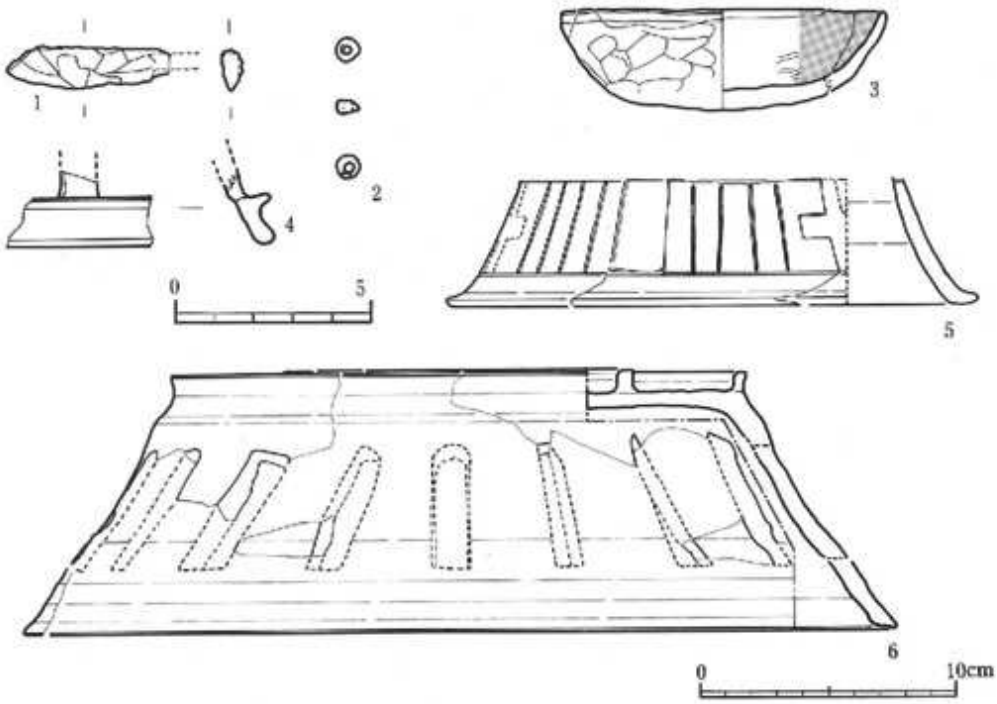
番号	型録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量 外高	法量 口径	法量 底径	残存	備考	写真図版
1	B-19	須恵器	器	SK40	ロクロナデ	ロクロナデ	天井部 ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	天井部 ロクロナデ	2.8	15.0	天井部 7.9	1/2	天井部 無点使用区	144-1
2	C-18	土師器	器 (ツマミ部)	SK89	ナデ→ヘラケズリ			ナデ→ヘラミガキ 黒色処理						不明	平面形は 平面六角形	144-10
3	P-1	土師器	鉢蓋車	SK139	ヘラケズリ→ヘラミガキ（？）						2.2	直径 4.4～5.6		1/2		144-9
4	E-9	須恵器	高台杯部	SK89	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 高台貼りつけ後 縦合成ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	5.1	14.4	8.4	1/4		144-3
5	D-4	土師器 (ロクロ使用)	坏	SK89	ロクロナデ	ロクロナデ →下半回転 ヘラケズリ	不明	ロクロナデ →ヘラケズリ 黒色処理	ロクロナデ →ヘラケズリ	ロクロナデ →ヘラケズリ	4.4	17.4	8.4	1/3	底部 ミノコ痕跡	
6	B-15	須恵器	器	SD80, 84, 85 SK139	ロクロナデ	ロクロナデ →上半回転 ヘラケズリ	天井部 ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	天井部 ロクロナデ	不明	10.6		1/2	重ね焼き	145-4
7	H-16	須恵器	器	SK140	ロクロナデ	ロクロナデ →上半回転 ヘラケズリ	天井部ヘラケズリ ツマミ貼り つけ後ナデ	ロクロナデ 自然軸	ロクロナデ 自然軸	ロクロナデ	3.5 ツマミ 6.8	15.2	天井部 7.6	3/4	高温で焼成 重ね焼き	144-11
8	E-18	須恵器	器	SK139	ロクロナデ	ロクロナデ →上半回転 ヘラケズリ	天井部 ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	17.3		3/5	焼成 やや不良	144-4
9	E-11	須恵器	坏	SK140	ロクロナデ	ロクロナデ →下端回転 ヘラケズリ	回転ヘラ切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.1	15.4	9.2	1/2	高台剥離	144-8
10	D-2	土師器 (ロクロ使用)	坏	SK140	ロクロナデ	ロクロナデ →下半回転 ヘラケズリ	回転ヘラケズリ 切り離し不明	ロクロナデ →ヘラケズリ 黒色処理	ロクロナデ	ロクロナデ →ヘラケズリ	4.7	14.8	8.0	1/2		144-5
11	H-21	須恵器	器	SK145	ロクロナデ	ロクロナデ →上半回転 ヘラケズリ	天井部 回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.8 ツマミ 6.5	16.7		3/4	ツマミに焼き 重ね焼き	144-7
12	D-3	土師器 (ロクロ使用)	坏	SK140	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ 切り離し不明	ロクロナデ 黒色処理	ロクロナデ →ヘラケズリ	ロクロナデ →ヘラケズリ	3.8	25.8	8.1	2/3	焼成悪しい	144-6
13	C-19	土師器	坏	SK145	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラケズリ	ナデ →ヘラミガキ 黒色処理	ナデ →ヘラミガキ	ナデ →ヘラミガキ	3.7	12.0	5.2	1/2	焼成、遊色 悪しい	145-2
14	B-10	須恵器	坏	SK145	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.7	13.4	8.0	1/4	高温で焼成 重ね焼き	144-12

第22図　出土遺物実測図



番号	取上番号	種別	器種	出土遺構	外面調整			内面調整			法量			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	B-7	黒色土器	椀	SK145	ヨコナデ	横位ヨコナデの後縦位ヘラミガキ ヨコナデ	高台貼り付け後ナデ 回転ヘラ切り	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	7.0	15.5	10.4	1/2	歪み焼き	145-1
2	C-15	土師器	坏	SK145			ナデ ヘラケズリ			ナデ ヘラミガキ 黒色処理	不明	不明	不明	不明	外面線刻文字 "王"	
3	C-14	土師器	坏	SK145			ナデ ヘラケズリ			ナデ ヘラミガキ 黒色処理	不明	不明	不明	不明	外面線刻文字 "王"	145-7
4	C-4	土師器	坏	SK153	ヨコナデ	ナデ ヘラケズリ	ナデ ヘラケズリ	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ 黒色処理	ナデ ヘラミガキ	3.9	15.6	7.0	口縁部1/3	外面磨滅著しい	145-3
5	C-15	土師器	坏	SK165		・	ナデ ヘラケズリ			不明 黒色処理	不明	小破	小破	不明	外面線刻文字 "王"	142-15
6	C-17	土師器	坏	SK145			ヘラミガキ 黒色処理			ナデ ヘラミガキ 黒色処理	不明	不明	不明	体部	外面線刻文字 "王"	142-6
7	E-11	陶器	甕	SD101	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ 沈線 ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5.3	16.8	10.8	1/2	器入あり	143-5
8	D-6	土師器（ロクロ成形）	鉢	SD132	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ 黒色処理	ヨコナデ ヘラミガキ	6.8	17.2	10.2	2/3		145-7
9	E-6	陶器	向山付帯	SD132 146	ヨコナデ	ヨコナデ	高台貼り ヘラ痕ナデ 切り離し不明	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	4.0	15.2	10.1	1/4	器入あり 仮図焼成	145-6
10	C-19	土師器	坏	SD148	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラケズリ	ナデ ヘラケズリ	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ 黒色処理	ナデ ヘラミガキ	2.9	15.4	10.8	1/2	底面線刻文字 "王"	145-5
11	C-1	土師器	坏	時期不明	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラケズリ ヘラミガキ	ナデ ヘラケズリ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	3.9 ～3.7	12.6	6.3	1/2	口縁部歪み	142-1
12	B-1	陶器	甕	時期不明（包含）	ヨコナデ	ヨコナデ 一条線 ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	3.4 ～3.1	37.2		1/4	ゲソ土 中心よりズレ	142-2

第23図　出土遺物実測図



番号	登録番号	種別	器種	出土遺構	外面調整			内面調整			法量			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	N-1	石製品	砥	SD43							全長41cm	最大幅4cm～		半完	有芯平滑？	115-3
											全厚(最大)3cm	最大幅7cm～				
2	X-1	石製品	玉	SD66							厚	孔径	高さ	完形		145-10
											6mm	2mm	4mm			
3	C-9	土師器	坏	SX37	ナデ→ヘラミガキ（ミガキ痕跡）	ヘラケズリ（単位、方向不明）	ヘラケズリ（単位、方向不明）	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	2.8cm	13.7cm	7.5cm	1/3	内面、黒斑状の炭化物？	142-2
								黒色処理（部分的にとんでいる）								
4	E-4	須恵器	円面硯	包含層	ナデ	ナデ「十字ボタン状」貼り付け後ナデ		ナデ	ナデ		不明	不明	20.7cm	不明	高台で接地	142-4
5	E-2	須恵器	円面硯	包含層	ナデ			ナデ			不明	不明	不明	不明	高台で接地	142-6
6	E-1	須恵器	円面硯	SA111B SD36 146,158	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	天井部ヘラケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	不明	22.4cm	不明	1/3	内外面に赤色付着、沈金？	143-5

第24図　出土遺物実測図

5．その他の遺構・遺物

ＳＸ149性格不明遺構　平面形は不整形を呈し、東西軸132cm以上、南北軸146cm、深さ16cmを計る。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。SD36・88・137・138・139・144に切られている。

ピットは52検出した。堆積土中から土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片、陶器片、鉄滓が少量出土している。

表土、攪乱からは多量の土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片が出土している。他に陶器片、磁器片、平瓦片、用途不明の土製品・石製品が出土している。

遺構検出面からは土師器Ｃ-1坏（第23図11）（地点不明）、須恵器Ｅ-1蓋（第23図12）（南区）須恵器Ｅ-2円面硯片（第24図4）（地点不明）、須恵器Ｅ-4円面硯片（第24図5）（東区）を始め、土師器坏・甕片、須恵器坏・蓋・甕・壺片が多量に、陶器片、磁器片、瓦片、用途不明の土製品・鉄製品・石製品が少量出土している。

Ⅵ 総　括

1 出土遺物の分類と年代

（1）土器の分類

土師器

出土した土師器は坏・椀・高杯・蓋・甕の5器種あるが、坏・椀類が大半を占め、甕は復元・図化できたものは1個体のみ、蓋はツマミ部分が1点のみである。ここでは坏・椀類を資料として分類した。坏・椀類は大別すれば、ロクロを使用しないもの〔遺物登録略号C〕とロクロを使用したもの〔遺物登録略号D〕の2種に分けられる。

C類は平底もしくは平底風の丸底で、体部は緩やかに立ち上がり、段や稜線はない。調整は外面ヘラケズリ・ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ黒色処理である。（C1は本来は黒色処理されていたものが二次的に火熱を受け、黒色がとんだものとみられる。）法量により、小形のもの〔Ⅰ類〕・中形のもの〔Ⅱ類〕・深い椀形のもの〔Ⅲ類〕の3種に細分される。

D類は底部から体部下端に回転ヘラケズリ調整が施され、体部は緩やかに立ち上がる。調整は外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ黒色処理である。底部は切り離しは不明であるが、回転ヘラケズリ調整により丸底気味になっている。法量により、浅いもの〔Ⅰ類〕・やや深いもの〔Ⅱ類〕・深い椀形のもの〔Ⅲ類〕の3種に細分される。

- C　類：ロクロ不使用
  - Ⅰ　類：小　形　〔C－1・7・9・10・11〕
  - Ⅱ　類：中　形　〔C－4・8・19〕
  - Ⅲ　類：椀　形　〔C－3・6〕
- D　類：ロクロ使用
  - Ⅰ　類：浅　い　〔D－3・4〕
  - Ⅱ　類：やや深い　〔D－2〕
  - Ⅲ　類：椀　形　〔D－6〕

須恵器

出土した須恵器は坏・椀・高杯・蓋・壺・甕・硯の7器種あるが、復元可能なものは坏・椀類と蓋が大半である。ここではこの2器種を資料として分類した。

坏・椀類は、高台の付かないもの〔ＥⅠ類〕と高台の付くもの〔ＥⅡ類〕に大別される。

ＥⅠ類は、切り離し技法のわかるものは回転ヘラ切りで、底部全体および体部下端に回転ヘラケズリ調整の施されるものである。法量はまちまちであるが、体部の立ち上がり方により、やや直立気味に立ち上がるもの〔ａ類〕・直線的に外傾して立ち上がるもの〔ｂ類〕の2種に細分される。ｂ類はａ類に比べ深く大形である。

ＥⅡ類は、切り離し技法のわかるものはＥⅠ類同様回転ヘラ切りで、体部下端ないしは底部

全体に回転ヘラケズリ調整が施されるものである。法量・形態等により、口径に対し器高が低く浅いもの〔a類〕・a類より器高が高くやや深いもの〔b類〕・体部が外傾して立ち上がり深いもの〔c類〕・法量が大きい稜埦形のもの〔d類〕の4種に細分される。

- 須恵器　坏
  - EⅠ類：高台なし
    - a類：体部直立気味〔E－10・24〕
    - b類：体部外傾気味〔E－12〕
  - EⅡ類：高台付き
    - a類：浅　い〔E－5・8〕
    - b類：中　形〔E－6・11〕
    - c類：深　い〔E－9〕
    - d類：稜　埦　形〔E－7〕

蓋は、天井部が平坦で器高が高いもの〔EⅠ類〕・天井部から口縁部まで緩やかに開きだすもの〔EⅡ類〕・器高が低く偏平なもの〔EⅢ類〕の3種に大別される。

E1類は、偏平宝珠のツマミがつき、口縁端部は内側に屈曲している。

EⅡ類は、中央が凹むツマミがつき、口縁端部が外方に開きだすもの〔a類〕と下方に屈曲するもの〔b類〕の2種に細分される。

EⅢ類は、偏平宝珠のツマミがつき（E－20はツマミ欠損）、口縁端部が下外方に開きだすもの〔a類〕・下方に屈曲するもの〔b類〕の2種に細分される。

- 須恵器　蓋
  - EⅠ類：器高が高い〔E－14・19〕
  - EⅡ類：緩やかに開く
    - a類：口縁外開〔E－1・21〕
    - b類：〃屈曲〔E－15・18〕
  - EⅢ類：偏　平
    - a類：〃外開〔E－16〕
    - b類：〃屈曲〔E－17・20〕

土器の共伴関係

出土土器を前述の分類にしたがって、遺構毎に整理すれば次のとおりである。

土師器坏についてみれば、C類とD類とは、同一遺構内での共伴関係は認められない。須恵器坏についてみれば、Ⅰ類とⅡ類はSK145で共伴関係が認められる。さらに土師器坏2器種、須恵器坏・蓋の4器種における相互の共伴関係をみれば、SK12では、土師器C類と須恵器坏Ⅱ類・蓋Ⅲb類が共伴、SK140では土師器DⅠ・Ⅱ類と須恵器坏Ⅱb類・蓋Ⅰ類が共伴、SK145では土師器CⅠ類と須恵器坏Ⅰa・Ⅱd類・蓋Ⅱa類が共伴、SD132では土師器DⅢ類と須恵器坏Ⅱa類が共伴、SD146では土師器CⅡ類と須恵器坏Ⅱa類が共伴している。

須恵器坏Ⅱa類は、土師器C類・DⅢ類と共伴関係にあり、須恵器坏Ⅱb類は、土師器C類・DⅠ・Ⅲ類と共伴関係にある。また、須恵器坏Ⅱb類は土師器DⅠ・Ⅱ類・須恵器蓋1類と共伴関係にあることから、土師器C類・D類と須恵器坏Ⅱa・Ⅱb類・蓋J類は共伴関係にあ

るとみられる。

遺構	土師器坏		須恵器坏	須恵器蓋
SA111B				蓋EⅢa
SK12	CⅠ・Ⅱ・Ⅲ		坏EⅡa・Ⅱb	蓋EⅢb
SK13	CⅢ			
SK31				蓋EⅢb
SK40				蓋E1
SK57	CⅠ			
SK89			坏EⅡc	
SK98		D1		
SK139				蓋EⅡb(E-15.18)
SK140		DⅠ・Ⅱ	坏EⅡb	蓋EⅠ
SK145	CⅠ		坏E1a・Ⅱd	蓋EⅡa
SK153	CⅡ			
SD80				蓋EⅡb(E 15)
SD84				蓋EⅡb(E-15)
SD85				蓋EⅡb(E-15)
SD101			坏EⅠb	
SD132		DⅢ	坏EⅡa(E-8)	
SD146	CⅡ		坏EⅡa(E 8)	

（2）土器の年代的位置

土 師 器

土師器坏C類は、ロクロ不使用で体部に段・稜線を持たず、調整は外面ヨコナデ・ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ黒色処理を施す。このような特徴を持つ土師器坏は、東北南半地域の土師器編年（註4）によれば、国分寺下層式に含まれる。国分寺下層式期は概ね8世紀代の年代と考えられる。C1・Ⅱ類の土師器坏と類似するものは、下ノ内浦遺跡1号住居跡（註5）出土の土器群中のⅠAY・ⅠBY類にみられる。下ノ内浦遺跡の土器群は共伴する須恵器等との検討から、8世紀中葉のものと考えられた。また、CⅢ類の土師器坏と類似するものは、清水遺跡58号住居跡（註6）出土の土器、および伊治城跡SⅠ04住居跡（註7）出土の土器がある。清水遺跡の土器は外全面にヘラミガキが施されるが、伊治城跡の土器は上半部に

一部ヘラミガキ、下半部ヘラケズリである。CⅢ類の土器は磨滅のため調整不明なものもあるが、伊治城跡出土の土器がより類似しているものとみられる。伊治城跡ＳＩ04の土器群は、ロクロ不使用の坏とロクロ使用の坏・甕が共伴していることから、国分寺下層式から表杉ノ入式への移行期に位置づけられ、表杉入式の開始年代を9世紀中葉前後と考えていたことから、8世紀後半から9世紀中頃と考えられた。しかし、その後の検討により、表杉入式の開始年代は9世紀初頭とする見方が一般的になったことから、伊治城跡ＳＩ04土器群の年代は8世紀後葉と考えられた。また、清水遺跡58号住居跡の土器は、第Ⅶ群土器に含まれ、国分寺下層式の終末段階と考えられた。C類の土器はⅠ・Ⅱ・Ⅲとも共伴関係にあり、ほぼ同時期と考えられるが、ＣⅠ・Ⅱ類の土器と清水第Ⅶ群土器を比較すると、C類は丸底気味でヘラケズリ、清水第Ⅶ群は平底でヘラミガキで、清水第Ⅶ群のほうが後出的であると考えられる。これらのことから、C類土器群の年代は8世紀中葉から後半代、第3四半期中心の時期とみておきたい。

土師器坏D類は、ロクロ使用で回転ヘラ切り、底部から体部下端に回転ヘラケズリ調整、内面ヘラミガキ黒色処理を施す。このような特徴をもつ土師器坏は、前述の土師器編年による表杉ノ入式の中でも最も古い段階に位置づけられている宮前遺跡第20号住居跡（註8）の土器群に類似している。宮前遺跡第20号住居跡の土器群は第ⅣA群土器とされ、8世紀末から9世紀初頭を中心とした年代と考えられている。宮前遺跡第ⅣA群土器は口縁端部が軽く外反するものが多いのに比べ、D類土器には内弯気味のものもみられ、形態的にはC類土器や前型式の終末段階とされた清水遺跡第Ⅶ群土器との共通性が観取される。また、底部形態も完全に平底にならずやや丸味をおびている点でも前型式の要素を残していると言えよう。これらのことから土師器坏D類は、清水遺跡第Ⅶ群土器より新しく、宮前遺跡第ⅣA群土器より古い段階に位置づけられ、これまでの検討によれば、年代的には8世紀第4四半期を中心とする時期と考えられた。しかし、このD類は土師器製作におけるロクロ技術導入期のものとみられ、形態的にはC類と極めて類似していることから、C類とD類の間には時間的断絶があったものとはみなしがたい。土師器製作におけるロクロ使用開始年代に関わる問題でもあり、C類とD類の共伴関係は、ここでは検証できなかったが、年代的にはC類に続く第3四半期まで遡る可能性が考えられよう。これらの検討を踏まえ、D類土器群の年代はここでは8世紀後葉としておきたい。

須恵器

須恵器坏は、高台の付かないものと付くものの2種あるが、ロクロ切り離し痕跡が観察されるものは全て回転ヘラ切りで、無調整のもの、回転ヘラケズリを体部下端にのみ施したもの、下端から底部全体に施したものがある。このような特徴を持つ土器群は、宮城県内の窯跡出土の須恵器を分類・編年した岡田・桑原両氏の分類（註9）による第1類b・第6類aや、多賀城跡出土の土器を分類・編年した白鳥氏の分類（註10）によるA群土器に相当するものとみら

れる。第1類bは8世紀中葉、第6類aは8世紀後半と考えられ、多賀城A群土器はそれぞれ8世紀中葉から後半にかけての頃と考えられた。また、同様の土器群は、大境山遺跡2号住居跡（註11）、名生館遺跡ＳＸ1045溝状遺構（註12）の中にもみられる。大境山遺跡2号住居の土器は、第3群土器とされ、共伴する土師器との検討から国分寺下層式のうちの古段階（観音沢遺跡出土土器群：8世紀前半）と新段階（鞭塚遺跡第1群土器：8世紀後半）の間に位置づけ、8世紀中頃としている。名生館遺跡ＳＸ1045の土器の上器は、日の出山窯跡・木戸窯跡出土上器との検討から類似性が認められ、8世紀前半代とされた。

須恵器蓋は、器高・形態から3種に分類し、さらに口縁端部の形状から2種に細分された。ＥⅠ類とした蓋は、硯沢窯跡Ｂ地区16号・9号窯（註13）出上のもの、ＥⅡ・Ⅲ類は同じく硯沢窯跡Ｂ地区3号窯出土のものに類似している。硯沢窯跡Ｂ地区の土器群は8世紀の前半から中葉頃とされた。

これらの検討結果から、須恵器の坏・蓋は8世紀第2・3四半期のものとみられよう。

（3）その他の出土遺物

他には、硯、上製品、鉄製品、鉄滓、陶器、磁器があるが、年代検討可能な資料はなかった。

硯はいずれも円面硯で3個体出上した。2点は脚部のみの破片で、全体の形状等詳細は不明であるが、脚部に長方形、十字形の透孔や線刻が施されている。1点は脚部直径が30cmを超える大形のもので、県内の城柵官衙遺跡でも出土例がない。

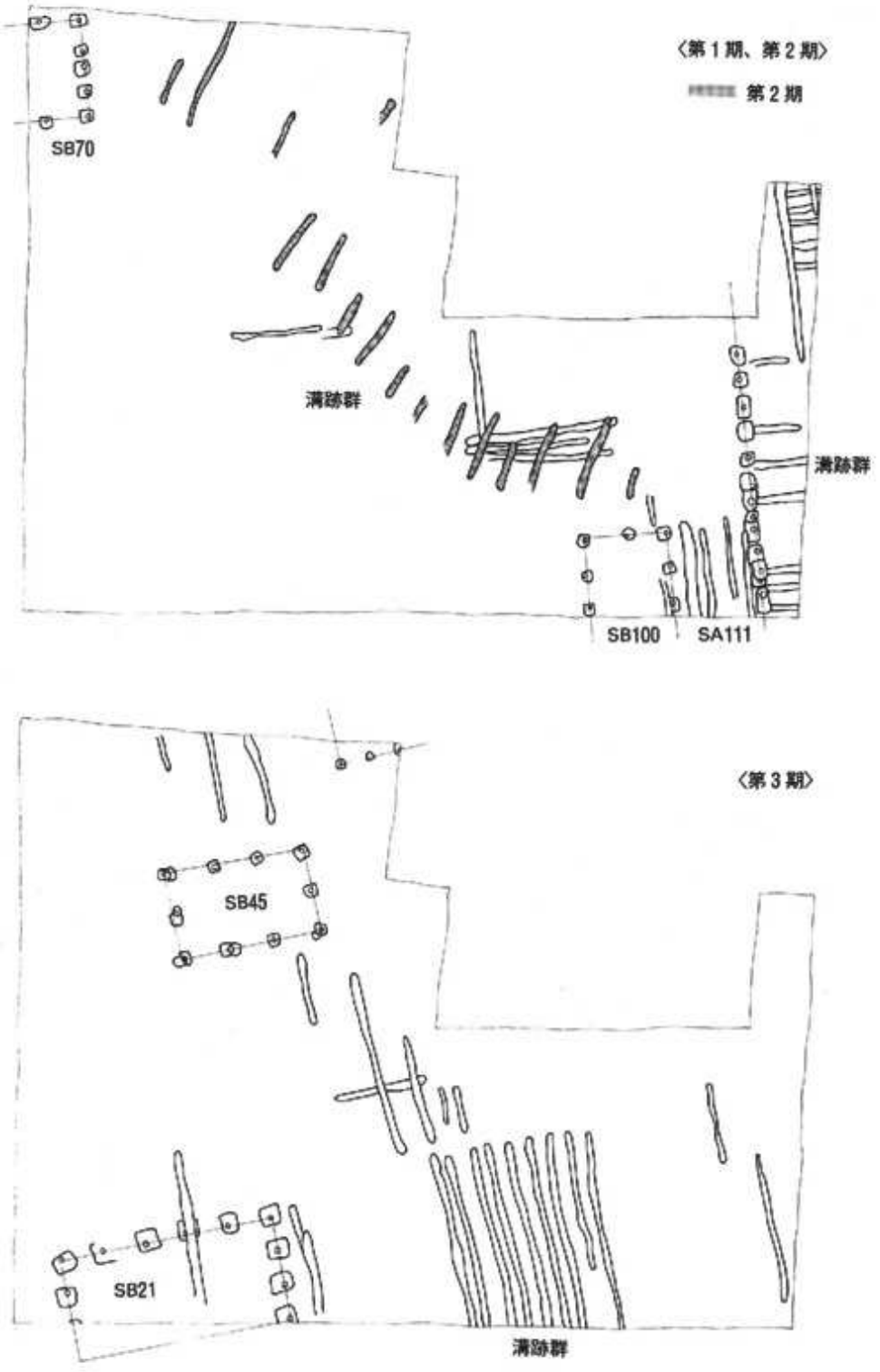
また、土師器坏の底部外面に「玉」の線刻文字のあるものが6点ある。出土遺構はＳＡ111Aから1点、ＳＤ146から1点、ＳＫ145から4点で、いずれも同一書体とみられ、三画目の横書が長いのが特徴である。線刻された土師器は全てロクロ不使用のＣ類である。一文字のみの記銘で、意味・性格等詳細は不明である。

2　遺構の変遷と年代

発見された遺構は、一本柱塀跡1列、掘立柱建物跡5棟、溝跡71条、土坑76基、不明遺構1基である。これらの遺構は重複関係・方向等から4期に大別分類される。

〔ブレ1期〕　比較的大形の土坑群で構成される。Ⅰ期と同期に一括される可能性があるが、Ⅰ期遺構より先行する。ＳＫ12・90・142・145・154土坑

ブレⅠ期とした遺構群は、遺構の重複状況から最も古い段階に位置づけられるが、一時期としての設定にやや無理がある。Ⅰ期の中での前小期ともみられるが、ここでは断定できなかったことから、便宜上ブレⅠ期としておきたい。不整形で比較的大形の土坑で構成される。ＳＫ12からは上器類とともに多くの鉄滓が出土し、本地区内で鍛冶が営まれていたことが推定されるが、炉跡等の鍛冶に直接関係する遺構は検出されなかった。本時期の遺構からは、上師器ＣⅠ・Ⅱ・Ⅲ類、須恵器坏ＥⅠａ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅱｄ類、蓋ＥⅡａ・Ⅲｂ類が出土しており、土師



第25図　遺構変遷図

器C類は8世紀第3四半期中心、須恵器は一括して第2・3四半期と考えられたことから、遺構群の年代も8世紀中葉とみておきたい。

〔Ⅰ　期〕　塀跡、掘立柱建物跡、溝跡で構成される。方向は真北を基準としている。塀跡は同位置で建て替えがあり、3小期に細分される。

SA111. SB70・100. SD101・116・133・146等

Ⅰ期は、掘立柱による一本柱塀と建物および溝跡で、基準方向はほぼ真北である。調査区の東端に南北方向の塀SA111がのび、塀の西側に小規模な建物SB70・100が配される。塀の東側が外側とみられるが、塀から3m（10尺）離れて溝SD116が1条並行しており、塀と関連する溝とみられる。また、SB70東柱列と塀との間は30m（100尺）あり、SB100東桁柱列と塀との間は4.5m(15尺)、SB100東側には90cm離れ、雨落溝とみられる溝SD101がある。塀SA111と溝SD116を一体の区画施設と考えれば、この区画から東一帯には条里の区割りと考えられる区画痕跡が観察され、塀・溝の区画位置はこの区割線に相当するものとみられる。しかし、本調査区内で水田耕作が行われた形跡はないことから、東に広がる水田地帯をひかえる自然堤防上の微高地に、条里区割線にあわせて塀を造り、掘立柱建物による施設を置いたものと考えられよう。塀は3期にわたって造り替えられている。塀跡B期の柱穴埋土から須恵器蓋EⅢa類、SB100建物跡の雨落溝SD101から須恵器坏EⅠb類が出土している。須恵器の年代については前述したとおりであり、遺構群の年代もブレⅠ期とほぼ同期の年代幅の中で、それに続く時期のものとみられよう。

〔Ⅱ　期〕　溝跡で構成される。方向はN 28~34° Eで、調査区の中央部から北部にかけて、1.5~2m間隔で並行して分布する。ほとんどが長さ4m未満と短い。

SD29・34・49・50・59・68・88・92・127・129・130・131・132・133・136・141・151溝跡

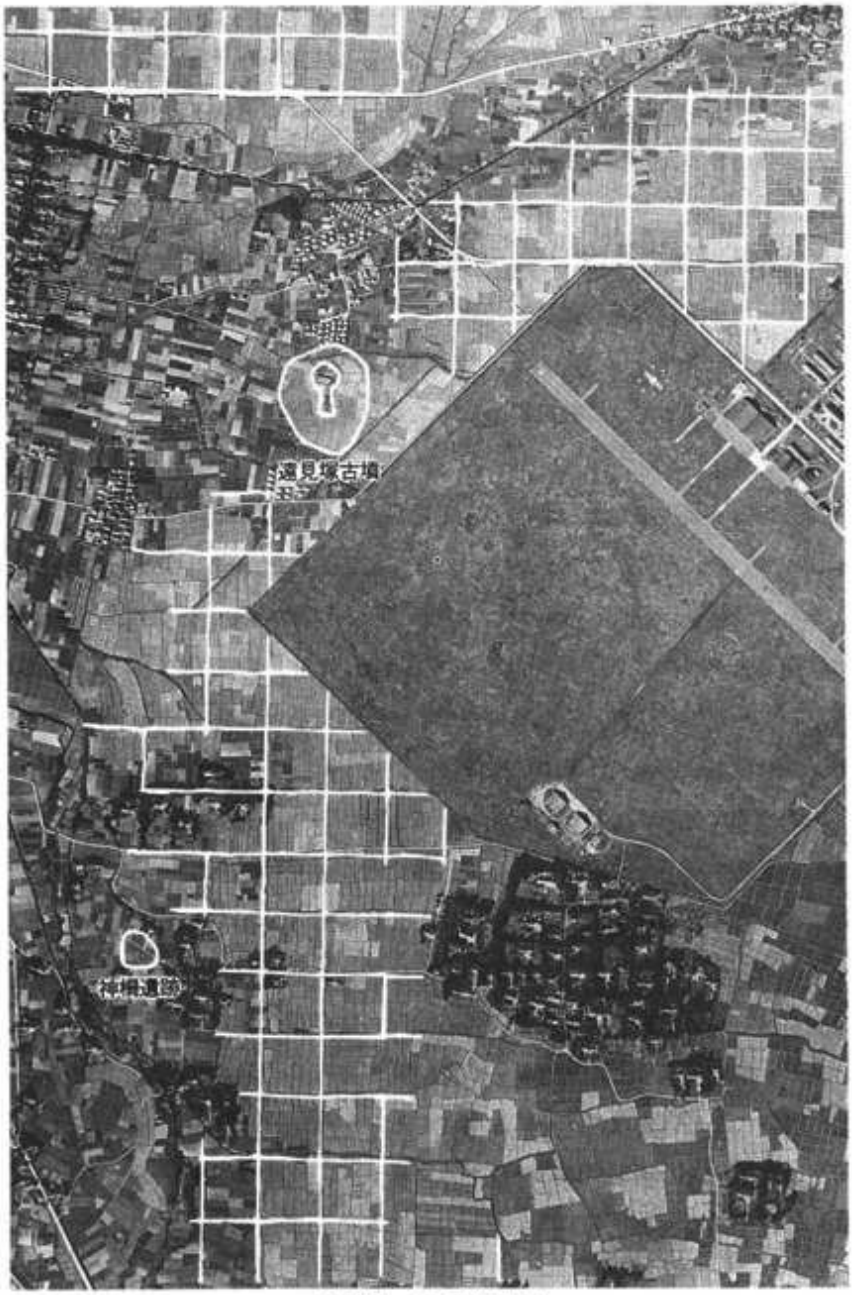
Ⅱ期は、小規模な溝が並んで斜行するもので、遺構群の性格は不明である。SD132溝跡から土師器DⅢ類、須恵器坏EⅡa類が出土しており、本時期の遺構群の年代も、土師器D類の検討により8世紀第4四半期を中心とする時期としておきたい。

〔Ⅲ　期〕　掘立柱建物跡、溝跡で構成される。方向はN-5~9° Wである。溝跡はまとまりをもって分布し、東区の溝跡は90cm程の間隔で溝北端を揃え並行する。

SB21・45・110. SD2・14・15・30・36・38・46・60・67・77・78・79・89・84・85・86・96・97・105・106・138溝跡

Ⅲ期は、比較的大形の掘立柱建物跡と溝で、Ⅰ期の塀や建物が真北を基準としていたのに比べ、若干西に偏った方向を示している。建物の配置関係については特に規則性は認められなかったが、SB21のような柱・全体規模とも大形の建物は当該時期の一般集落にはみられず、Ⅰ

期遺構群も含めて、集落に一般的な竪穴住居跡が一軒もないことから、集落以外の機能・性格の施設が置かれたことが考えられよう。溝跡はＳＢ21建物の東側に検出された一群９条が、北端部を揃え90cm程のほぼ等間隔で並行しており、一連の遺構とみられる。また、この一群の北端から50～70cmの間隔をおき、同様の溝群が北に続く。このような溝群については、今回の調査では確認できなかったが、畑地耕作の痕跡とする見方もあろう。しかし旧表土が遺構検出面より数10cmは高かったことを考慮すれば、通常の耕作による畝跡とはみなし難く、天地返し等の深掘り跡等と考えられよう。ＳＤ80・84・85溝から須恵器蓋ＥⅡｂ類が出土している



第26図　条里復元図

他、ＳＤ79・80・84・86・127からは土師器Ｃ類と共にわずかではあるが土師器Ｄ類も出土していることから、遺構群の年代は８世紀中葉から下限は８世紀第４四半期までの幅が考えられる。しかし、Ⅱ期の年代が８世紀第４四半期中心と考えられたことから、Ⅲ期の年代はこれに続く時期とみられるが、土師器Ｃ類とＤ類の出土比率をみるとＣ類が大半をしめていることから、下限は９世紀まで降らないものと考えられる。

Ⅱ期・Ⅲ期の年代については、須恵器との共伴関係から８世紀第３四半期まで遡る可能性について検討する必要があろう。

３　遺跡の性格と周辺土地区割・字名

本遺跡は石核・土師器・須恵器が散布することから、縄文から平安時代までの集落遺跡と考えられていたが、調査の結果、縄文・弥生・古墳時代に関わる遺構・遺物は発見されず、土師器・須恵器を主体とする土器類での検討の結果、奈良時代中頃から後半期の遺跡であることが明らかになった。

発見された遺構は３期から４期にわたって変遷しており、掘立柱建物跡・一本柱塀跡・溝跡・土坑等であるが、当該時期の集落遺跡に一般的にみられる竪穴住居跡は一軒も発見されなかった。建物や塀は、方向を揃え、規格に沿って建てられていたことが伺われる。特にＳＡ111塀やＳＢ21建物は柱穴規模も大きく柱直径も太いことなど、一般集落にみられる塀・建物とは明らかに区別されよう。

出土遺物は土師器・須恵器等の土器類が大半を占めるが、当該時期には官製品として一般にはあまり普及していない須恵器が比較的多いこと、硯が複数個体出土しており、特に大形のものものがあること、器種は土師器・須恵器とも甕・壺等の貯蔵容器・煮沸容器がほとんどなく、坏・蓋等の供膳容器が多いこと、意味は不明であるが、「玉」の線刻銘のある土師器があること等が特徴としてあげられよう。これらの点でも一般の集落とは異なった様相を示している。

地方に置かれた律令政府の施設としては国衙・郡衙・駅家・軍団等の他、陸奥国では城・柵等があるが、具体的な施設まで特定することができなかった。遺跡の範囲から推定される全体規模や検出した建物規模・配置等からみれば、国郡衙・城柵等の大規模な施設とは考え難く、律令行政の末端を担っていた施設と考えられよう。東側に広がる水田域を背景につくられた周辺の集落をまとめる郷に置かれた、租税徴収等を主たる業務とする官衙の出先機関に相当する施設とも考えられるが、類例の増加をまっての検討が必要である。

本遺跡の東側一帯には真北方向を基準とする畦畔が方眼状に認められた。大畦畔方眼の単位は、図上での計測によれば古代の一町に相当することから、律令制により施行された条里の地割痕跡と考えられる。この条里痕跡の観察された地域は、昭和22年撮影の航空写真によれば、陸奥国分寺・尼寺の南東、遠見塚古墳の東からその南一帯までに広がっている。現在の町名で

表記すれば、若林区一本杉町・大和町・中倉・遠見塚・蒲町・かすみ町・霞目・沖野・上飯田・H辺・今泉にあたる。本遺跡は沖野地区条里の西端に隣接し、条里施行面より若干高い自然堤防の微高地上に位置している。この条里遺構に対しての発掘調査は、これまでいくつかの地区で行われてきたが、大畦畔位置や施行年代を検討する資料は得られていない。真北基準の条里地割の方向と国分寺伽藍中軸線の方向が5°程ずれていることから、仙台平野における条里の施行は国分寺の造営以降とする考え方（註14）もあるが、開始年代は不明である。今回の調査により発見したⅠ期の塀跡・建物跡が方向・位置等の点で条里地割との関連性があると考えられることから、条里の施行も8世紀中葉には行われていたものと考えられる。

遺跡名となった神柵（カミサク）の字名は、昭和61年まで中柵（ナカサク）等とともにこの地区に残っていたもので、その出自・初見については判然としない。日本書紀・続日本紀等に記載があり、古代陸奥国・出羽国に置かれた律令政府の施設も柵とよばれるが、現在の仙台周辺地域では、多賀城（多賀柵）以外にはこれにあたるものはなく、字名が古代の柵に通じるものとは言及しがたい。柵（サク）は「ヤライ＝矢来」とも読み、木や竹等で囲まれた土地を意味しており、東に隣接する沖野城に関連する中世あるいはそれ以降の屋敷跡に関係して付されたものとも考えられよう。神柵（カミサク）の表記は本来は中柵（ナカサク）に対して上柵（カミサク）としたものが転訛したものとみられる。

4　ま　と　め

(1) 発見された遺構は4時期の変遷が認められた。その内2時期において掘立柱建物や一本柱塀が方向を揃え立ち並び、同時代の一般集落とは異なった様相を示している。また、建物跡や塀跡が調査区の外まで延びており、全体規模は確定できなかったが、遺跡の範囲は周辺に広がっていることが明らかとなった。

(2) 出土した土器類は検討の結果、8世紀中葉から後半期のものと考えられた。土師器はロクロを使用したものと不使用のものがあり、土師器製作におけるロクロ技術の導入期にあたる。土器類の器種は甕・壺等の煮沸・貯蔵容器が少なく、坏・椀等の供膳容器が大半をしめている。また、同一書体とみられる「王」の線刻文字が複数の坏底部にあること、大型のものを含む3点の硯があること等、文字に関する遺物が出土している。

(3) 建物群や塀の方向は真北を基準にするものがあり、塀は東側一帯に見られる条里地割の一町割想定線上にあたっている。東部の条里遺構の調査はこれまで全く行われていないことから、関連性については言及しがたいが、今後、条里遺構とあわせ、周辺微高地の調査をまって検討する必要があろう。

(4) 遺構・遺物の検討により本遺跡は奈良時代後半から平安時代初期の遺跡で、律令行政の末端を担う郷等に置かれた、官衙の出先機関の施設等と考えられよう。

註

註1　仙台市教育委員会により、平成４年度以降も継続調査の予定。

註2　仙台市教育委員会「下飯田遺跡現地説明会資料」(1991)

註3　延宝五（1677）年、伊達藩が幕府に提出したと伝えられる。
「仙台叢書」第四巻（復刻版）宝文堂（1971）

註4　氏家和典「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第14輯（1957）

註5　仙台市教育委員会「下ノ内浦遺跡」仙台市文化財調査報告書第59集（1983）

註6　宮城県教育委員会「清水遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅴ」宮城県文化財調査報告書第77集（1981）

註7　多賀城跡調査研究所「伊治城跡Ⅰ」多賀城関連遺跡発掘調査報告書第３冊（1978）

註8　宮城県教育委員会「宮前遺跡－朽木橋横穴古墳群・宮前遺跡」宮城県文化財調査報告書第96集（1983）

註9　岡田茂弘・桑原滋郎「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」『多賀城跡調査研究所研究紀要Ⅰ』(1974)

註10　白鳥良一「多賀城跡出土土器の変遷」『多賀城跡調査研究所研究紀要Ⅶ』(1980)

註11　瀬峰町教育委員会「大境山遺跡」瀬峰町文化財調査報告書第４集（1983）

註12　古川市教育委員会「名生館遺跡Ⅶ」古川市文化財調査報告書第６集（1987）

註13　宮城県教育委員会「硯沢・大沢窯跡ほか」宮城県文化財調査報告書　第116集（1987）

註14　鈴木嘉吉「寺院」古代史発掘９『埋もれた宮殿と寺』講談社（1974）

参考文献

宮城県教育委員会「日の出山窯跡群」宮城県文化財調査報告書第22集（1970）

涌谷町教育委員会「長根窯跡」(1971)

涌谷町教育委員会「長根窯跡群Ⅱ」(1972)

多賀城跡調査研究所「多賀城跡」『多賀城跡調査研究所年報1981』(1982)

渡辺信夫編「宮城の研究１　考古学編」(1984) 清文堂

矢本町教育委員会「赤井遺跡　第１次発掘調査報告」矢本町文化財調査報告書第１集（1987）

村田晃一「宮城県における奈良・平安時代の土器」(1989)

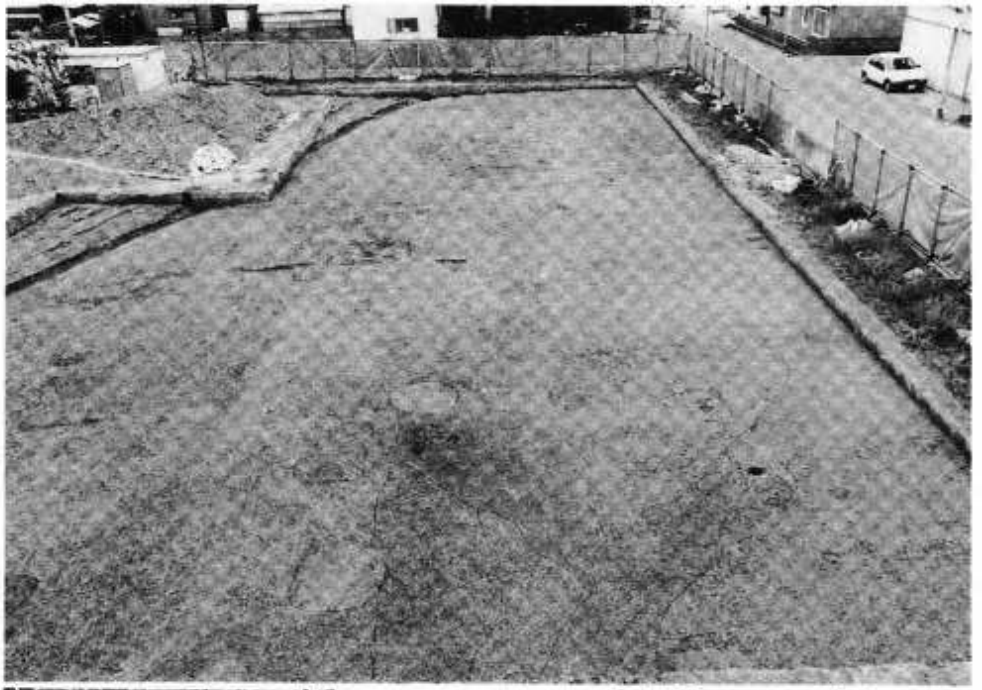
多賀城市「多賀城市史　第４巻　考古資料」(1991)

仙台市教育委員会「南小泉遺跡　第20次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第153集（1991）

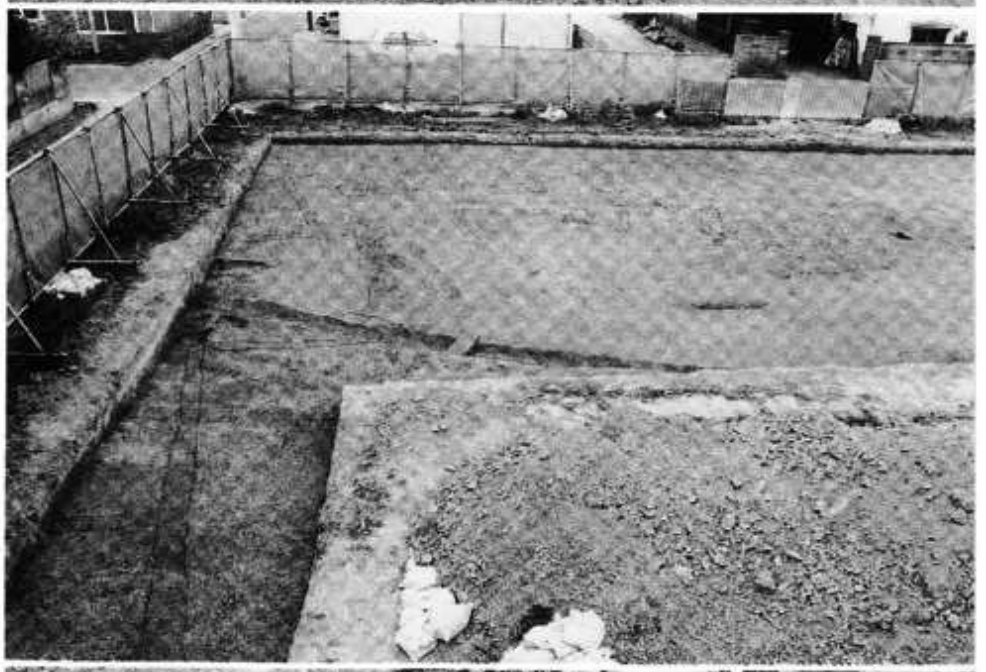
写　真　図　版

図版１　神柵遺跡航空写真（昭和59年撮影）

図版２　神楽遺跡航空写真（昭和22年撮影）

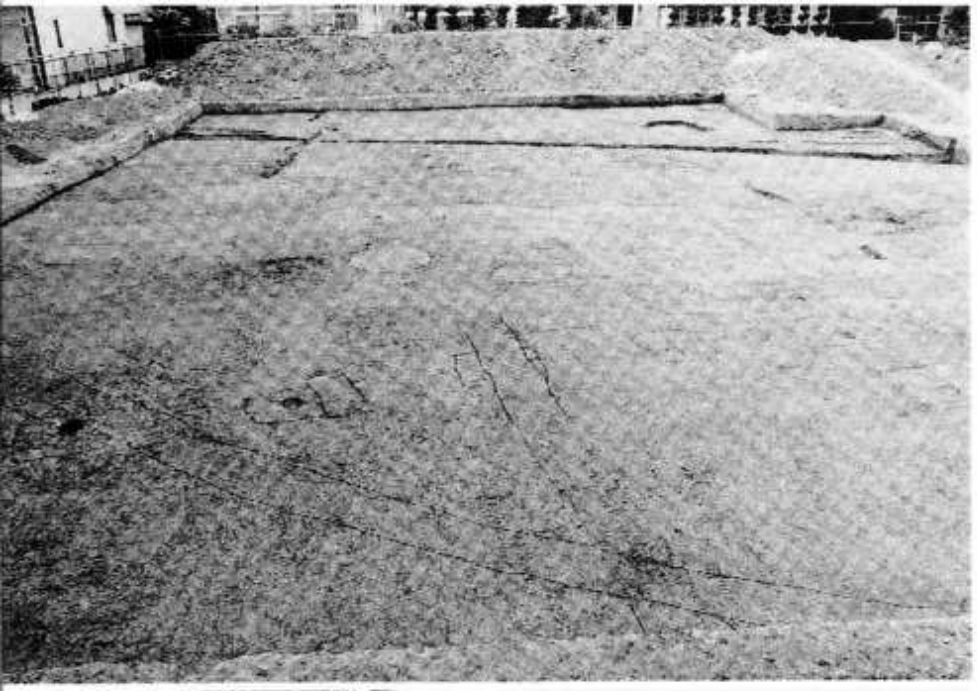


図版 3
全区遺構検出状況
（西より）



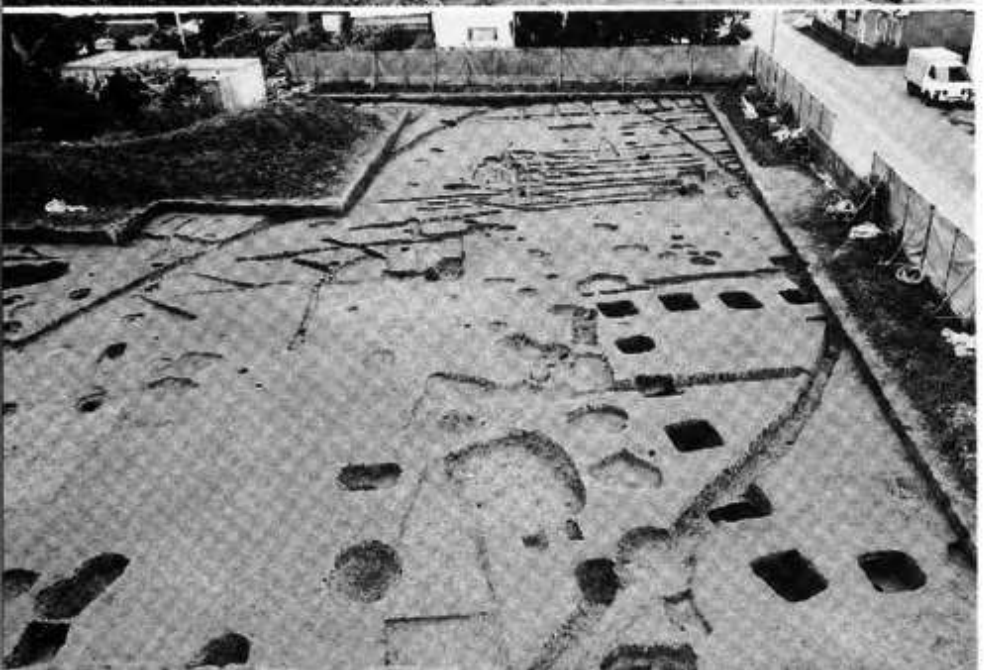
図版 4
東区遺構検出状況
（北より）

図版 5
東区遺構検出状況
（南より）

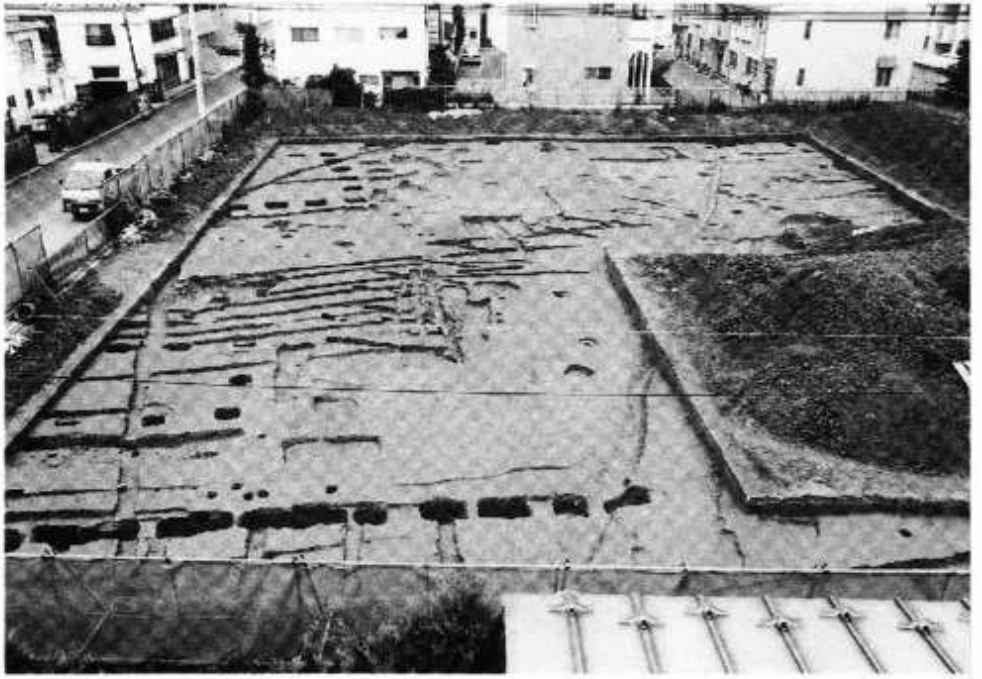


図版6
南区・北区
遺構検出状況
（南より）

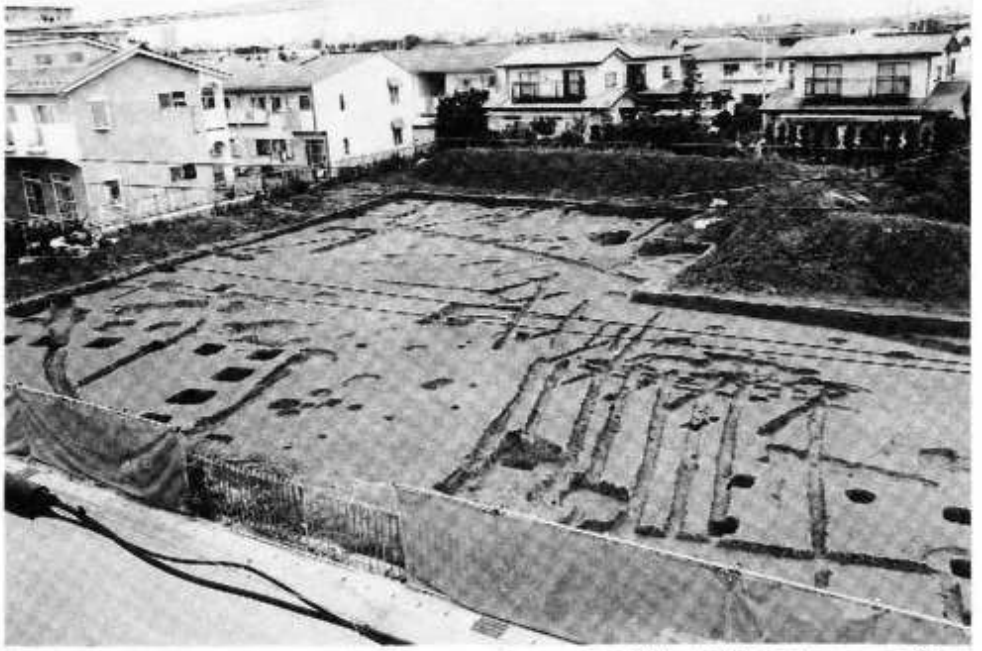
図版7
調査区全景
（北西より）



図版8
調査区全景
（西より）

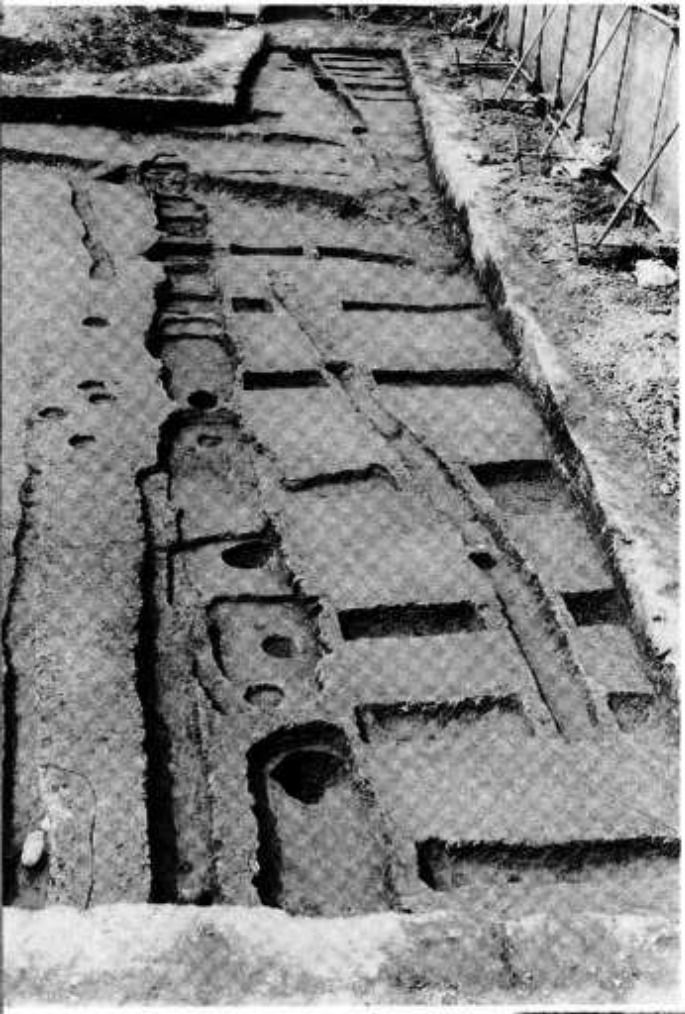


図版 9
調査区全景
（東より）

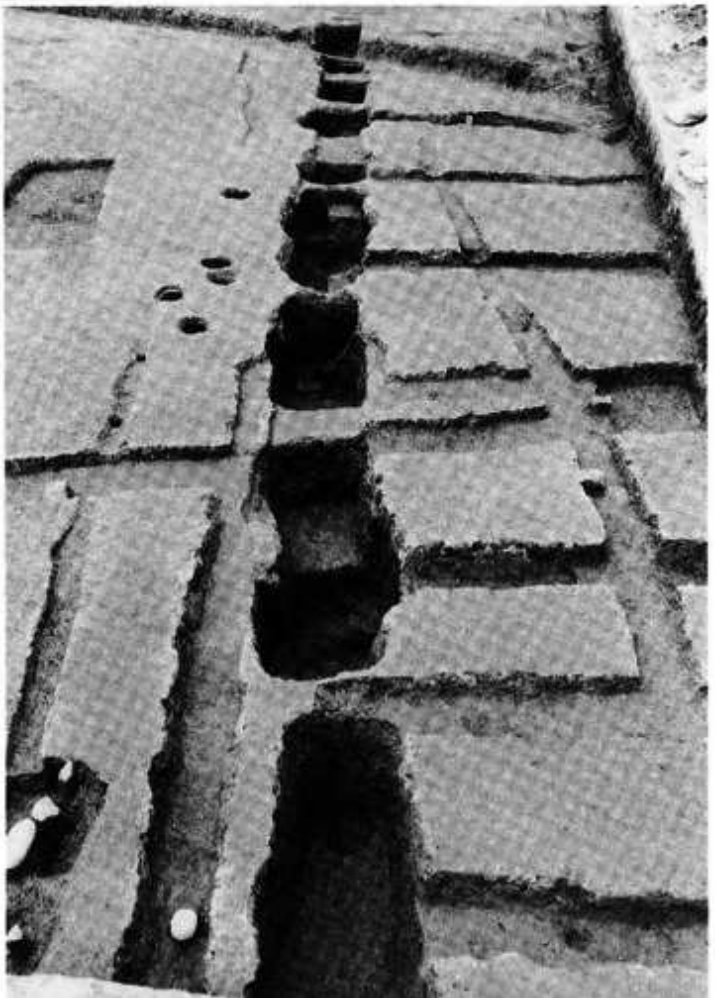


図版10
調査区全景
（南より）

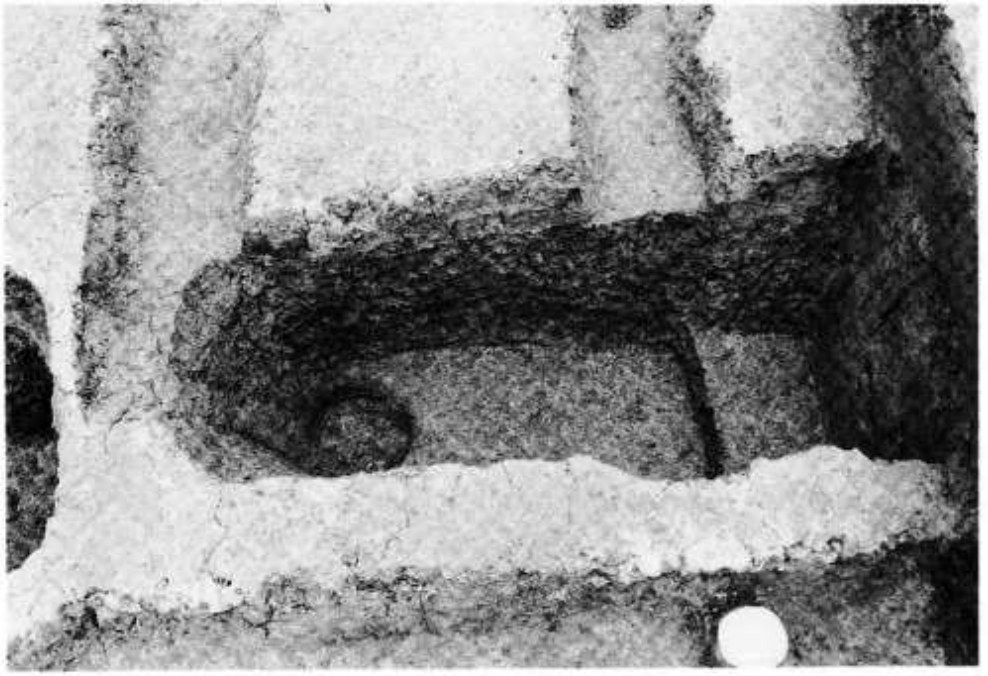
図版11
調査区全景
（南より）



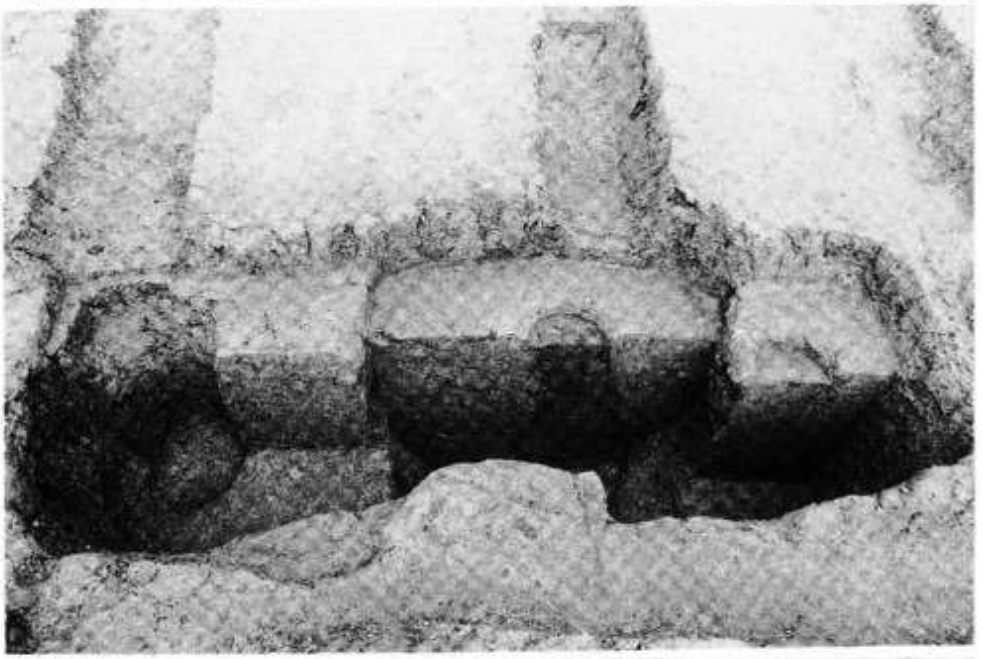
図版12
SA111全景
（南より）



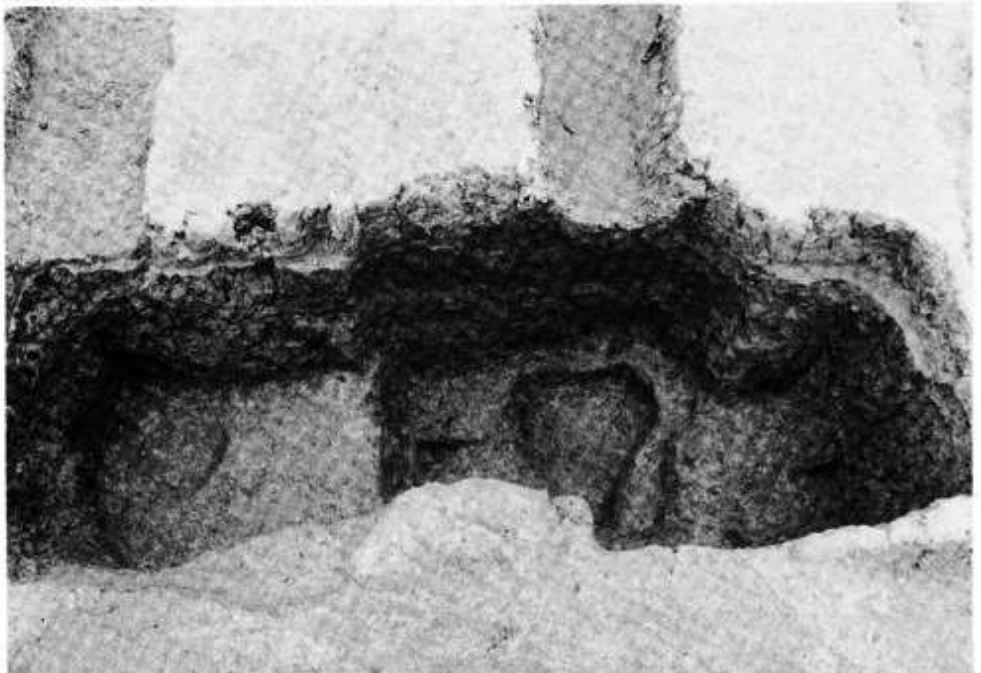
図版13
SA111完掘全景
（南より）



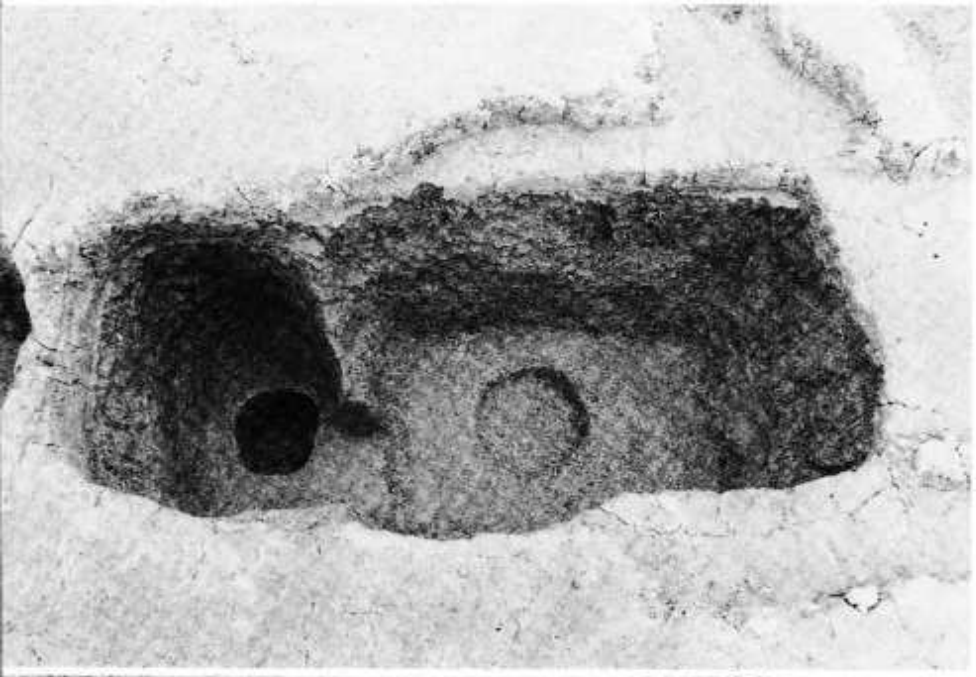
図版14
SA111 南1
柱穴完掘全景
（西より）



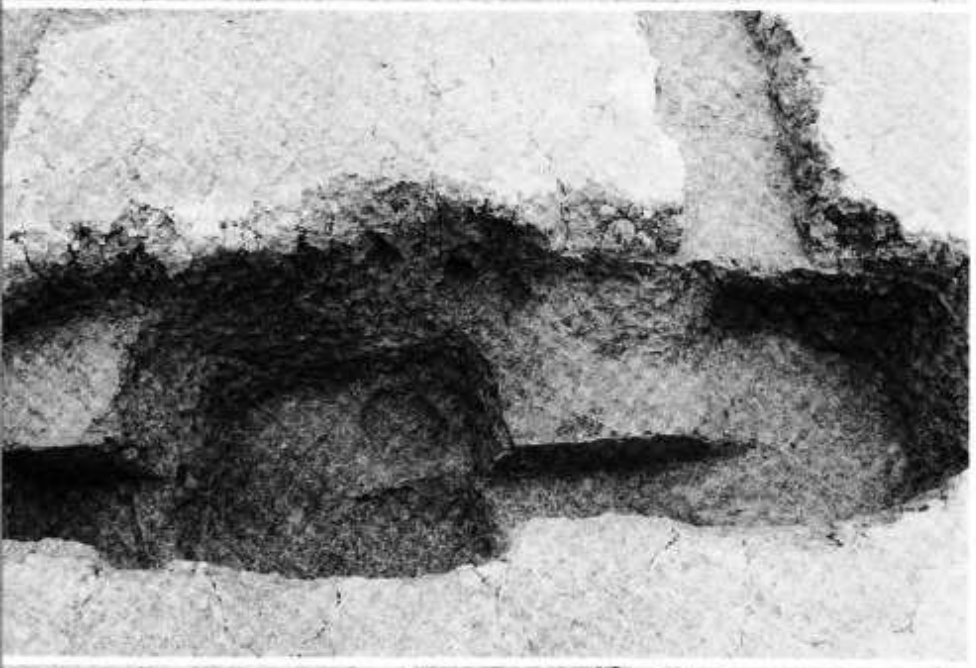
図版15
SA111 南2
柱穴土層断面
（西より）



図版16
SA111 南2
柱穴完掘全景
（西より）

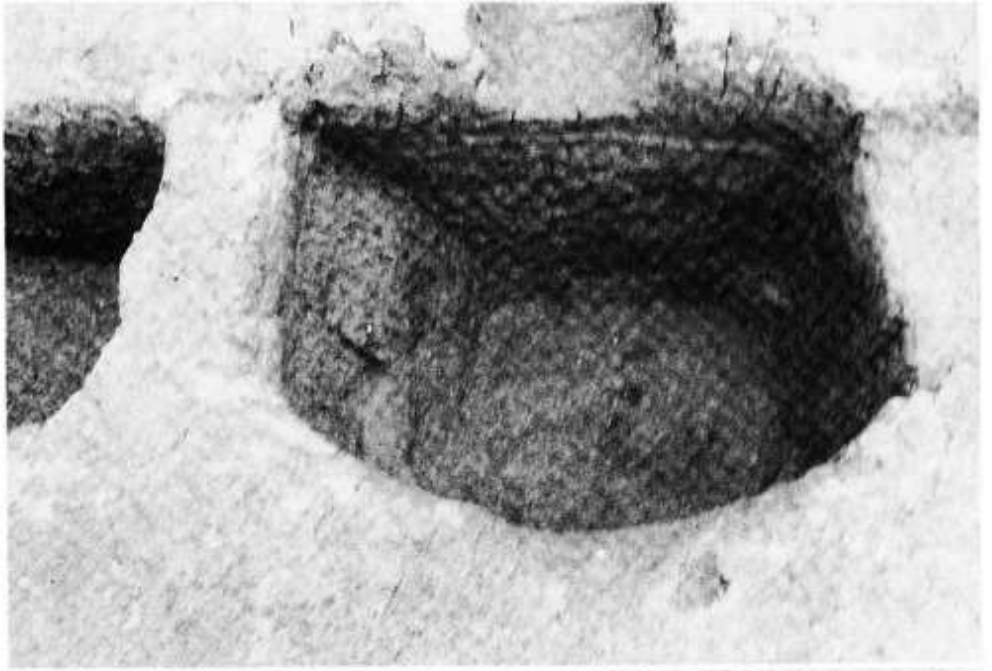


図版17
SA111 南3
柱穴完掘全景
（西より）

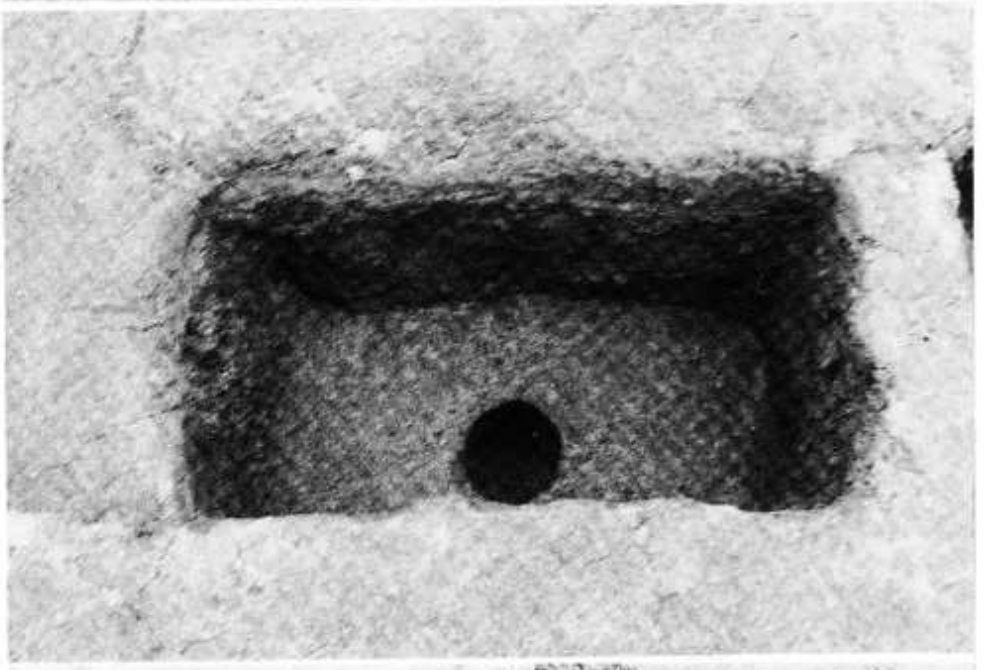


図版18
SA111 南4
柱穴完掘全景
（西より）

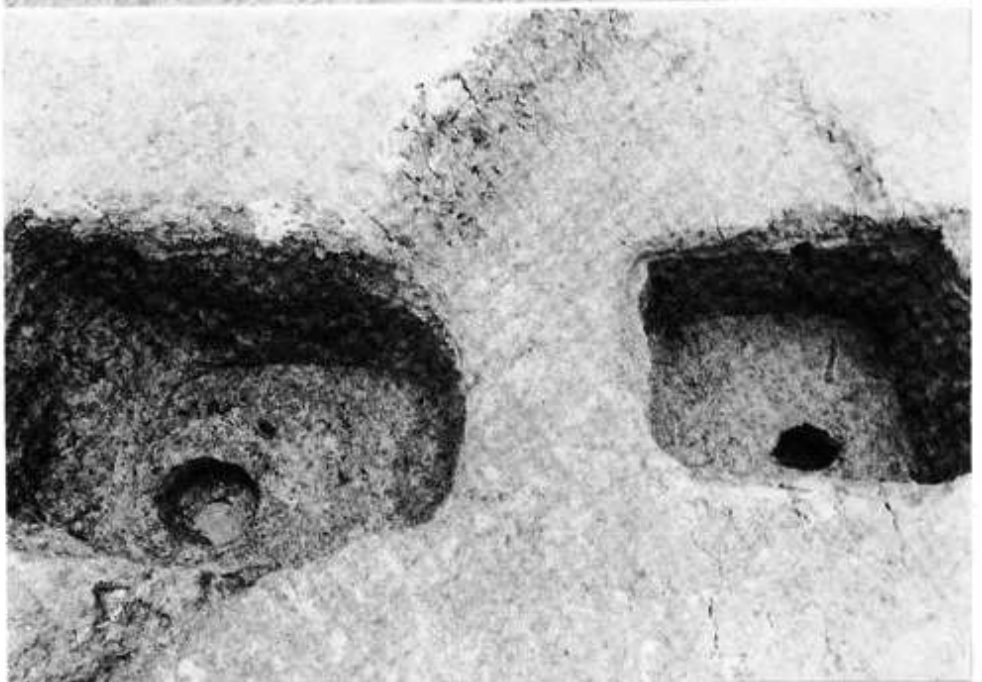
図版19
SA111 南5
柱穴完掘全景
（西より）



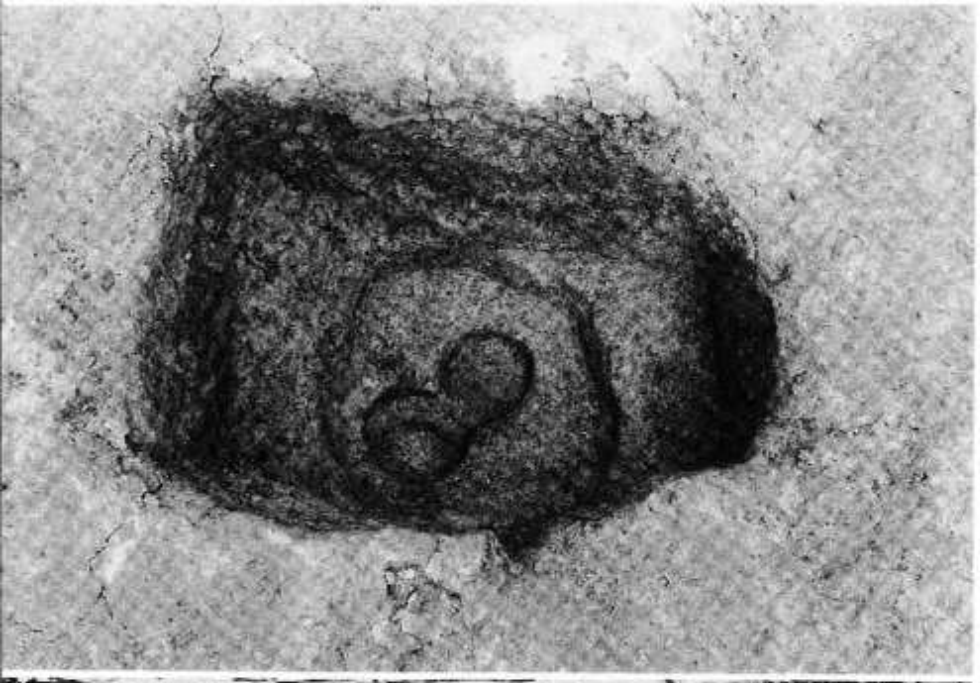
図版20
SA111 南6
柱穴完掘全景
（西より）



図版21
SA111 南7
柱穴完掘全景
（西より）

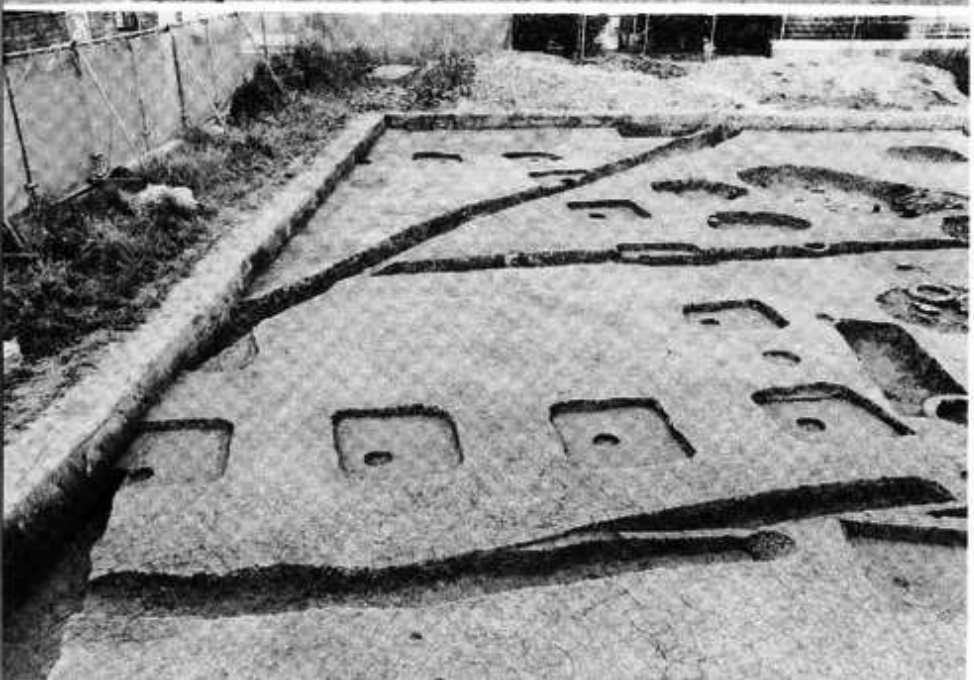


図版22
SA111 南8
柱穴完掘全景
（西より）

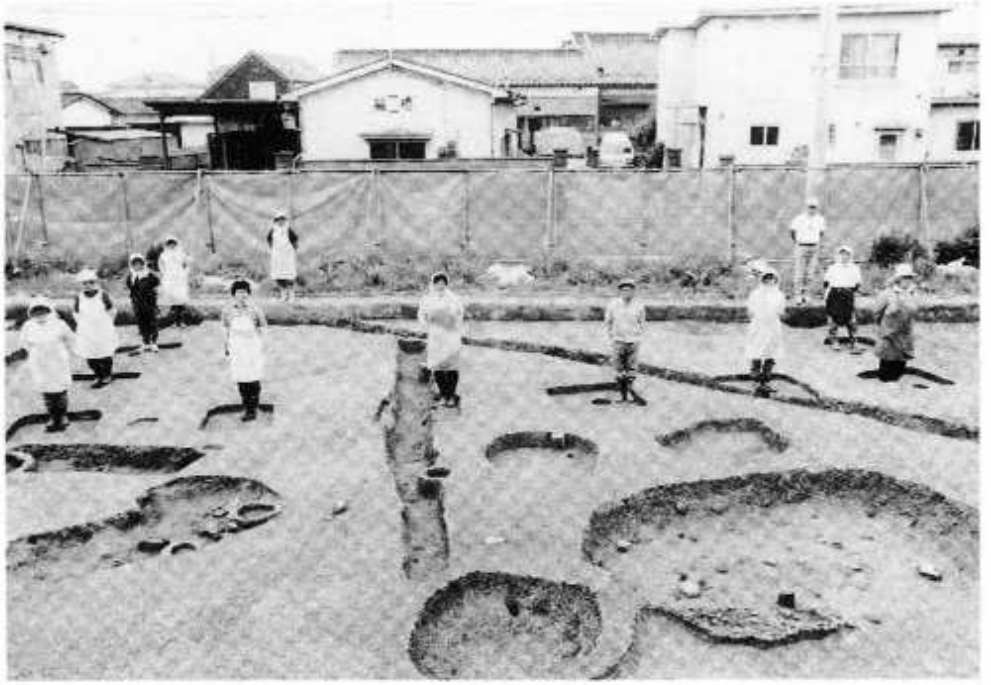


図版23
SA111北端完掘全景
（西より）

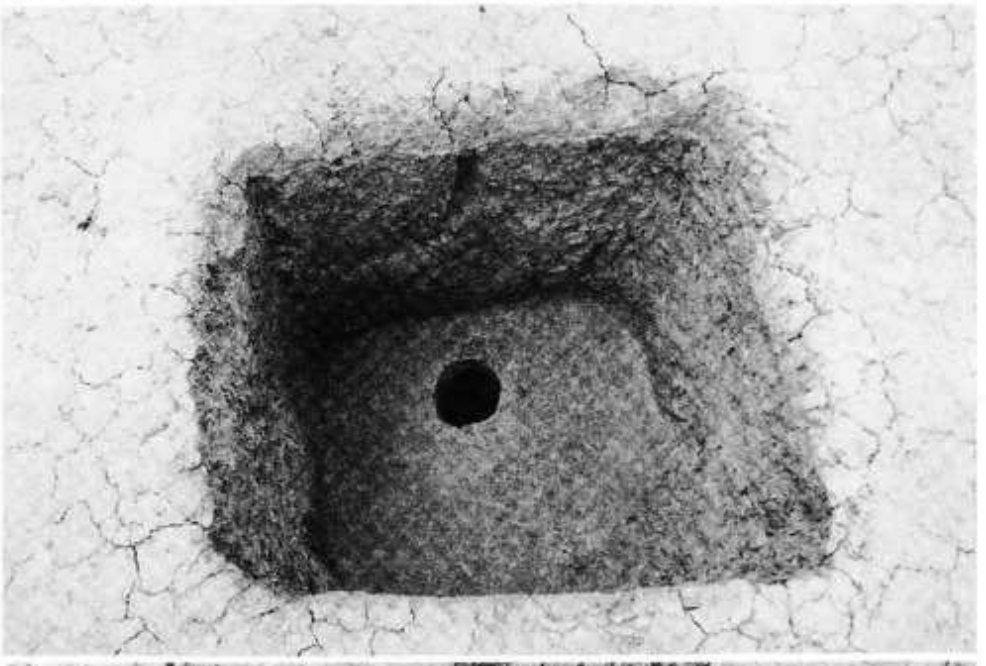
図版24
SB21全景
（西より）



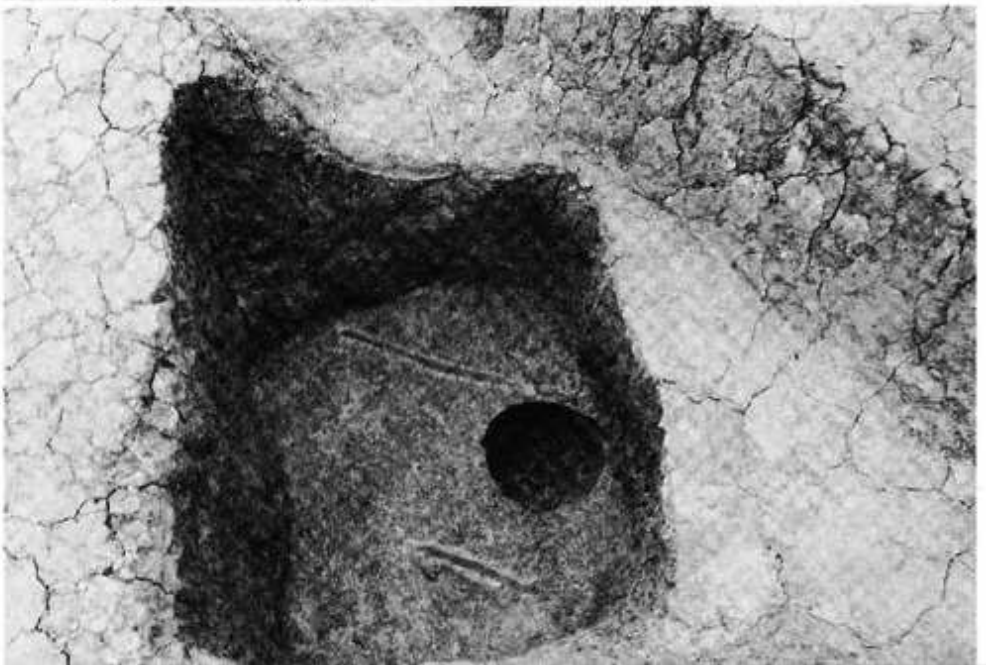
図版25
SB21全景
（東より）



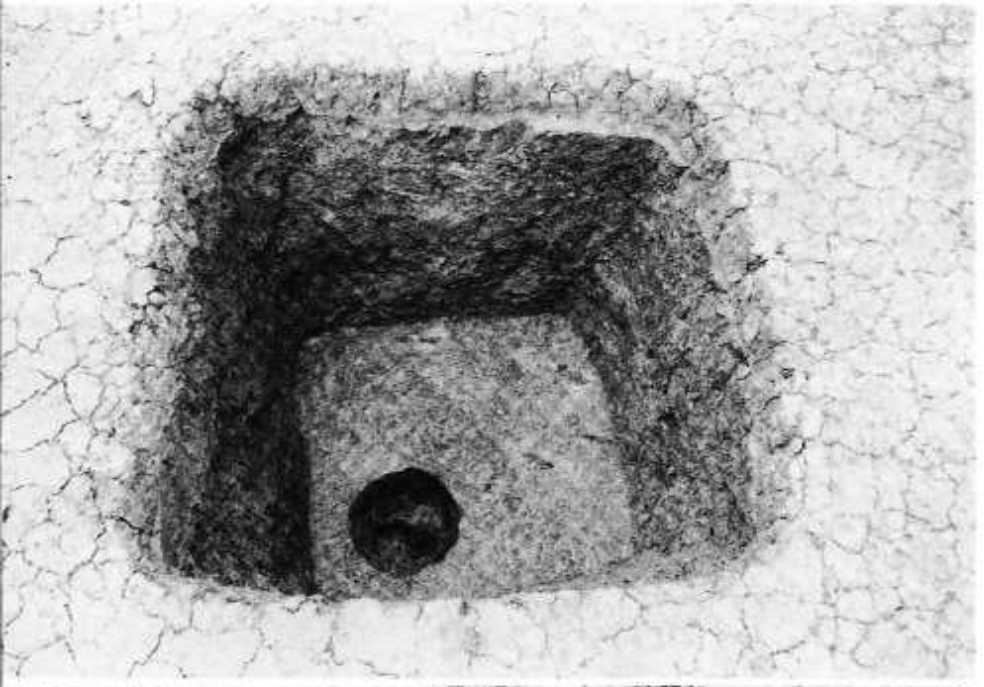
図版26
SB21全景
（北より）



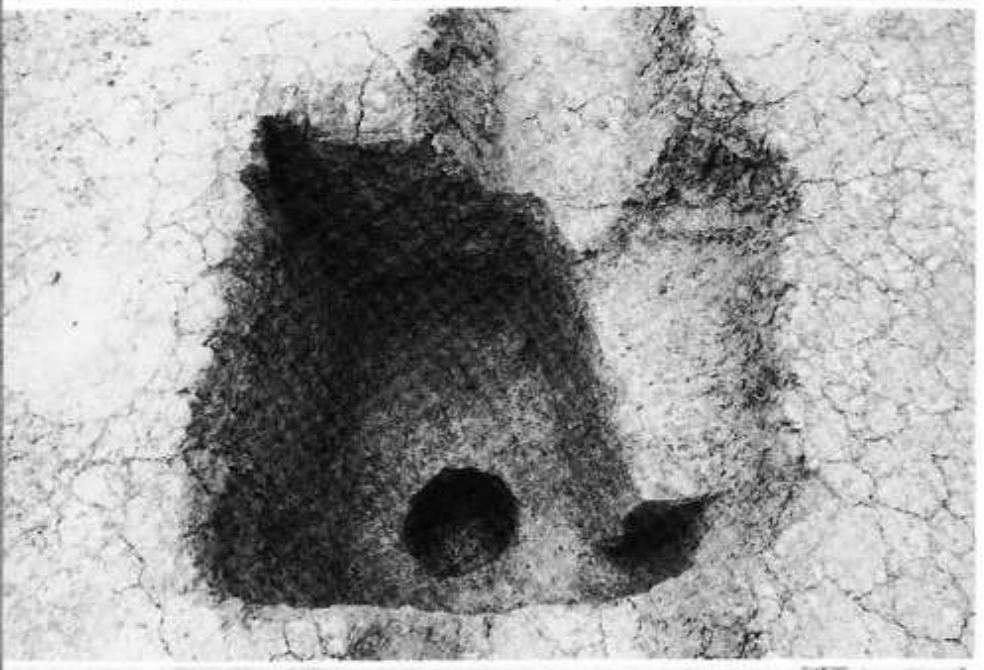
図版27
SB21北1西1
柱穴完掘全景
（南より）



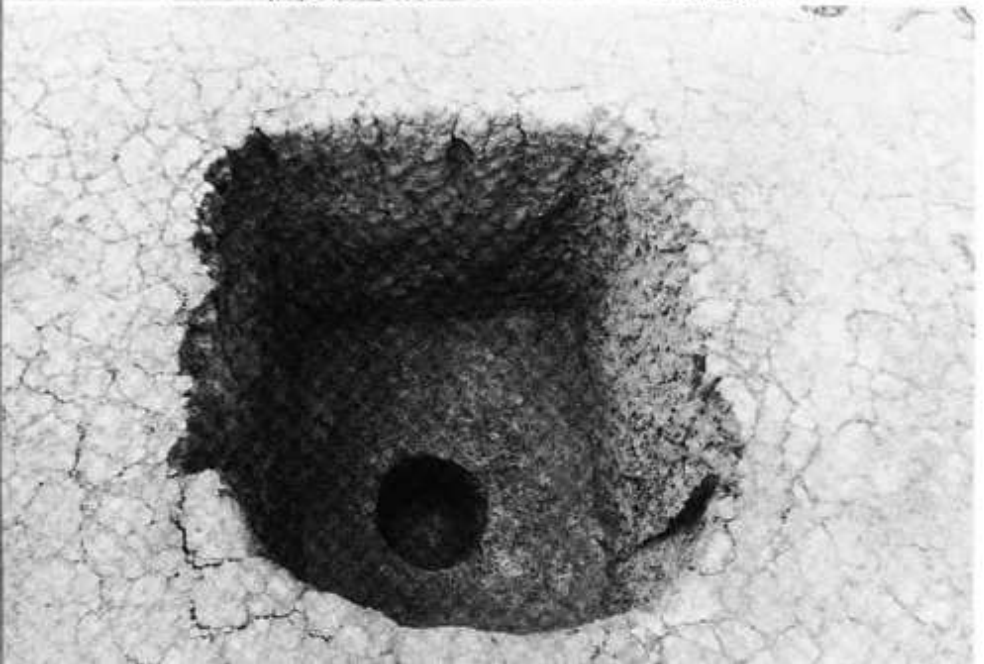
図版28
SB21北1西2
柱穴完掘全景
（南より）



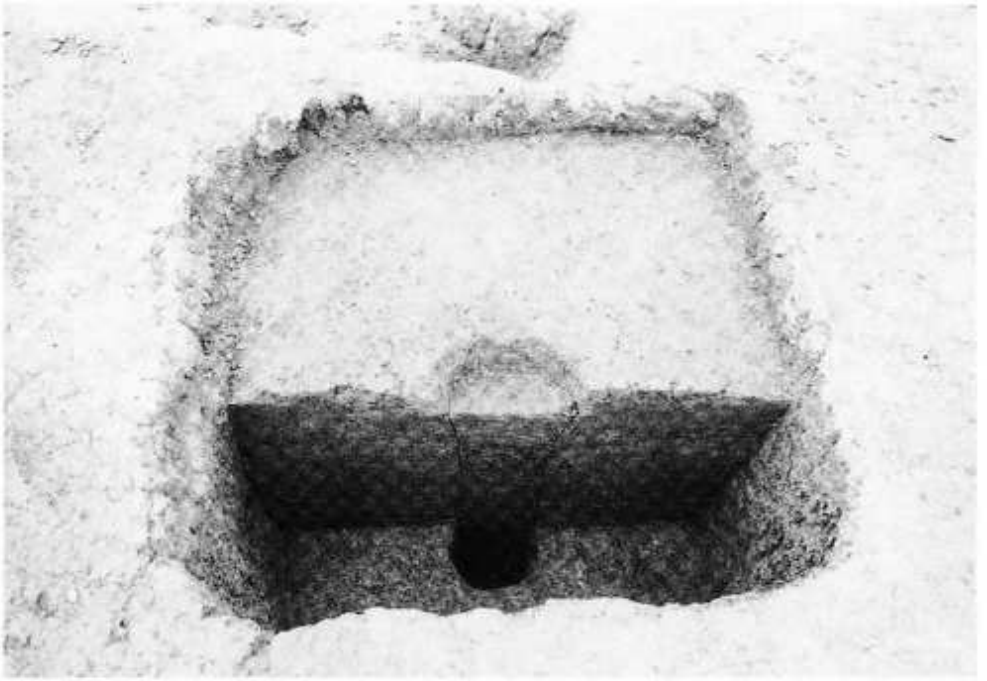
図版29
SB21北1西3
柱穴完掘全景
（南より）



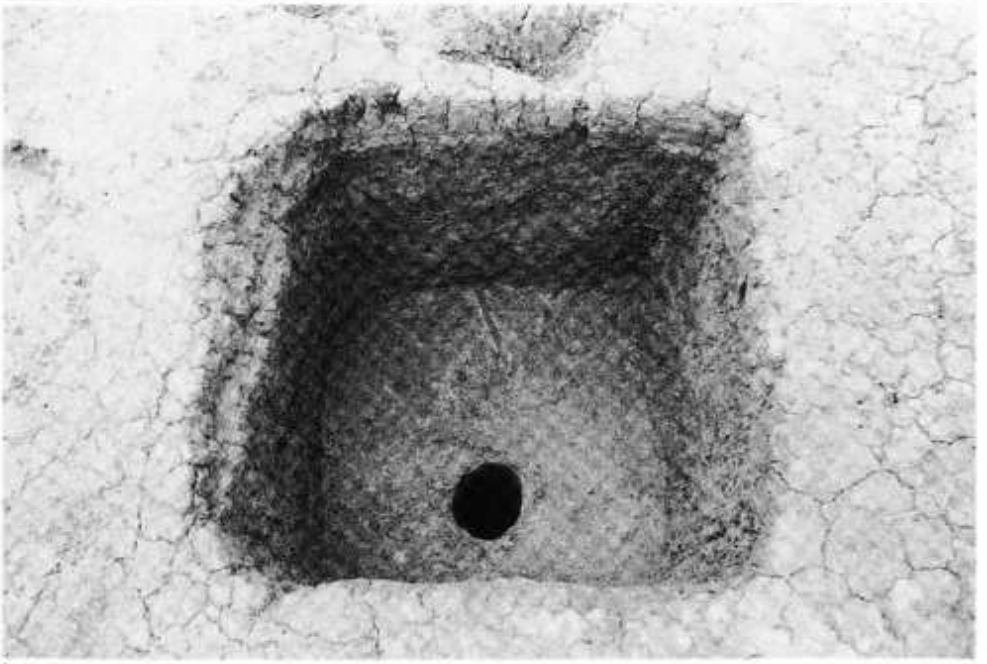
図版30
SB21北1西4
柱穴完掘全景
（南より）



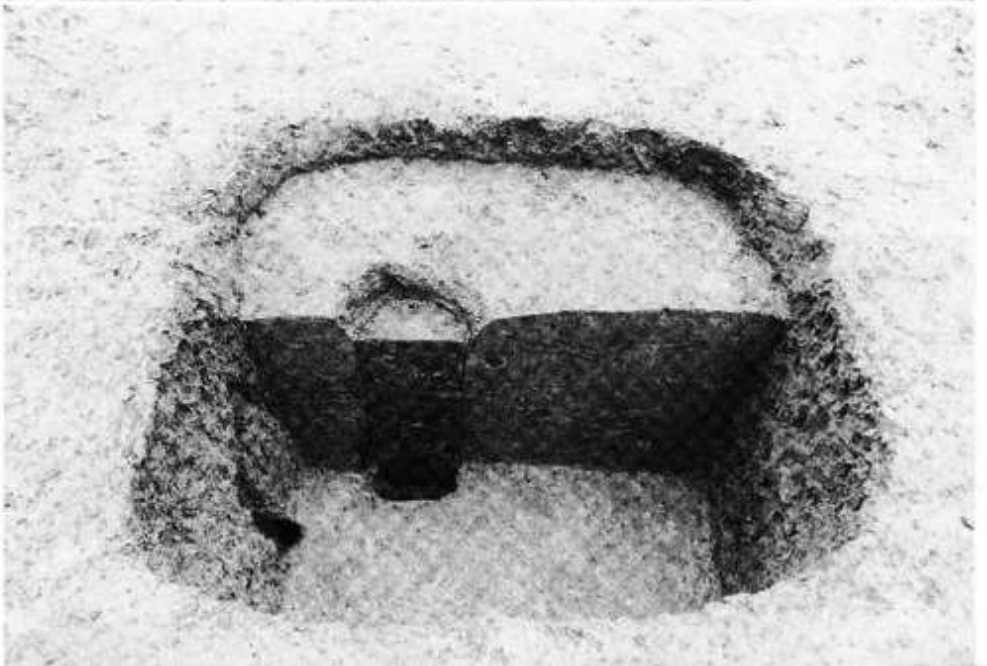
図版31
SB21北1西5
柱穴完掘全景
（南より）



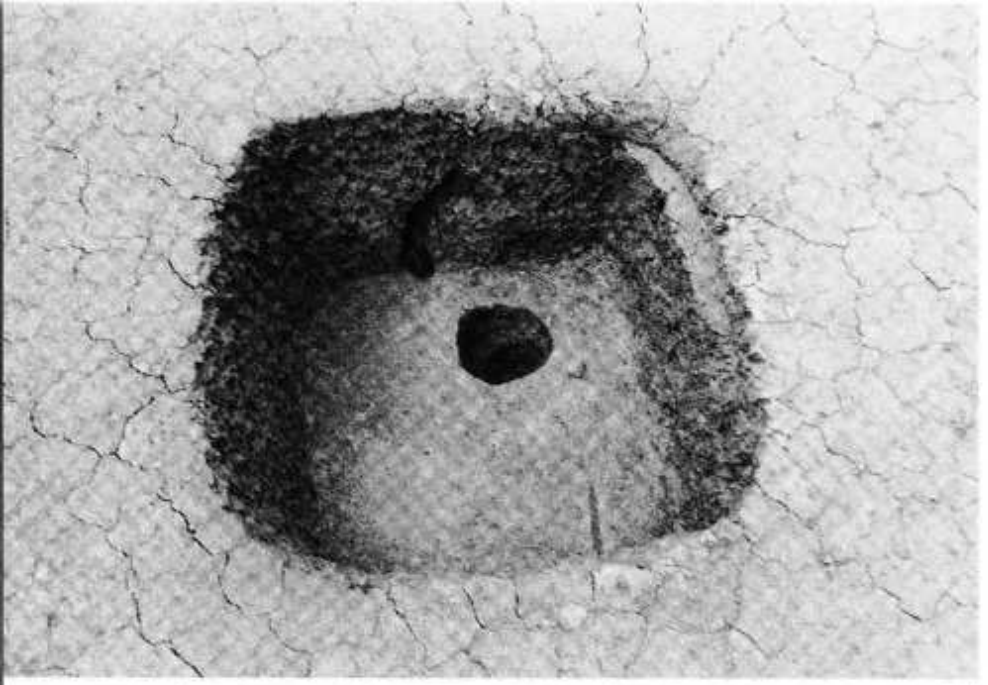
図版32
SB21北1東1
柱穴土層断面
（南より）



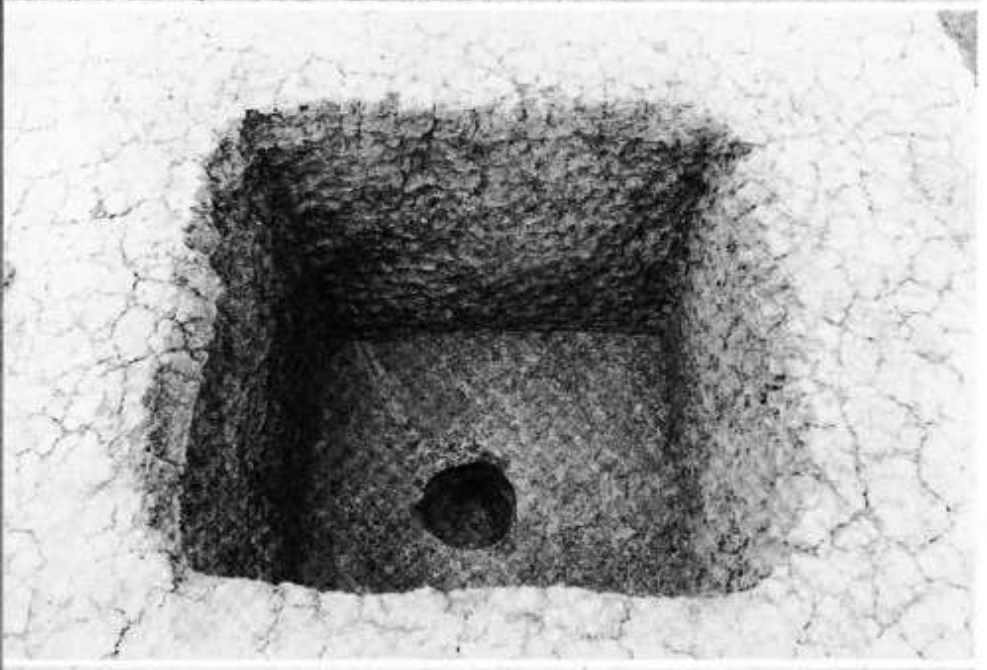
図版33
SB21北1東1
柱穴完堀全景
（南より）



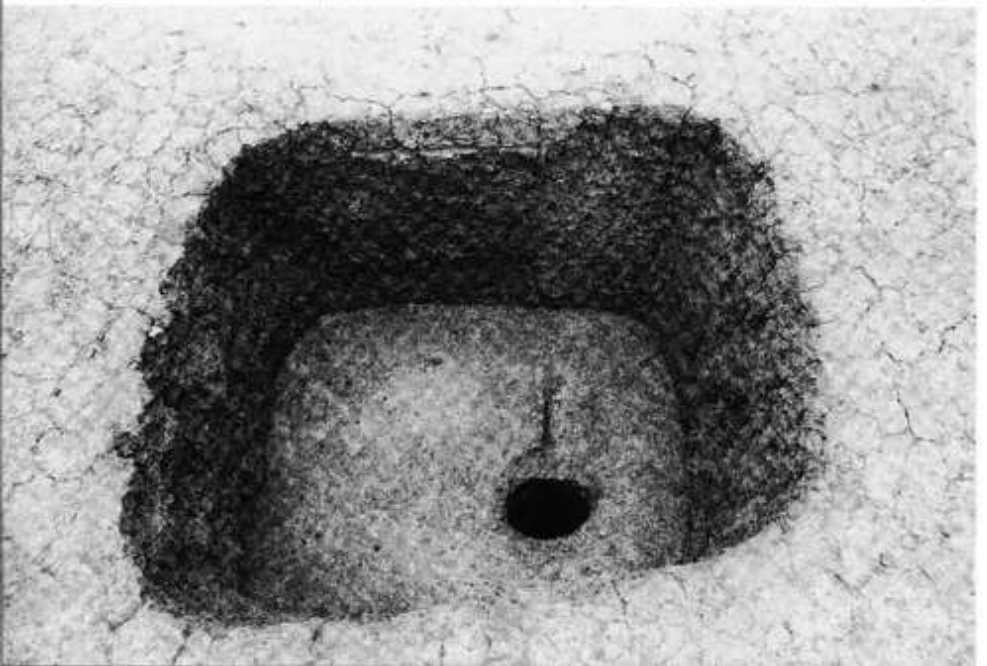
図版34
SB21北2西1
柱穴土層断面
（西より）



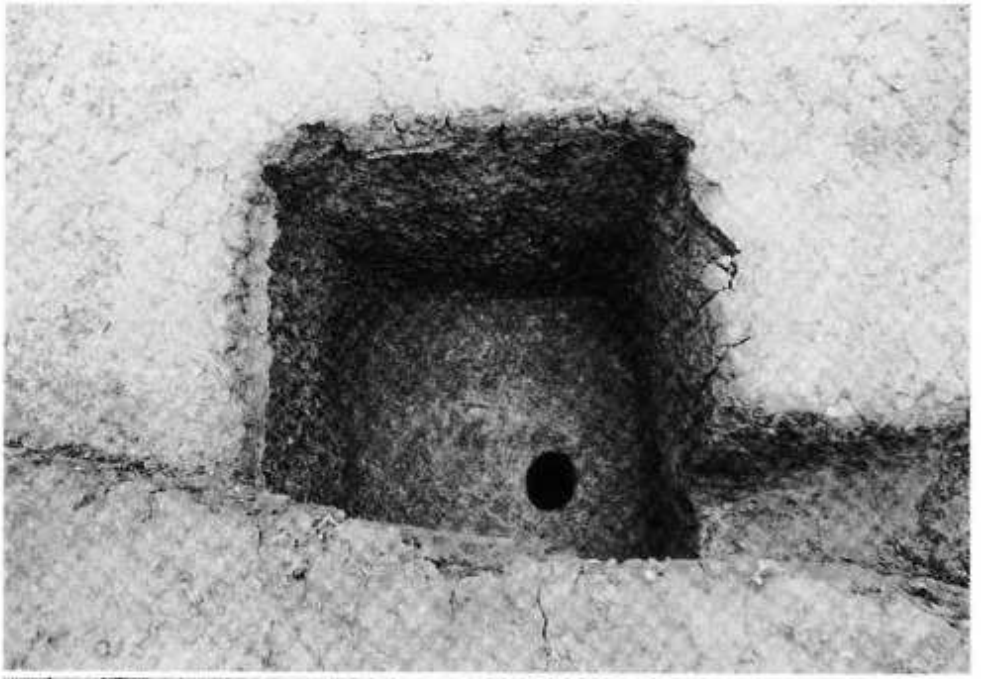
図版35
SB21北2西1
柱穴完掘全景
（南より）



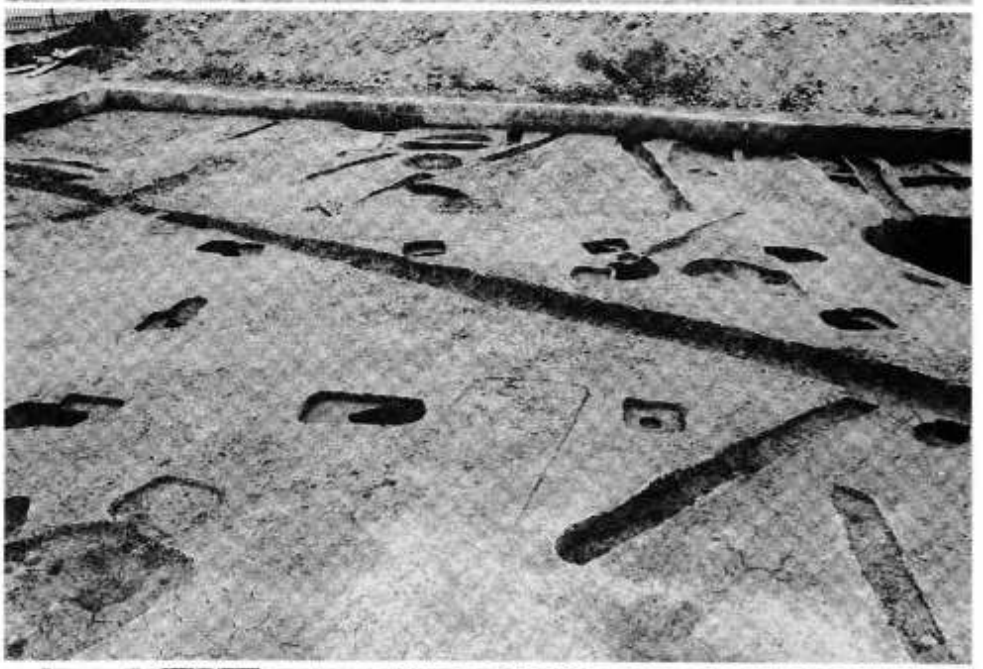
図版36
SB21北2東1
柱穴完掘全景
（南より）



図版37
SB21南2東1
柱穴完掘全景
（南より）

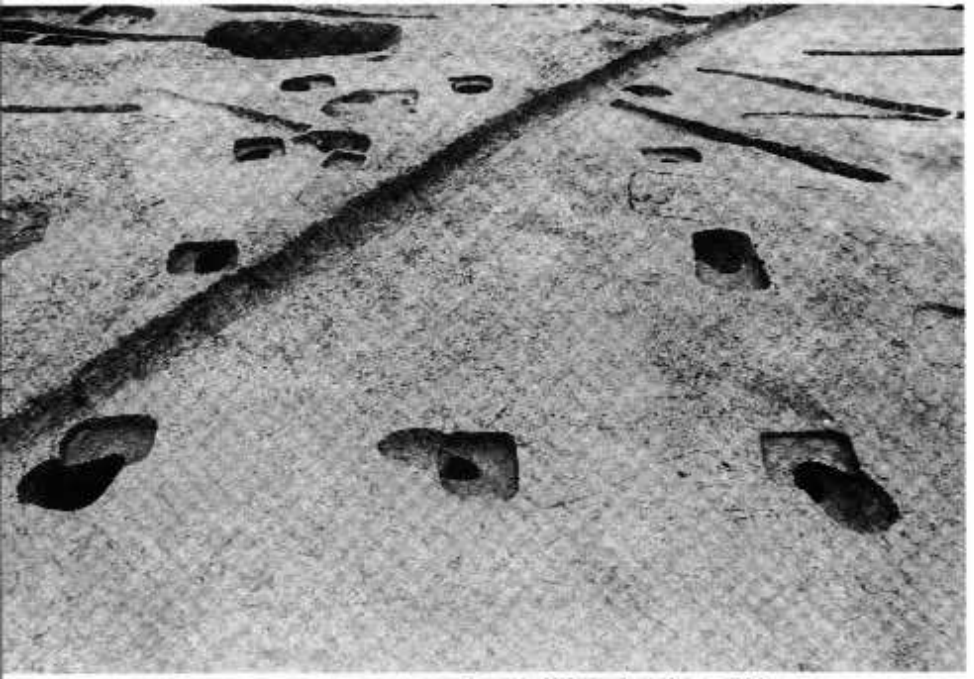


図版38
SB21南1東1
柱穴完掘全景
（南より）

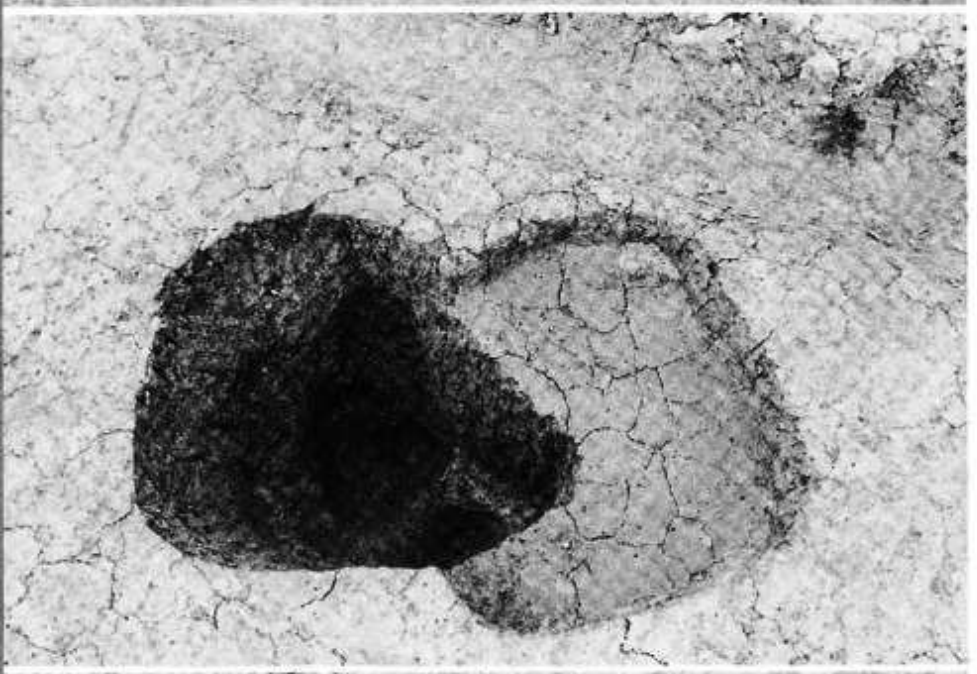


図版39
SB45全景
（南より）

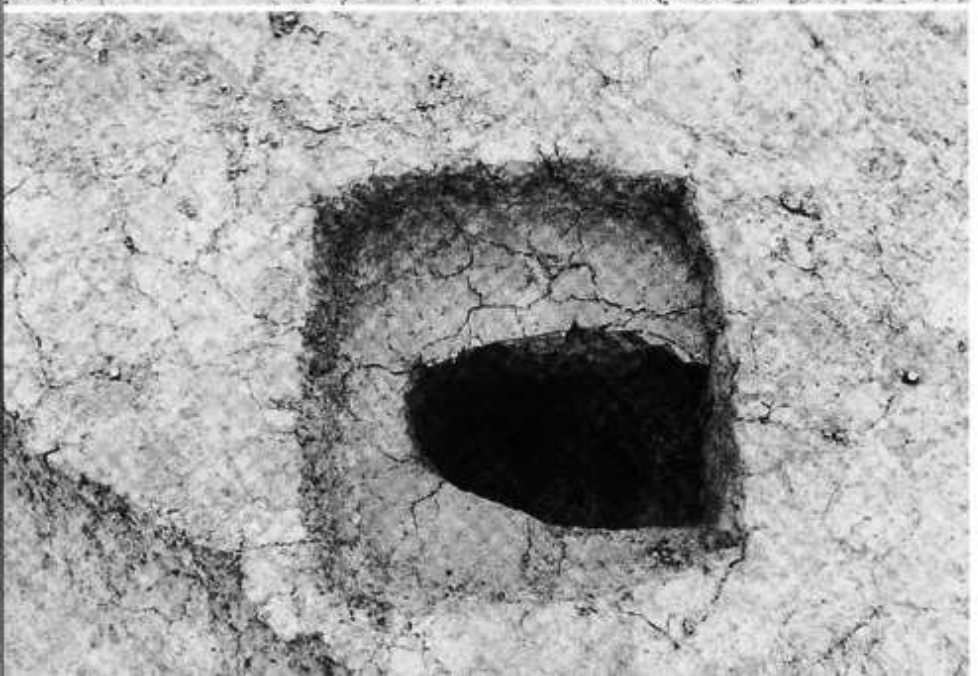
図版40
SB45全景
（南より）



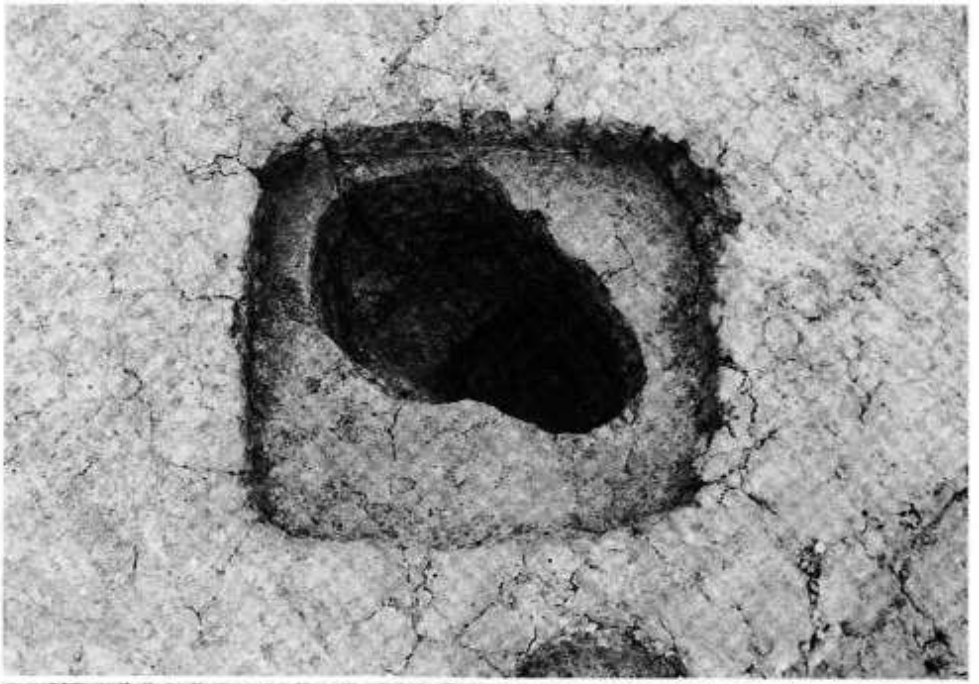
図版41
SB45全景
（西より）



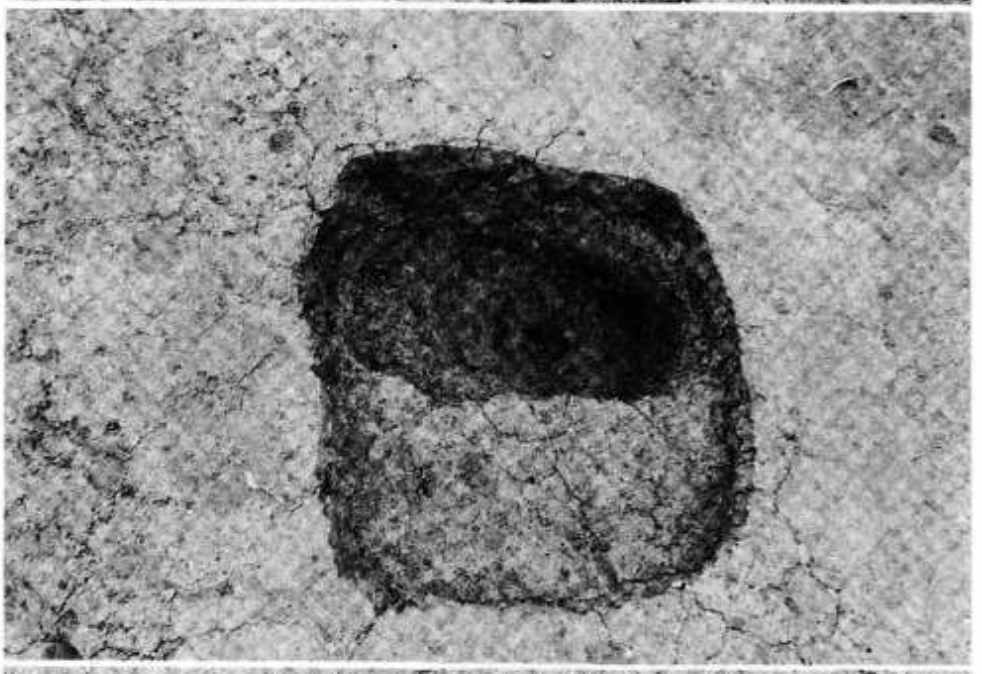
図版42
SB45北1西1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



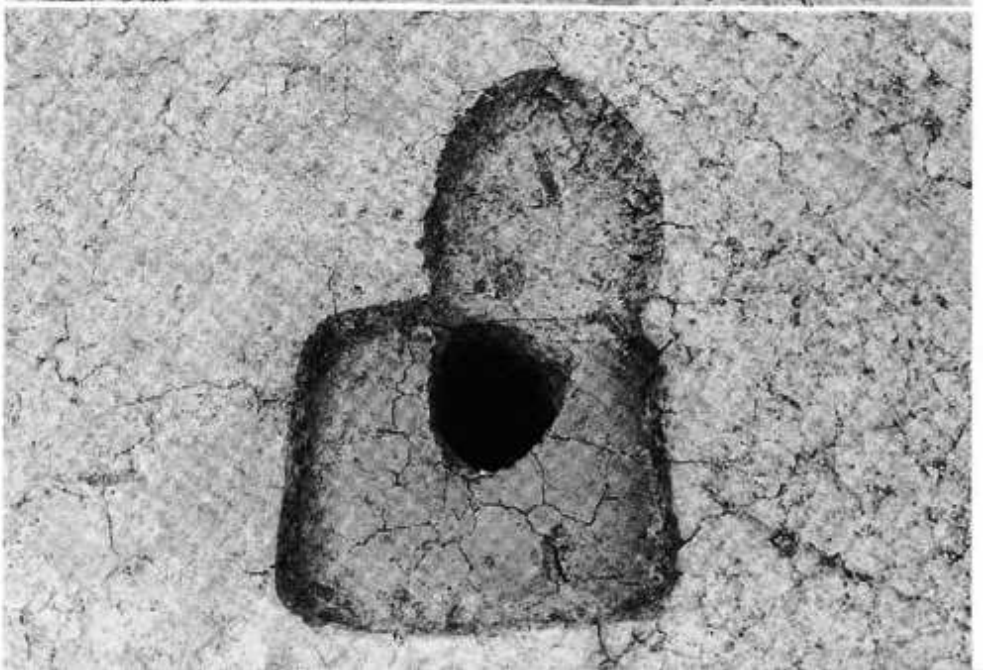
図版43
SB45北1西2柱抜
取穴完掘全景
（南より）



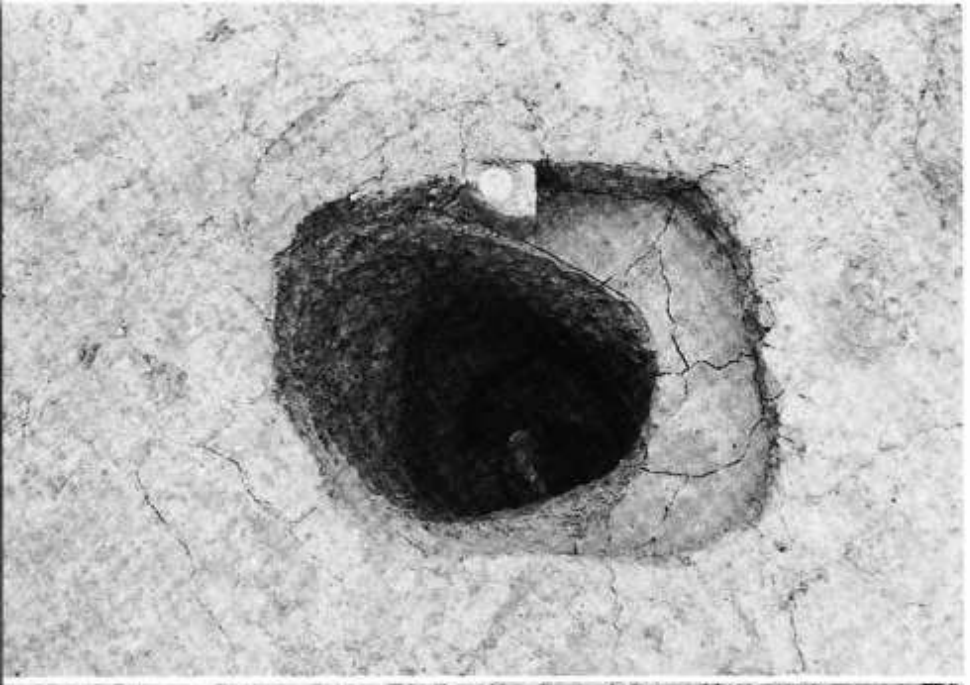
図版44
SB45北1西3柱抜
取穴完掘全景
（南より）



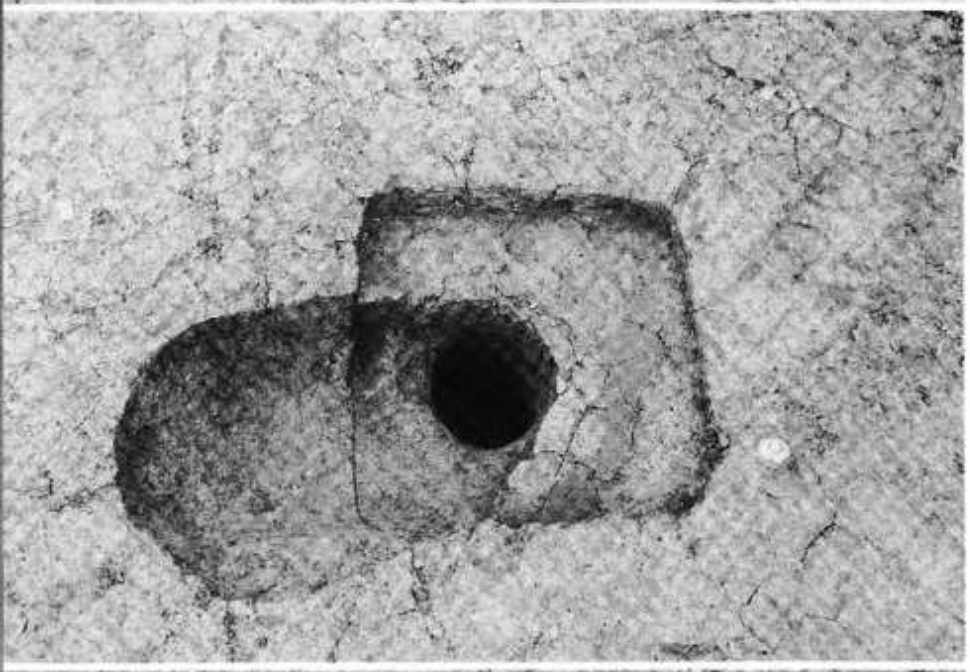
図版45
SB45北1東1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



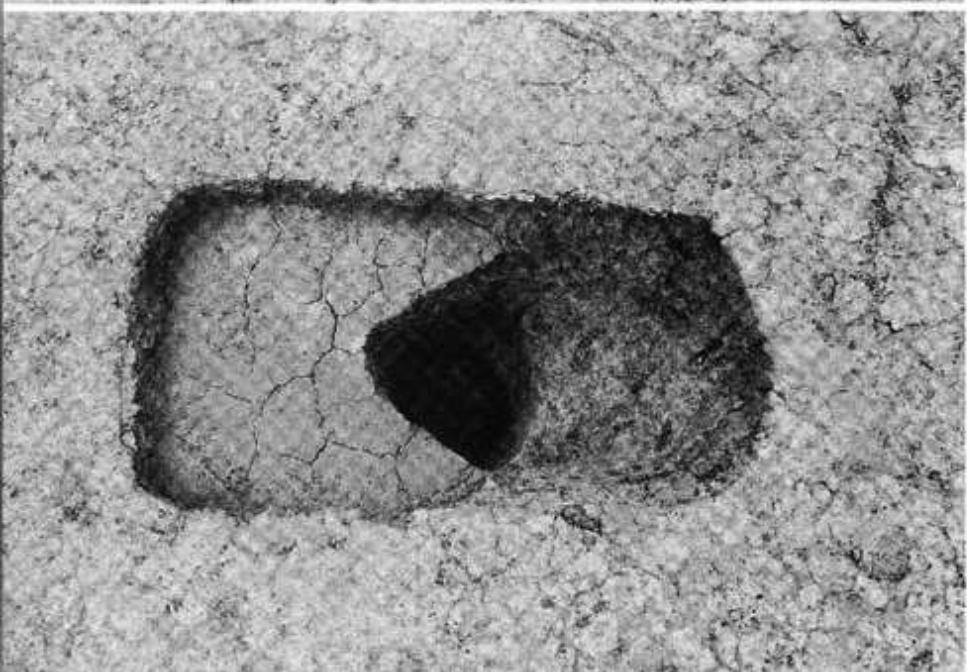
図版46
SB45南2西1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



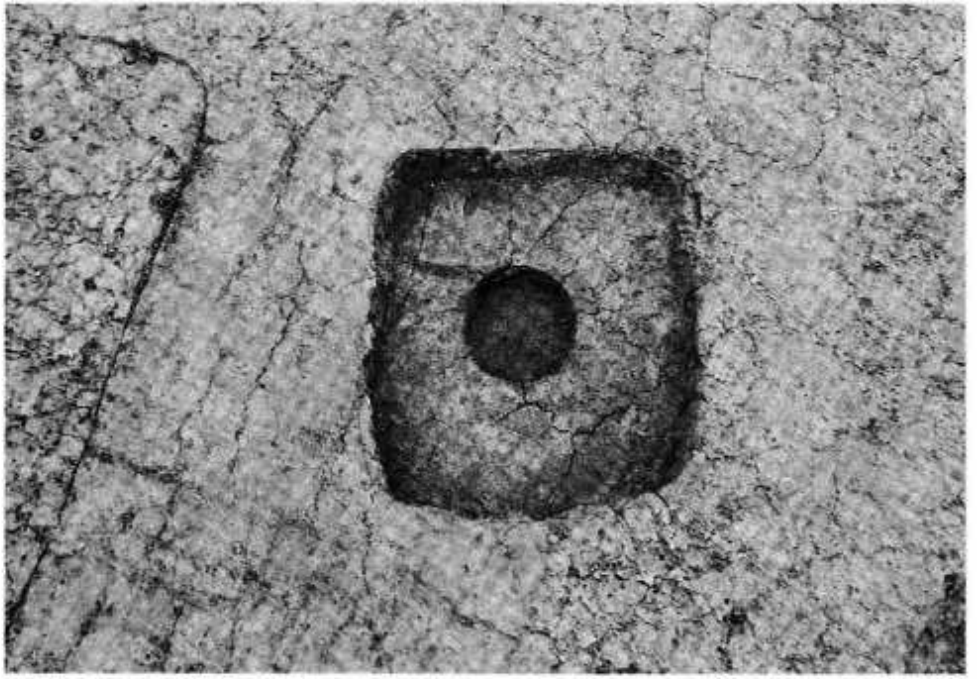
図版47
SB45南2東1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



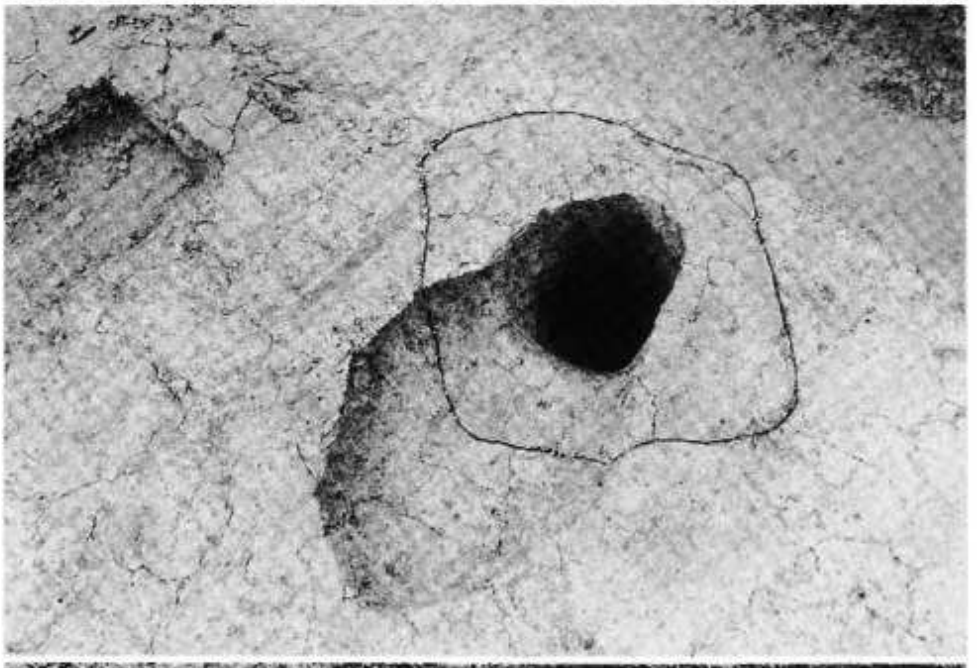
図版48
SB45南1西1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



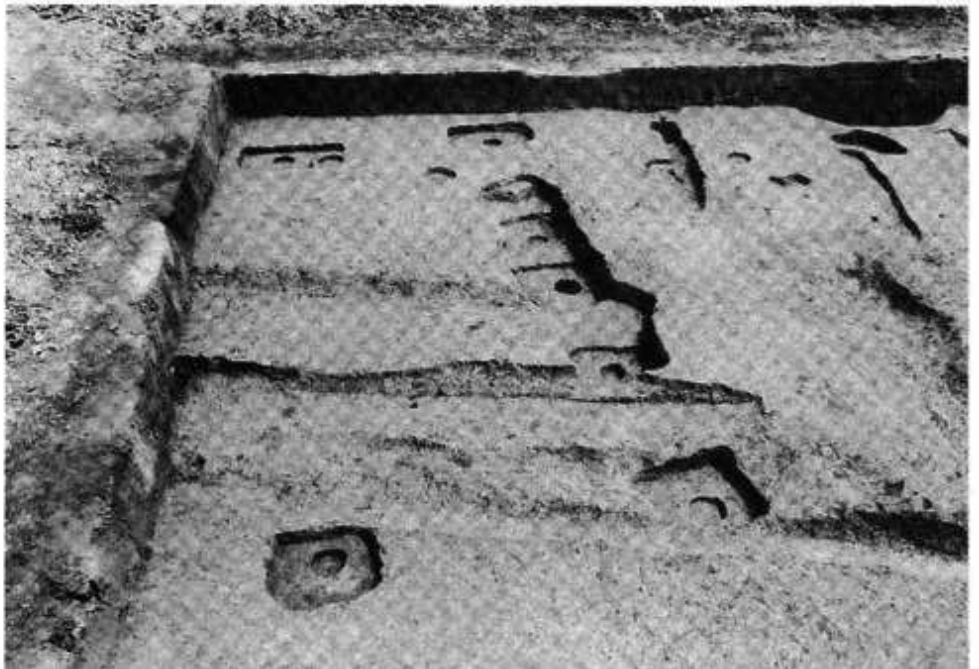
図版49
SB45南1西2柱抜
取穴完掘全景
（南より）



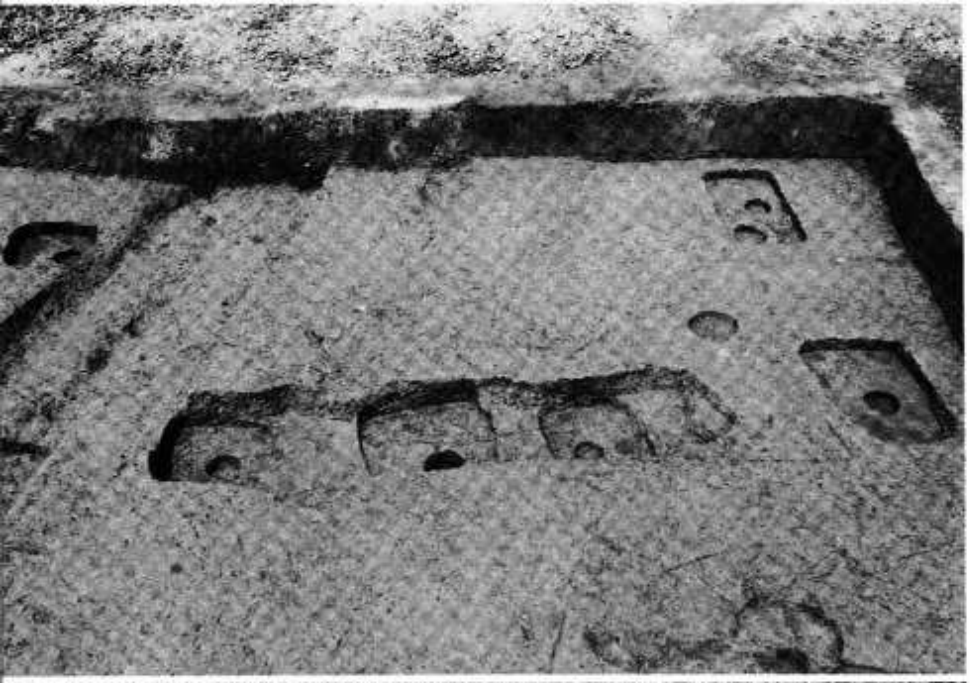
図版50
SB45南1西3
柱穴完掘全景
（南より）



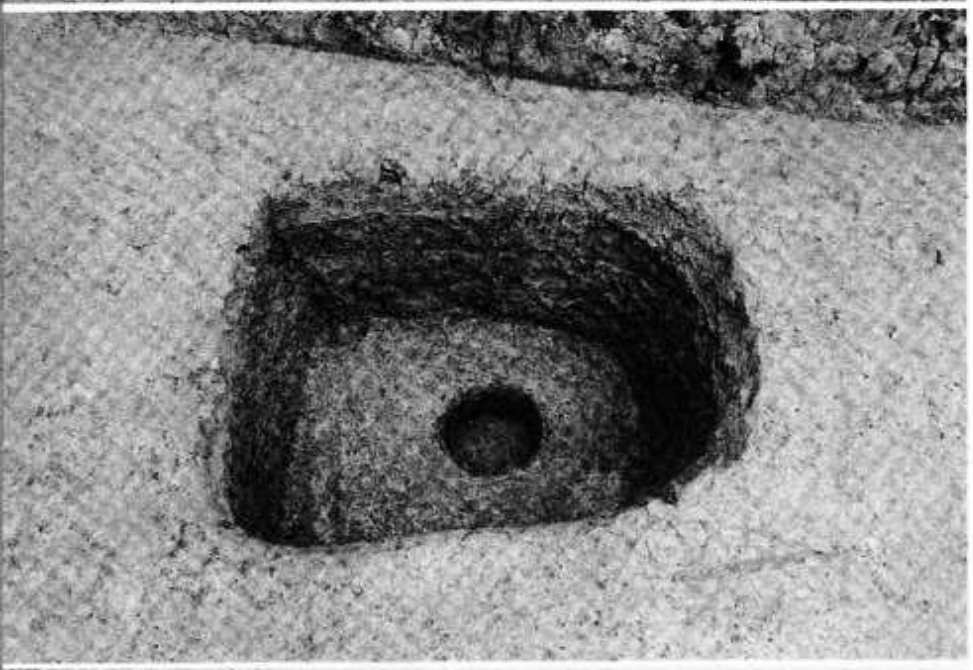
図版51
SB45南1東1柱抜
取穴完掘全景
（南より）



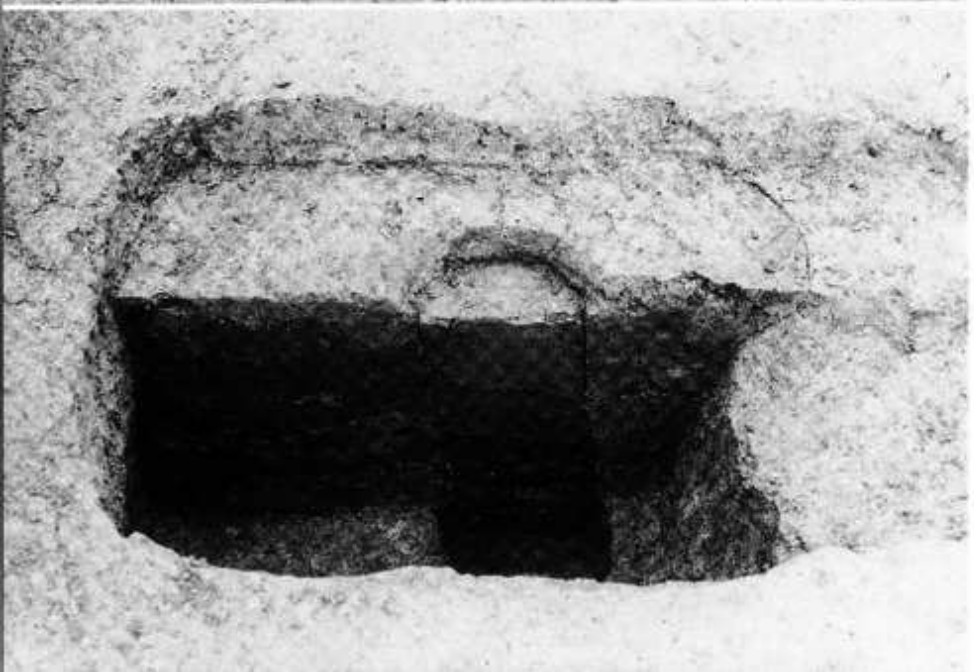
図版52
SB70全景
（南より）



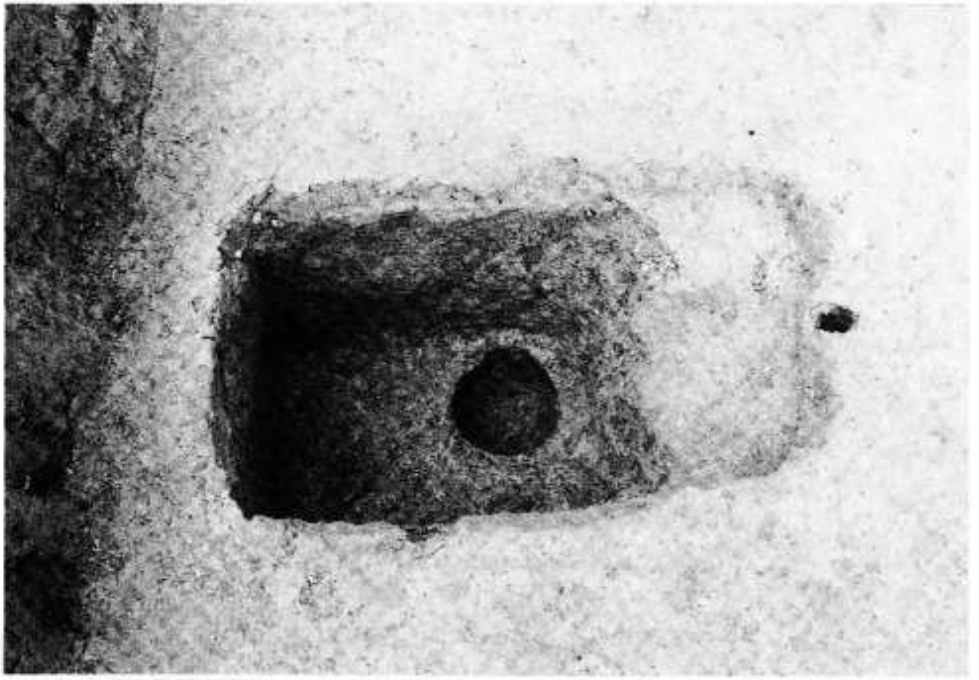
図版53
SB70全景
（東より）



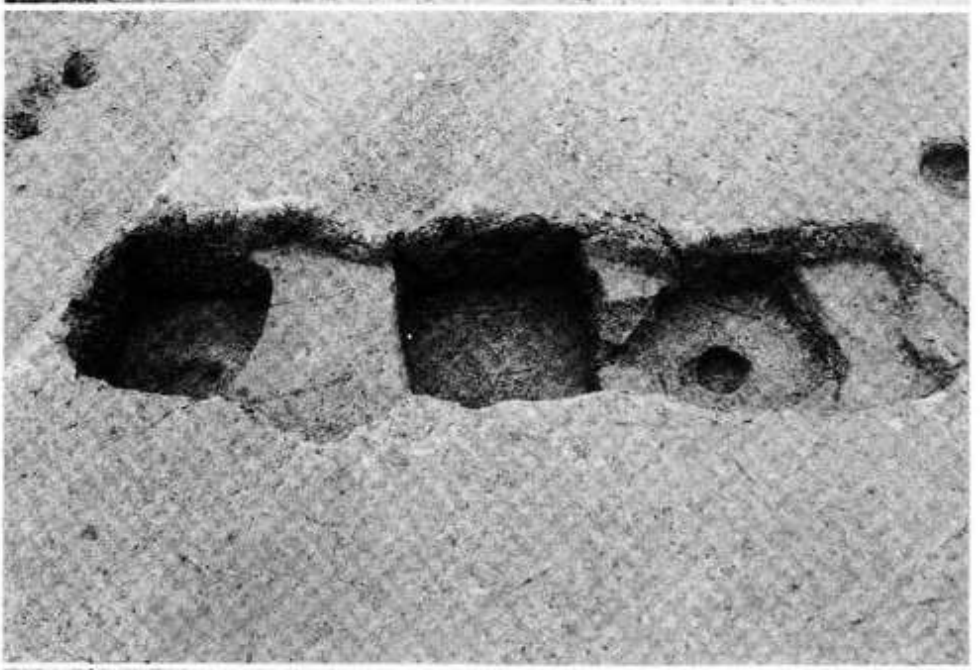
図版54
SB70北1東1
柱穴完掘全景
（南より）



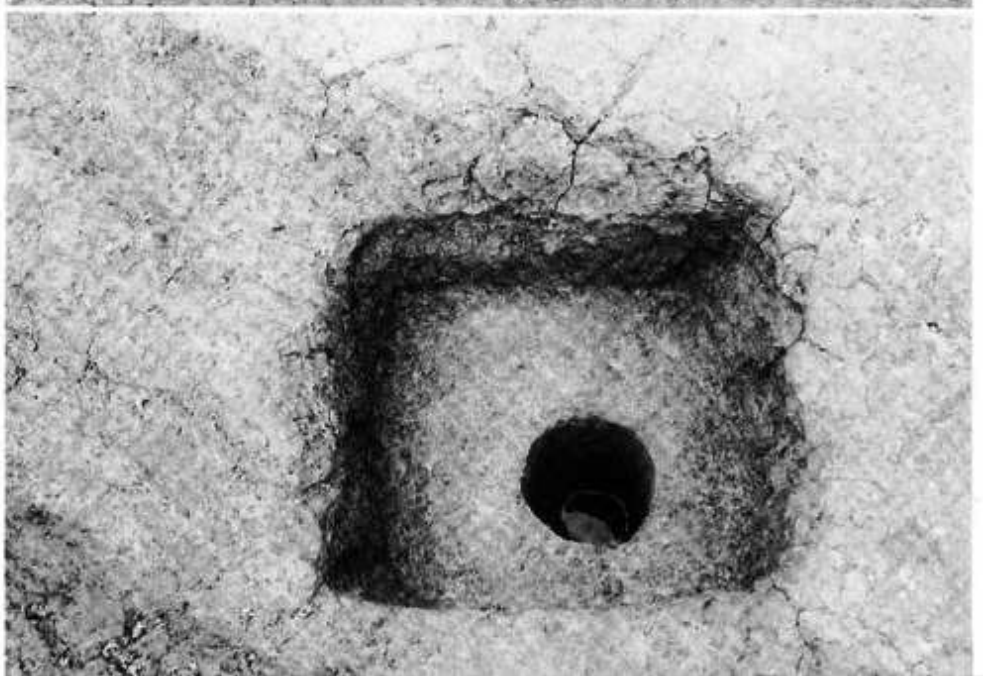
図版55
SB70北1東2
柱穴土層断面
（南より）



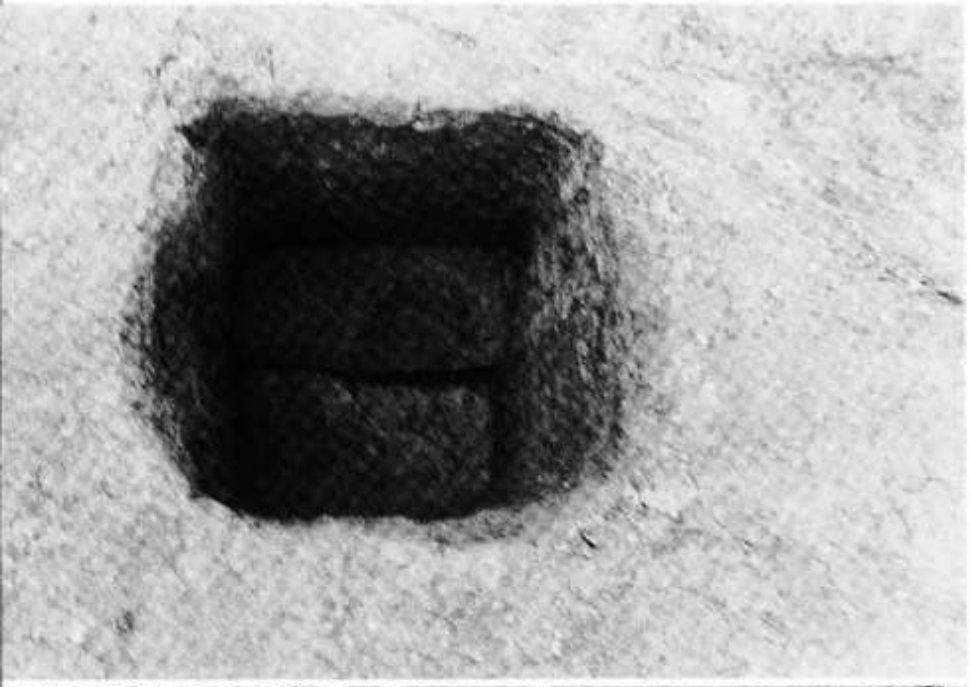
図版56
SB70北1東2
柱穴完掘全景
（南より）



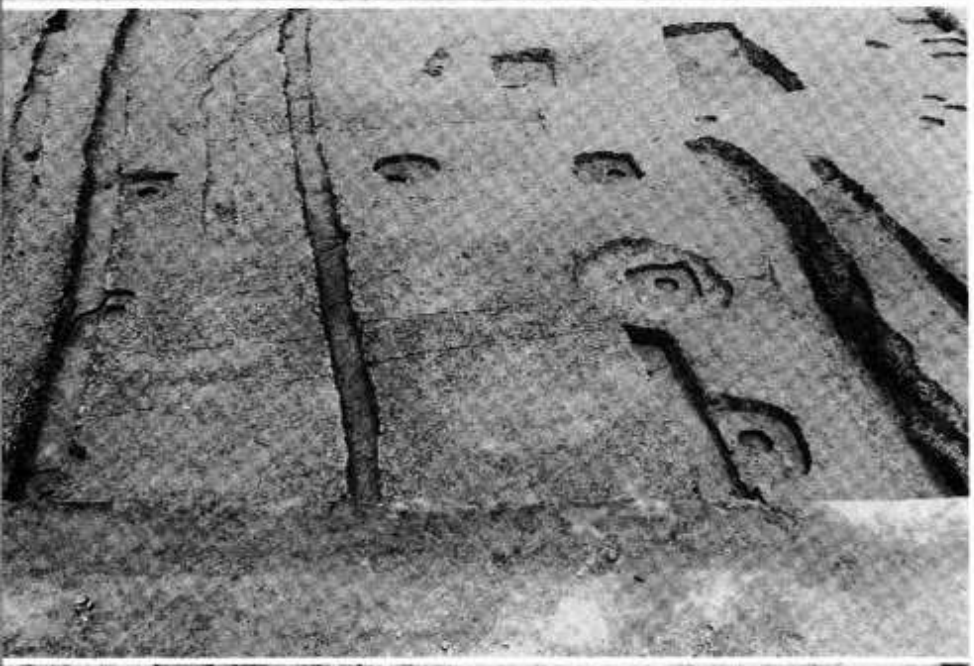
図版57
SB70南2.3.4東1
柱穴完掘全景
（東より）



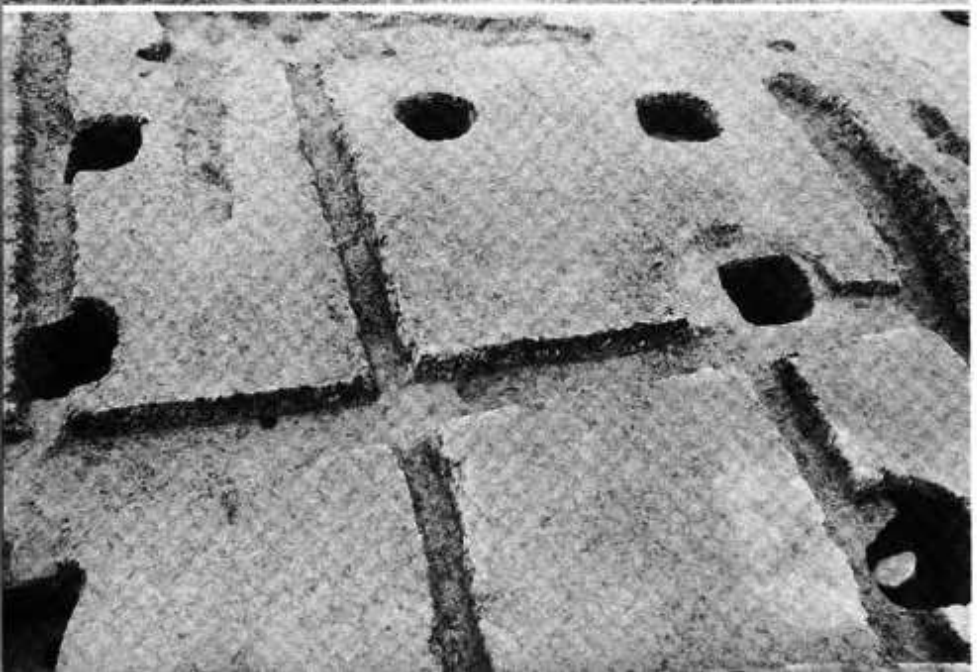
図版58
SB70南1東1
柱穴完掘全景
（南より）



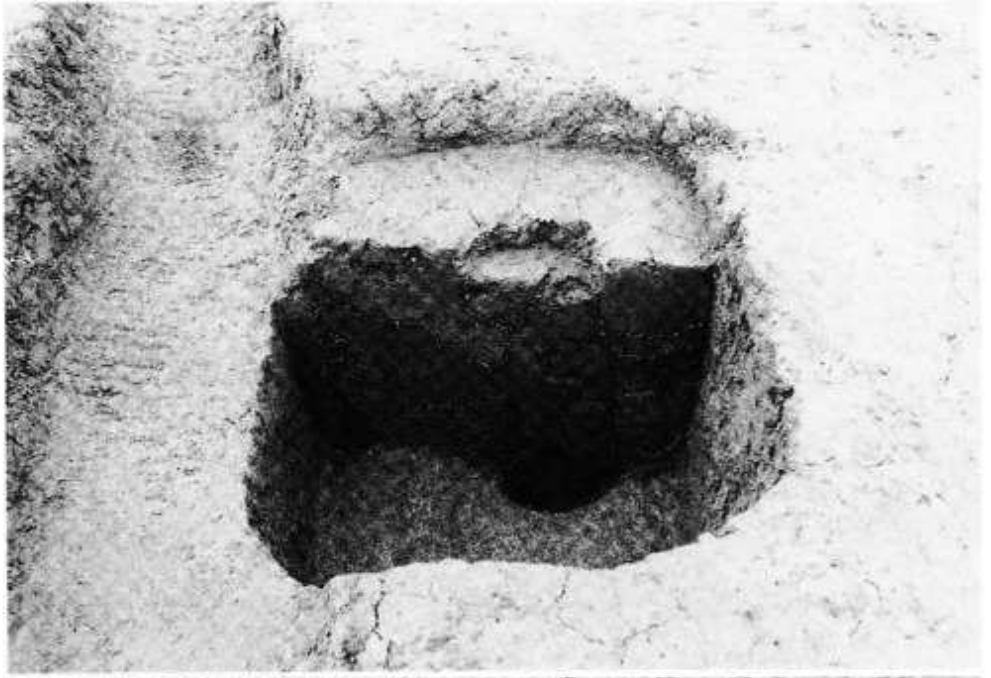
図版59
SB70南1東2
柱穴完掘全景
（南より）



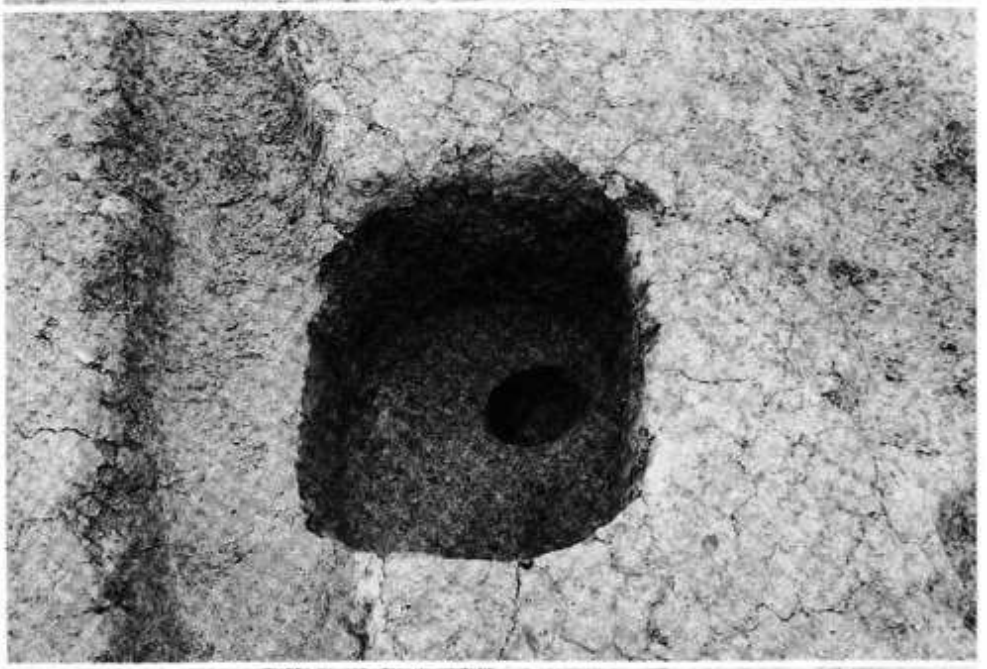
図版60
SB100全景
（南より）



図版61
SB100完掘全景
（南より）

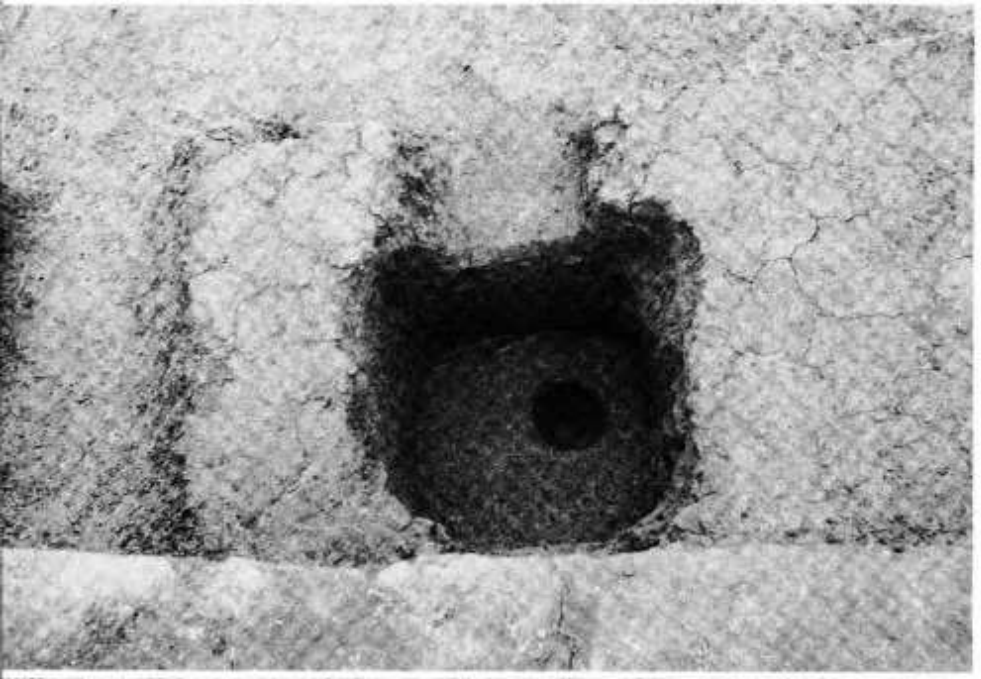


図版62
SB100北1西1
柱穴土層断面
（南より）

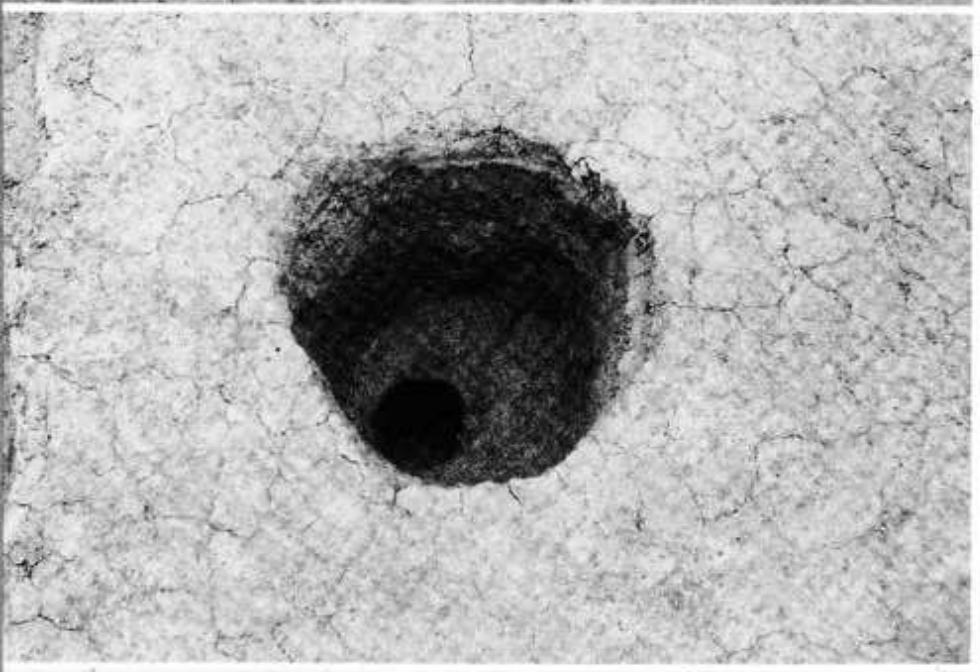


図版63
SB100北1西1
柱穴完掘全景
（南より）

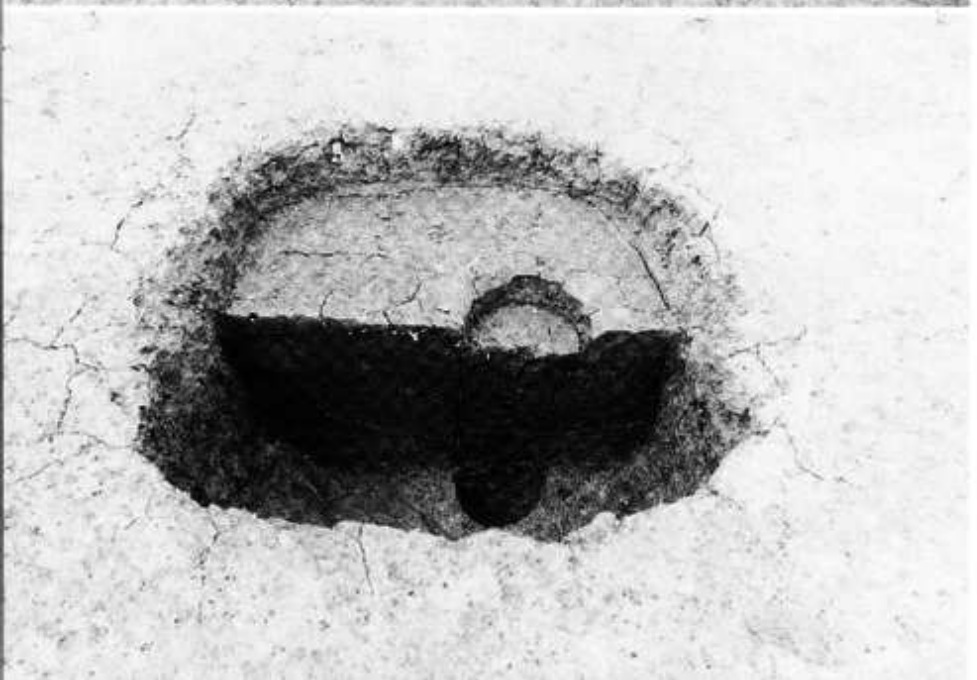
図版64
SB100南2西1
柱穴完掘全景
（南より）



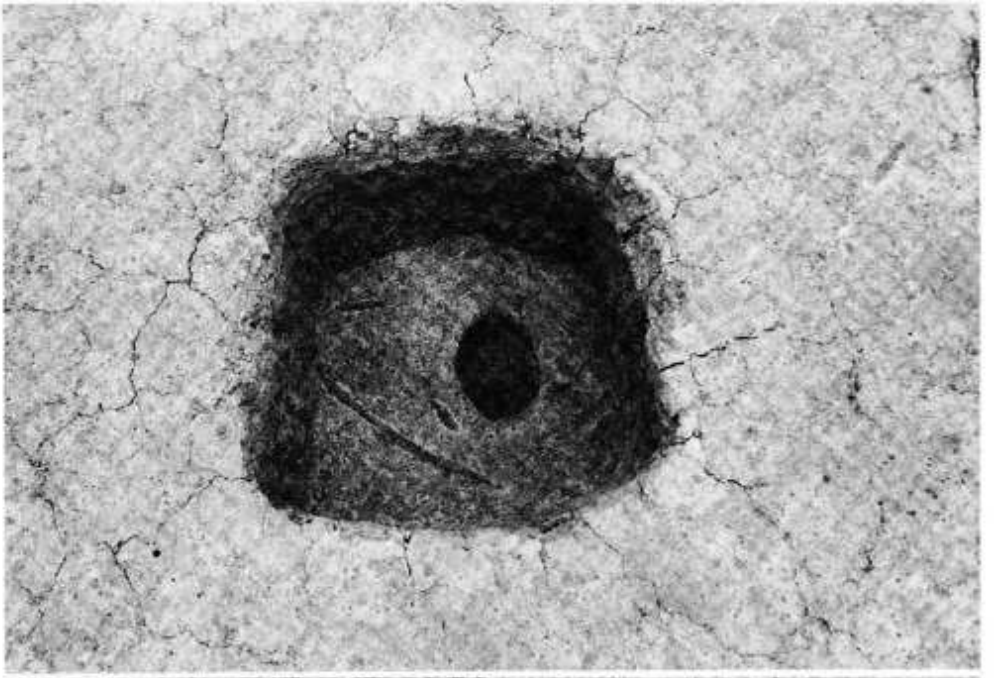
図版65
SB100南1西1
柱穴完掘全景
（南より）



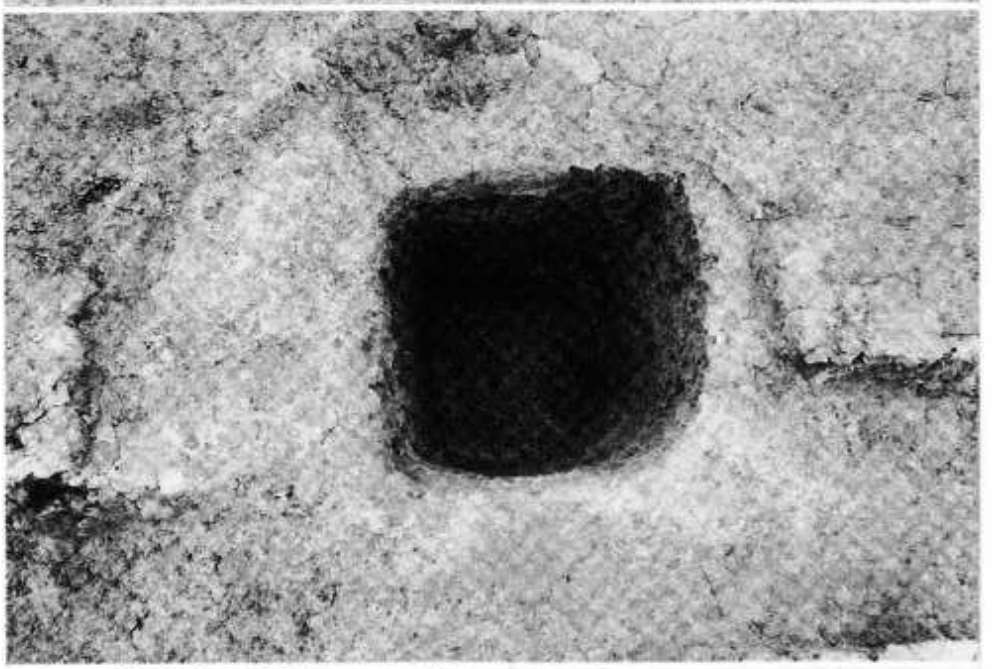
図版66
SB100北1東2
柱穴完掘全景
（南より）



図版67
SB100北1東1
柱穴土層断面
（南より）

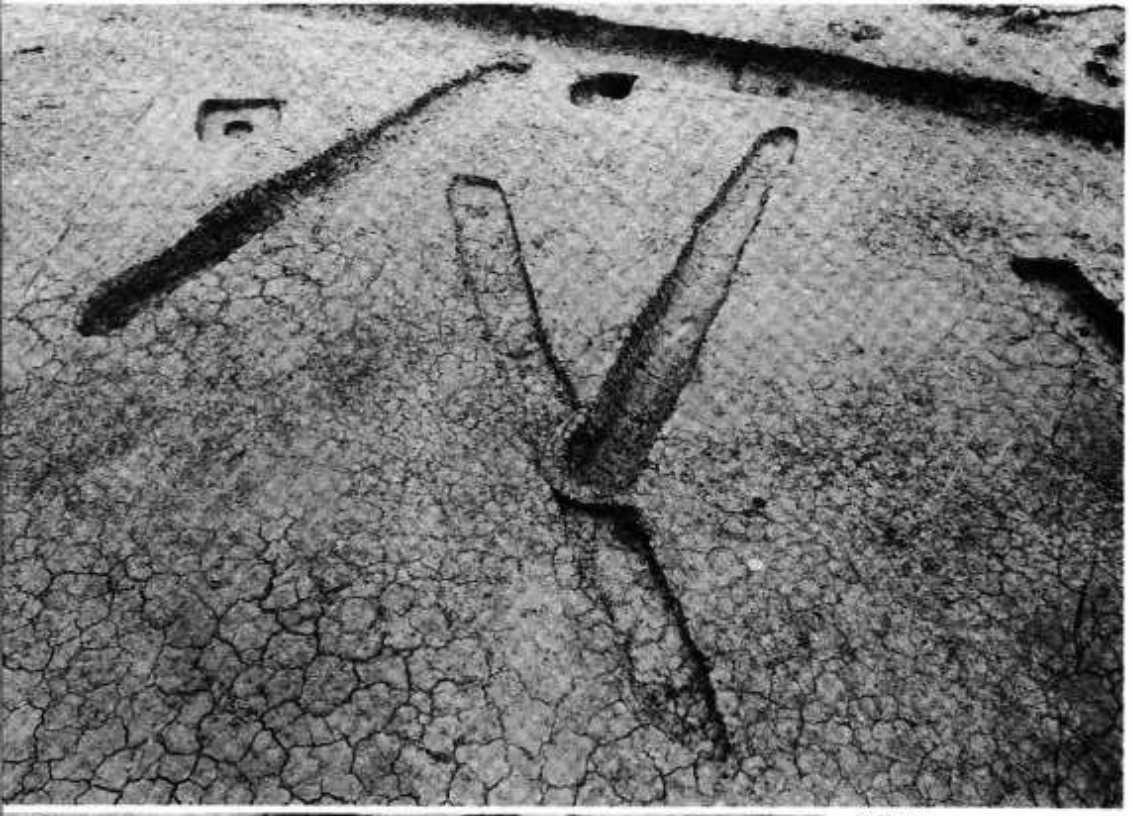


図版68
SB100北1東1
柱穴完掘全景
（南より）

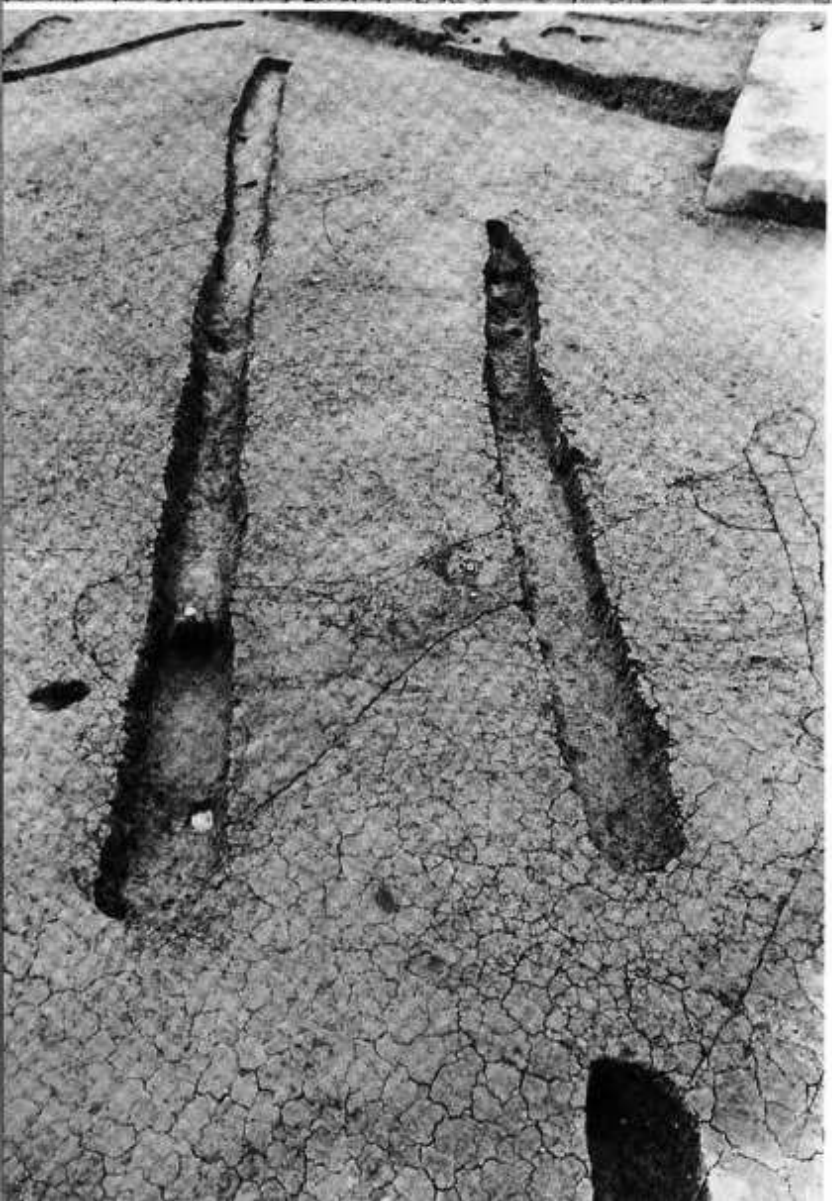


図版69
SB100北2東1
柱穴完掘全景
（南より）

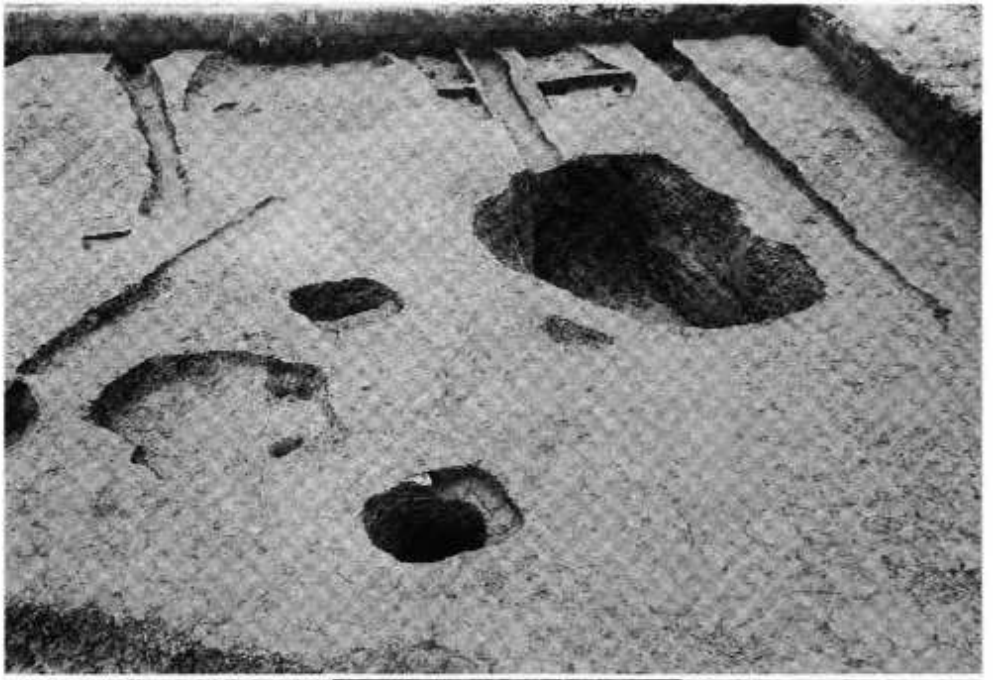
図版70
SB100北3東1
柱穴完掘全景
（南より）



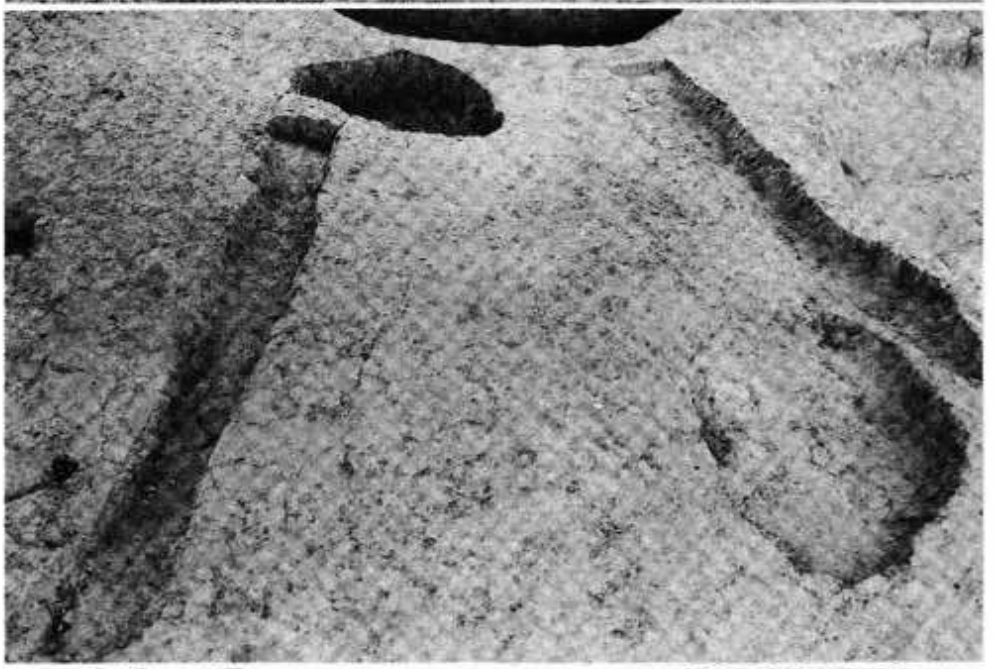
図版71
SD34.30.29完掘全景
（南より）



図版72
SD36.38完掘全景
（南より）



図版73
SD43.44.46.49
完掘全景
（南より）



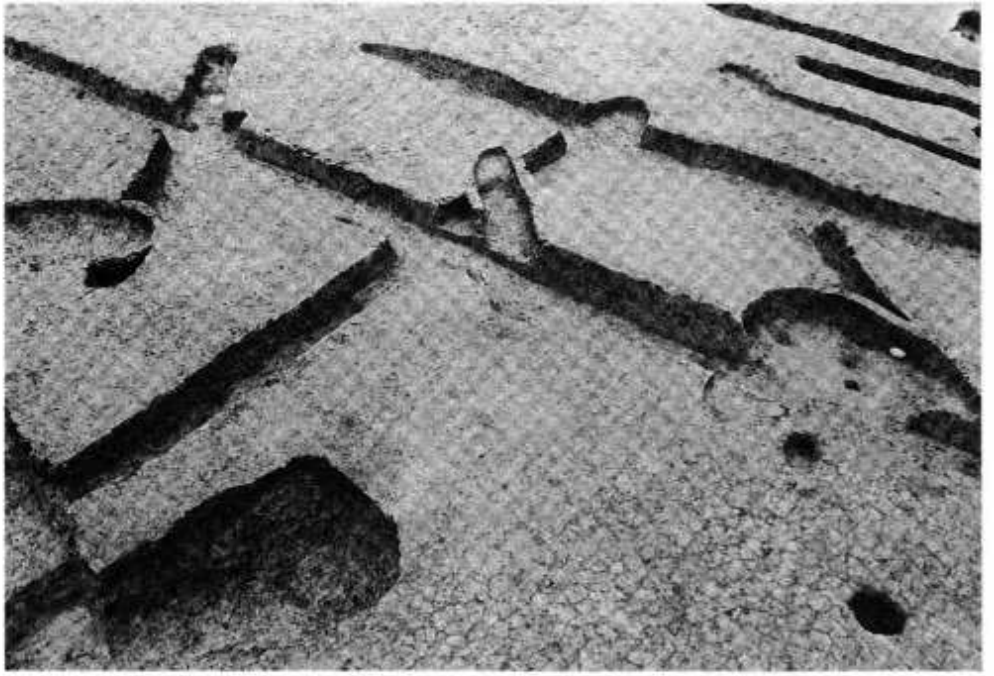
図版74
SD66.67.SK48
完掘全景
（南より）

図版75
東区南北SD群
完掘全景
（南より）

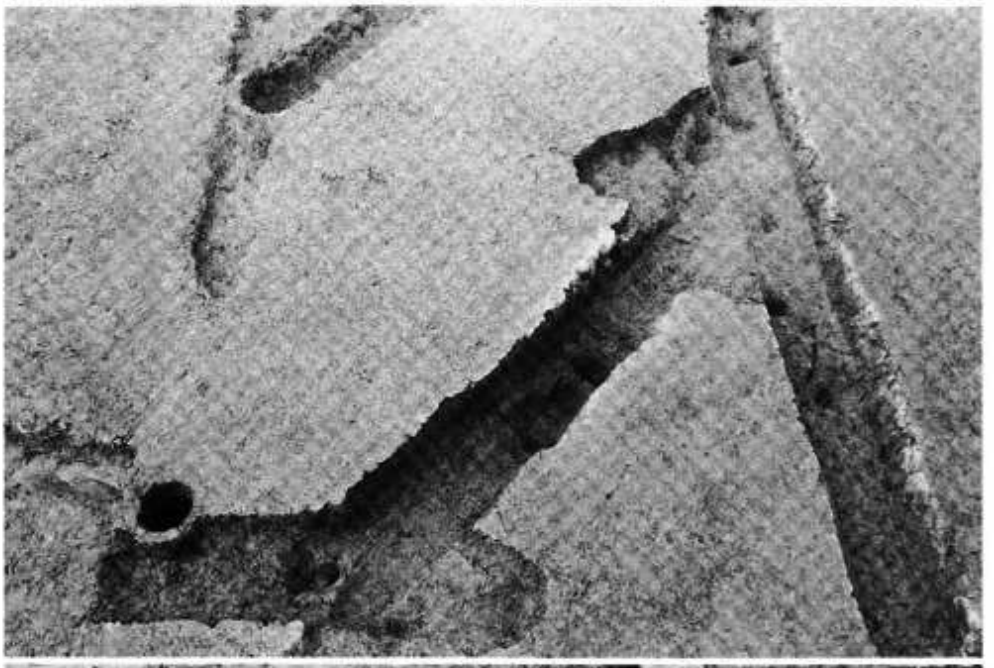
図版76
SD88.92.29
完掘全景
（南より）

図版77
SD91完掘全景
（南より）

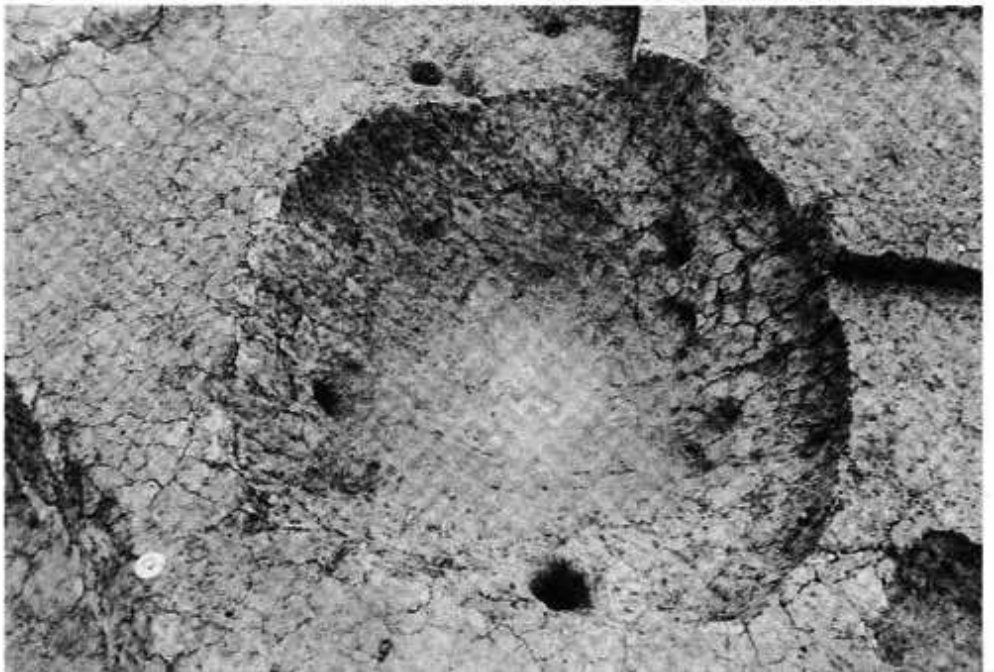
図版78
東区斜めSD
群全景SD129～133
（南より）



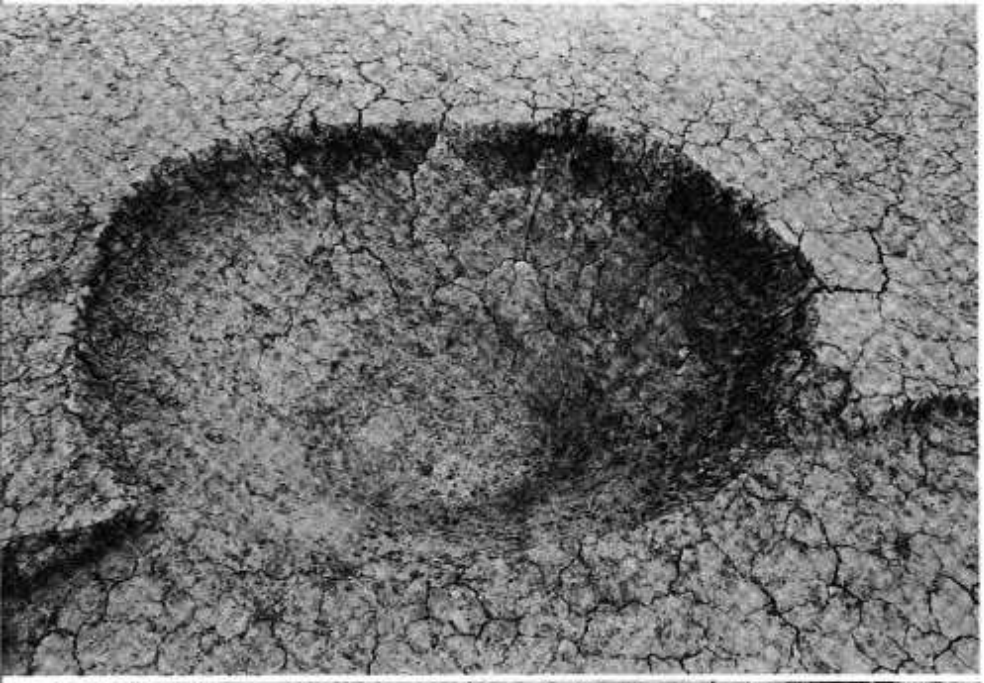
図版79
SD88. 137. 136. 138
完掘全景
（南より）



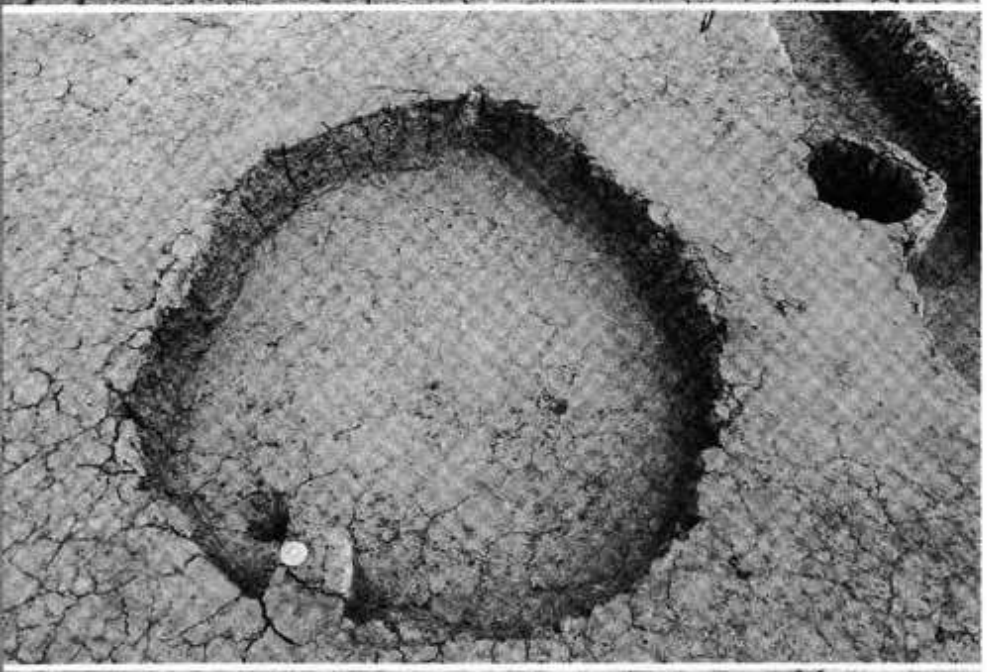
図版80
SD150. 151. SK152
完掘全景
（南より）



図版81
SK3完掘全景
（南より）

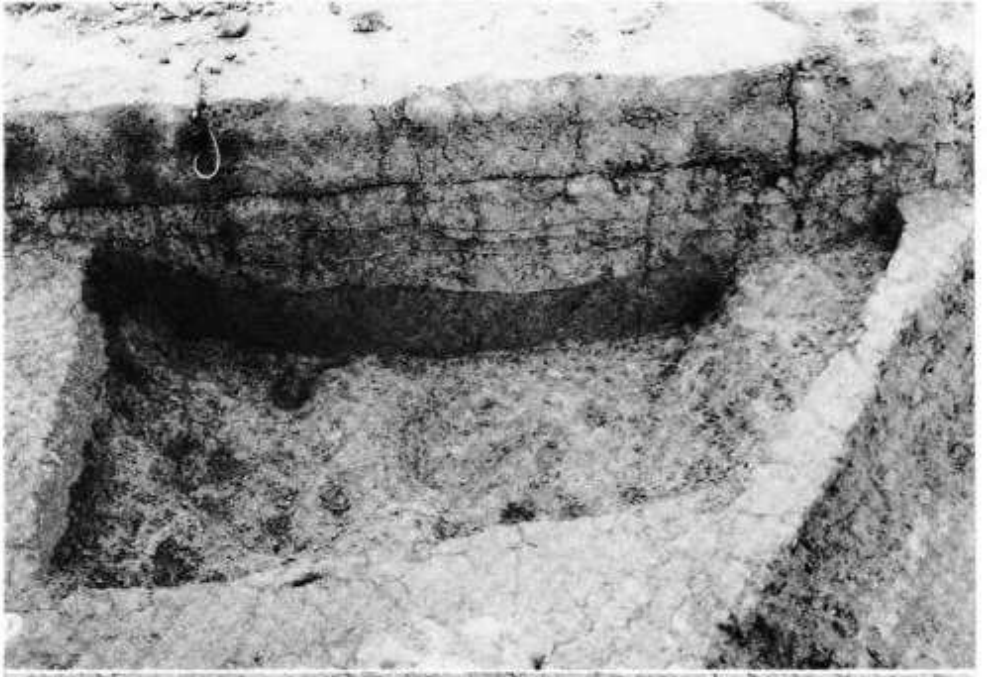


図版82
SK4完掘全景
（南より）

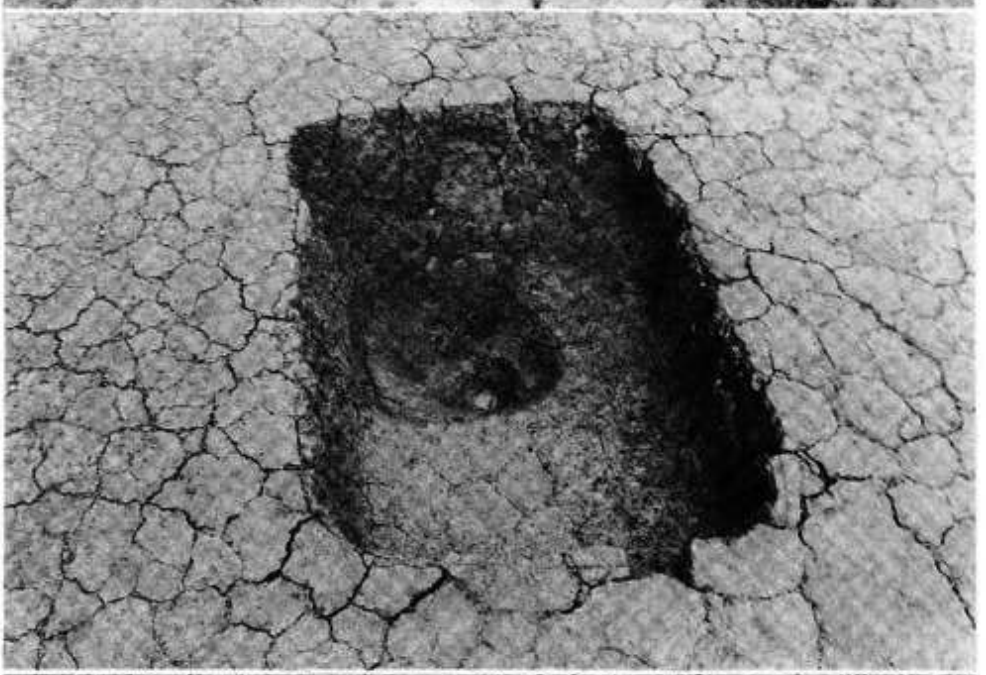


図版83
SK5完掘全景
（南より）

図版84
SK6完掘全景
（南より）



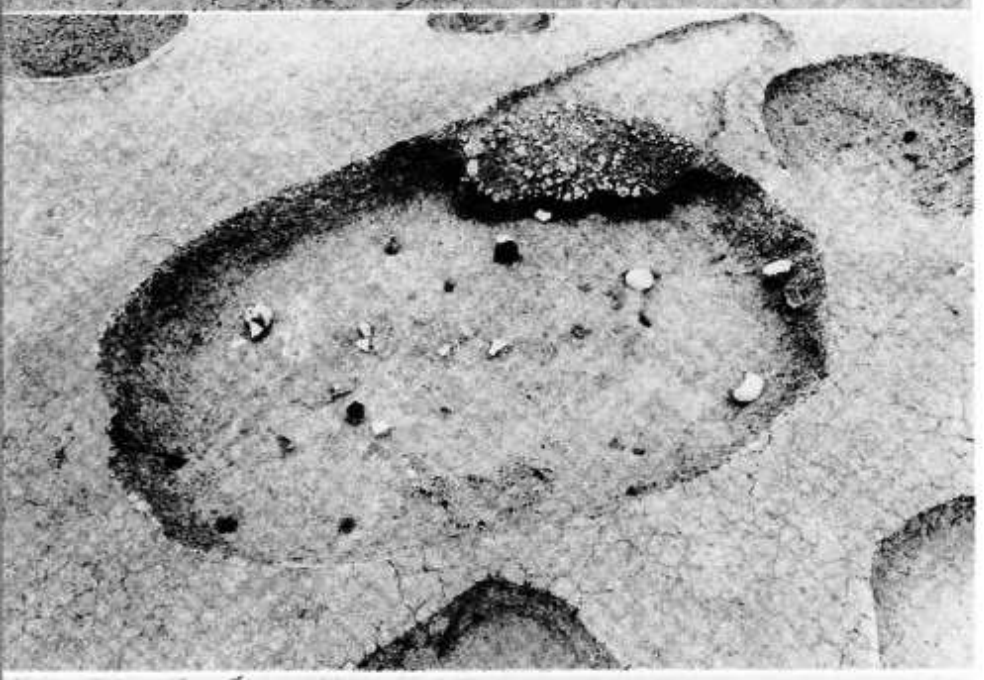
図版85
SK7完掘全景
（東より）



図版86
SK8完掘全景
（南より）

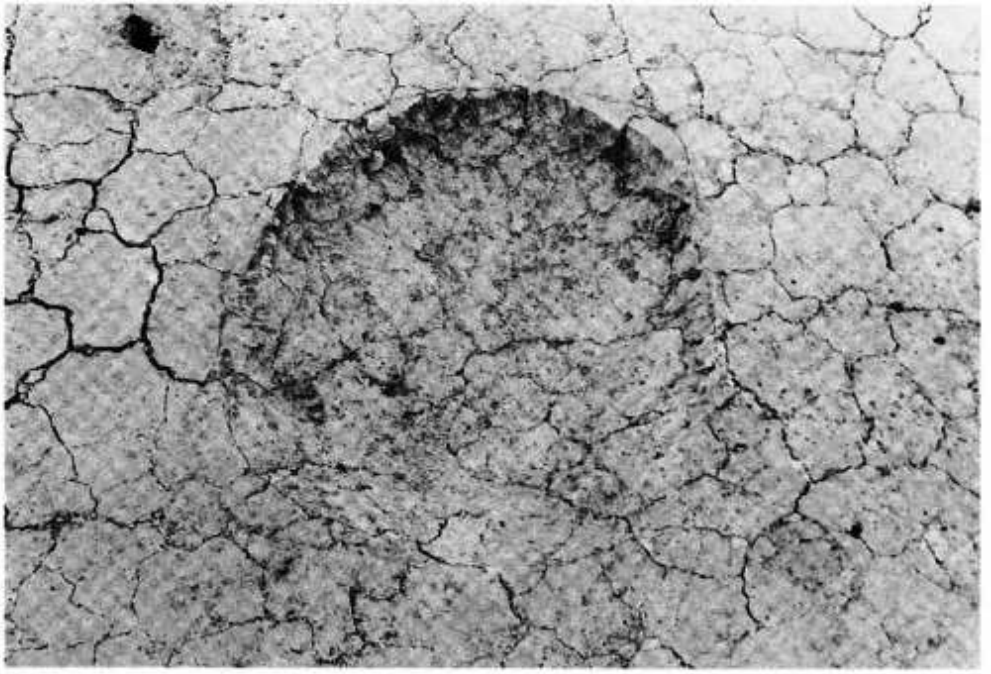
図版87
SK9完掘全景
（南より）

図版88
SK10完掘全景
（南より）

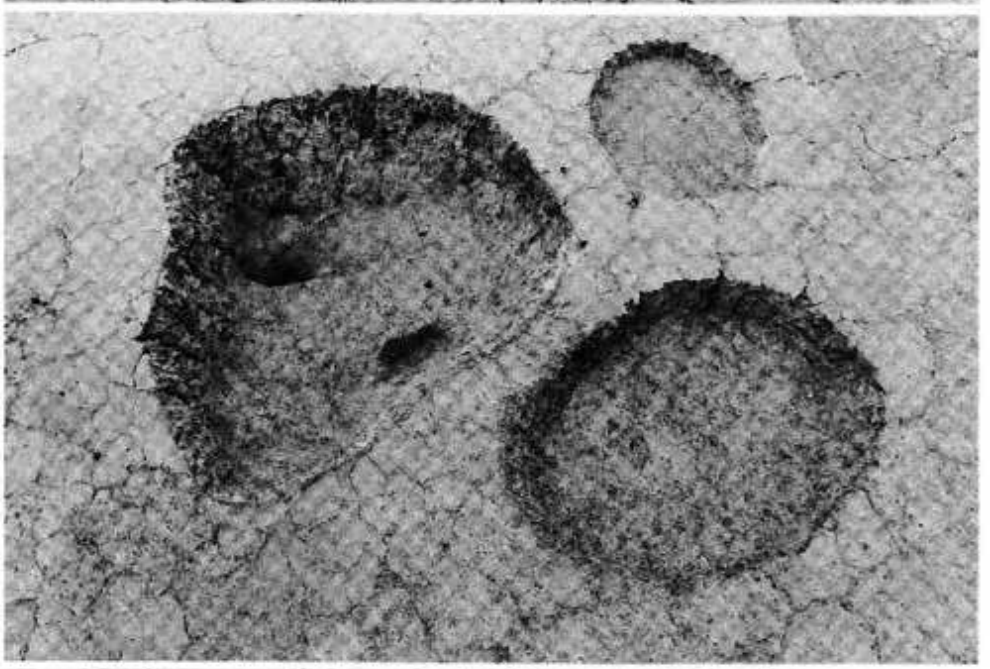


図版89
SK12完掘全景
（南より）

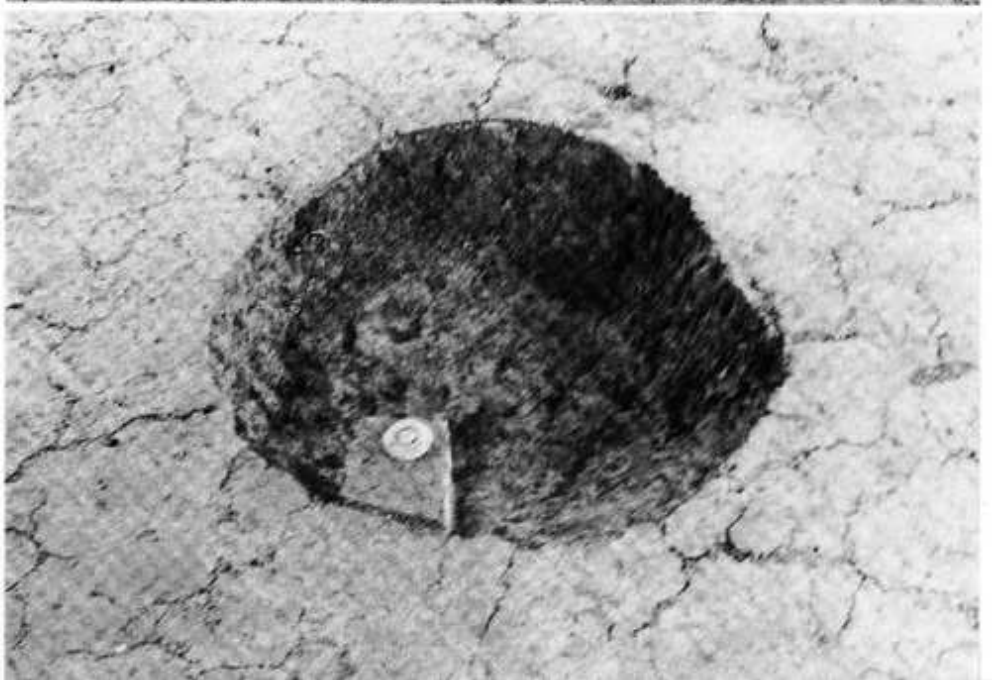
図版90
SK11完掘全景
（東より）



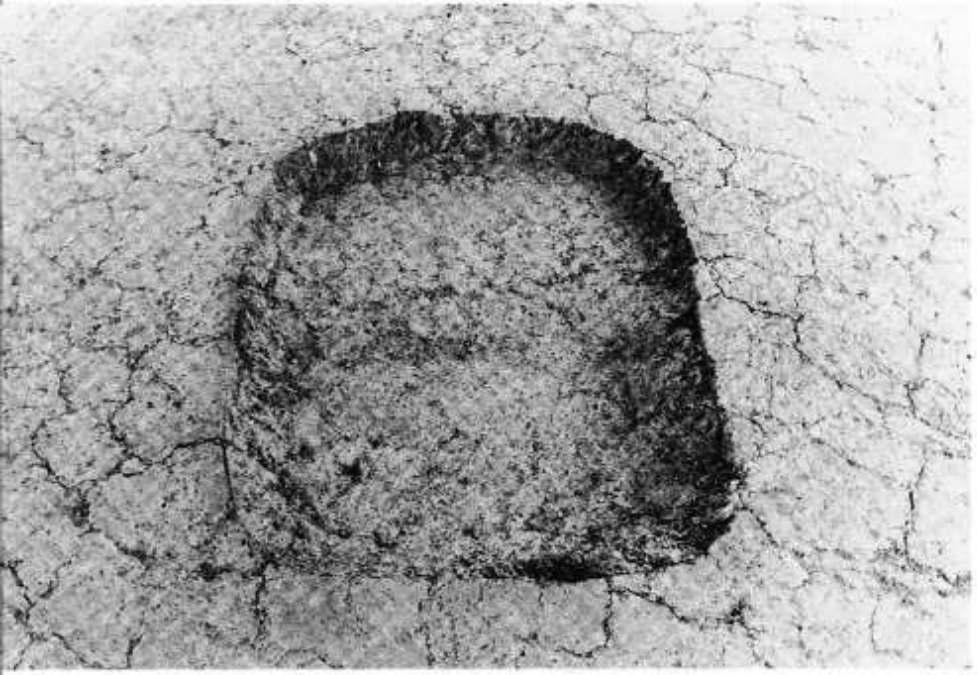
図版91
SK16完掘全景
（南より）



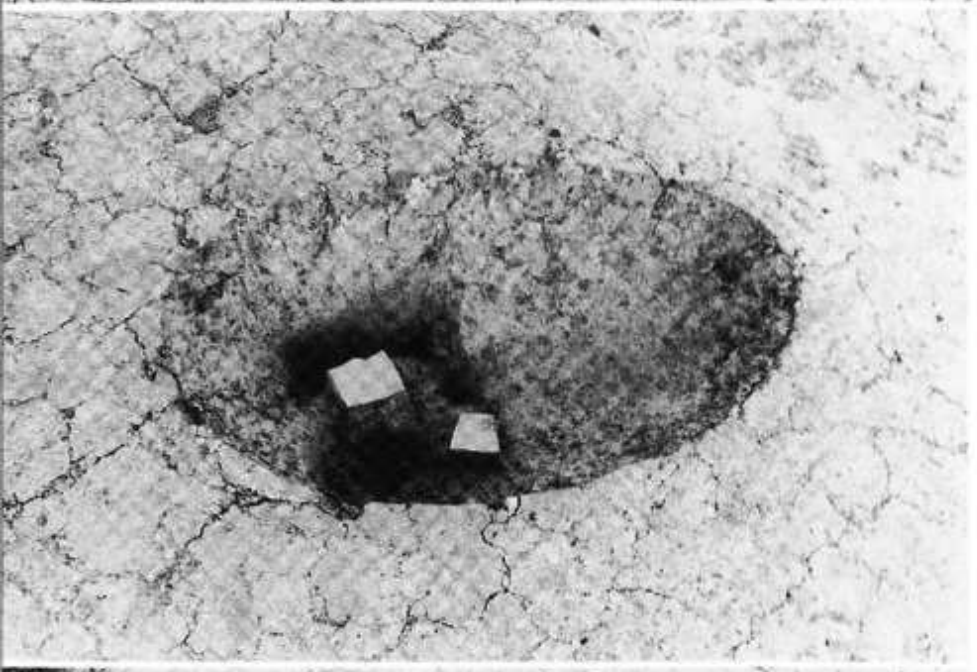
図版92
SK17.23完掘全景
（南より）



図版93
SK18完掘全景
（南より）

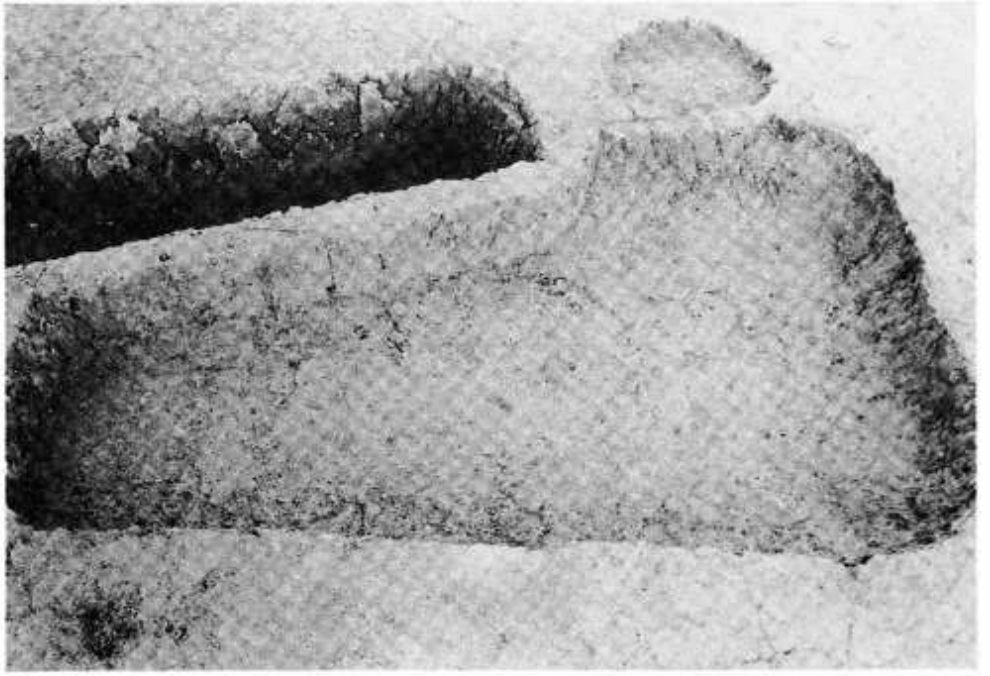


図版94
SK19完掘全景
（南より）

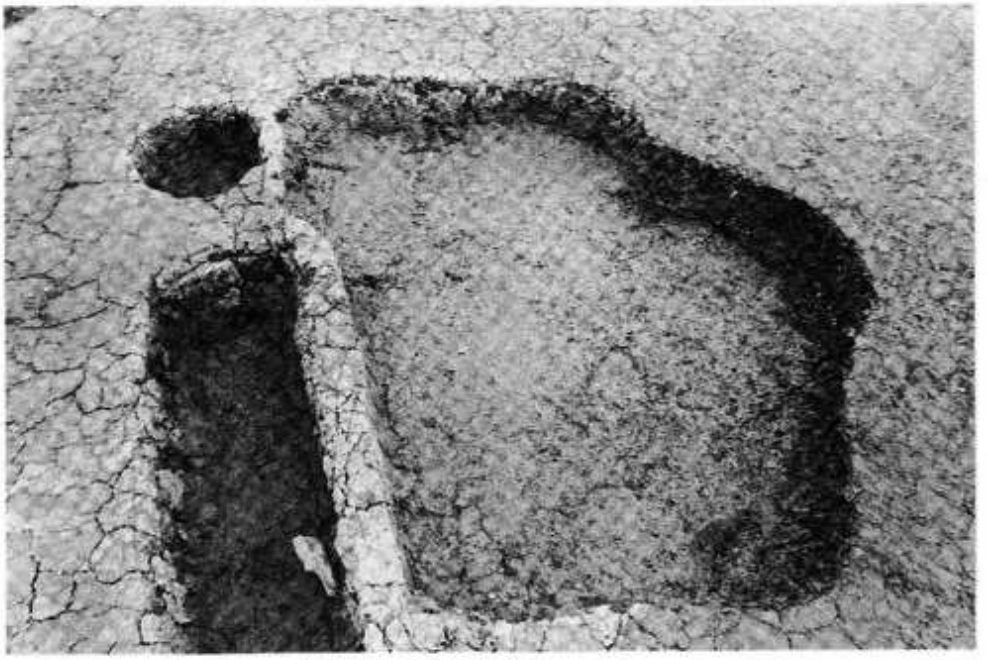


図版95
SK20完掘全景
（南東より）

図版96
SK22完掘全景
（南より）

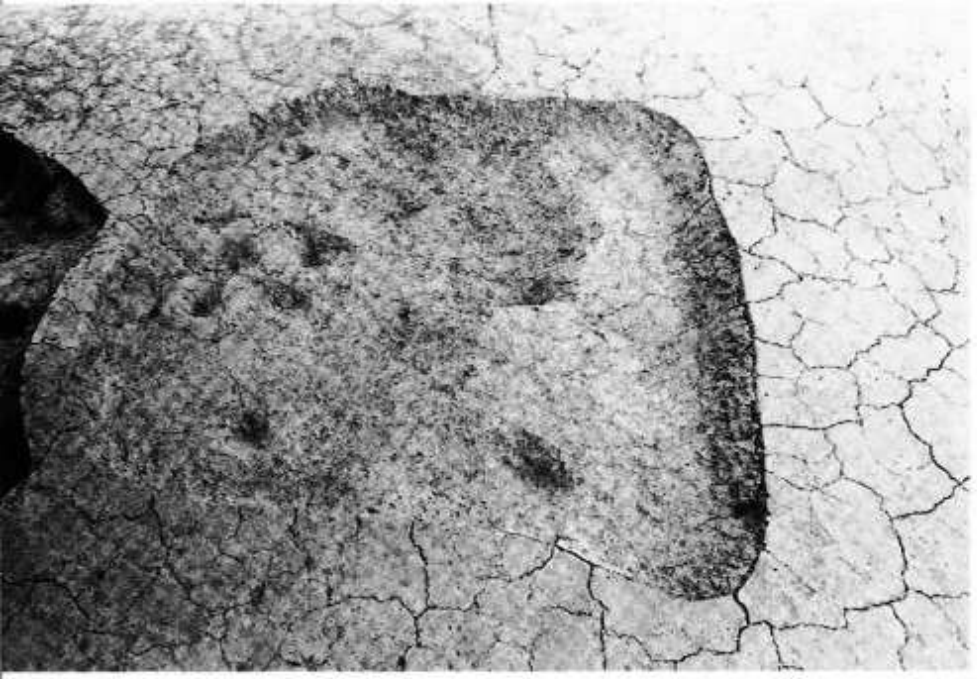


図版97
SK24完掘全景
（東より）

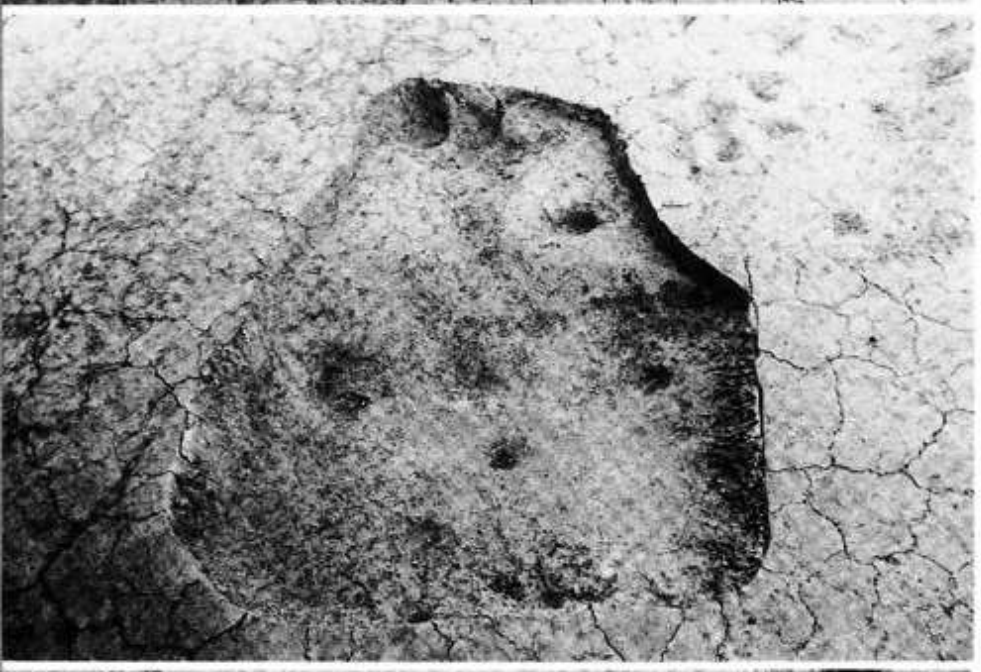


図版98
SK24.81完掘全景
（南より）

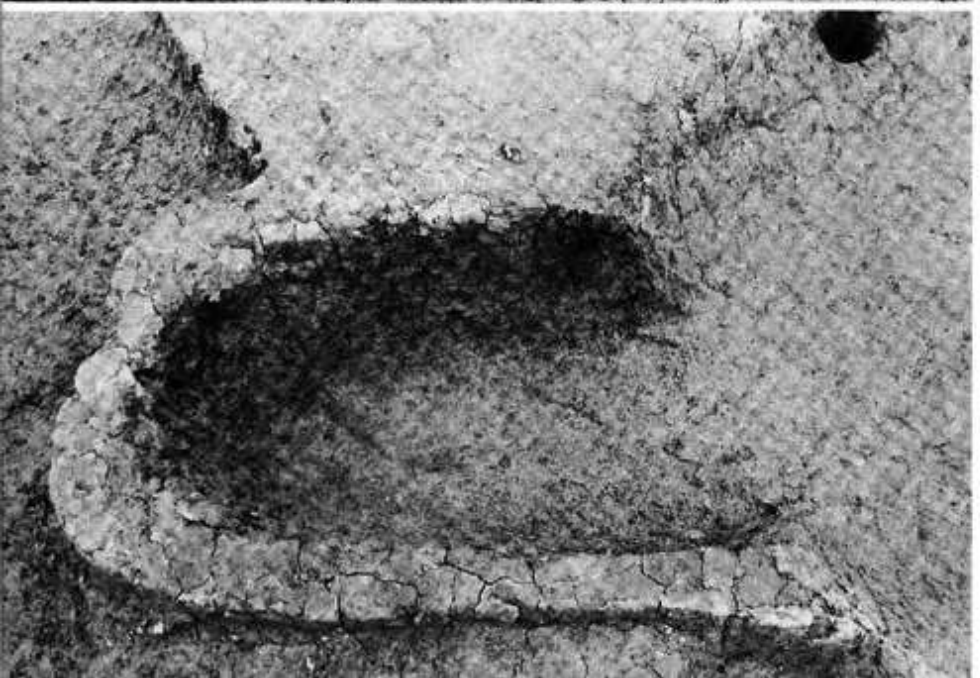
図版99
SK26完掘全景
（南より）



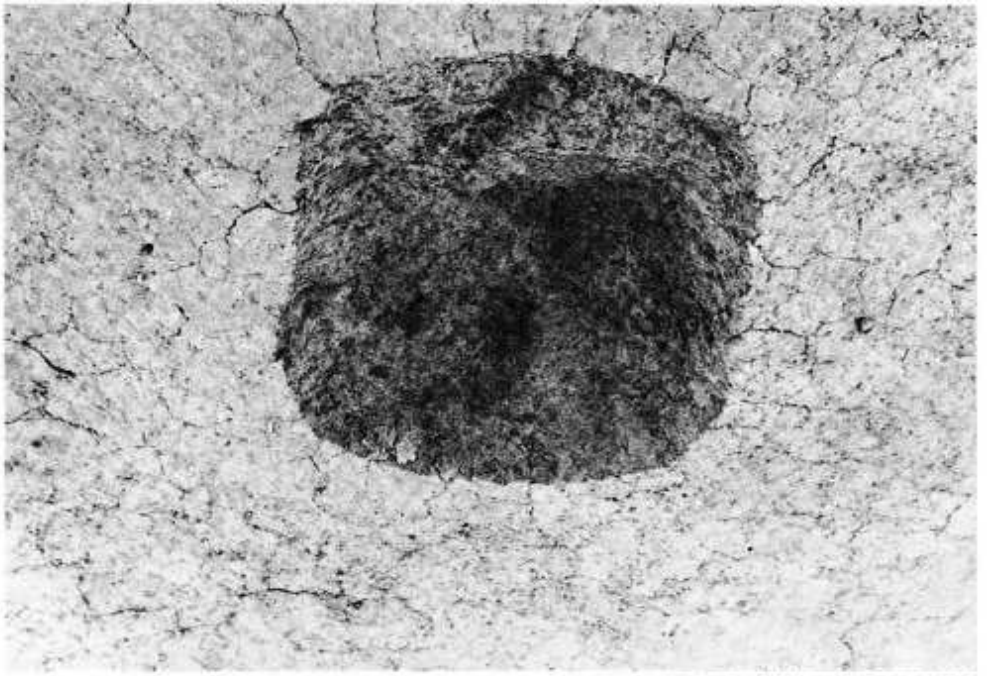
図版100
SK27完掘全景
（南より）



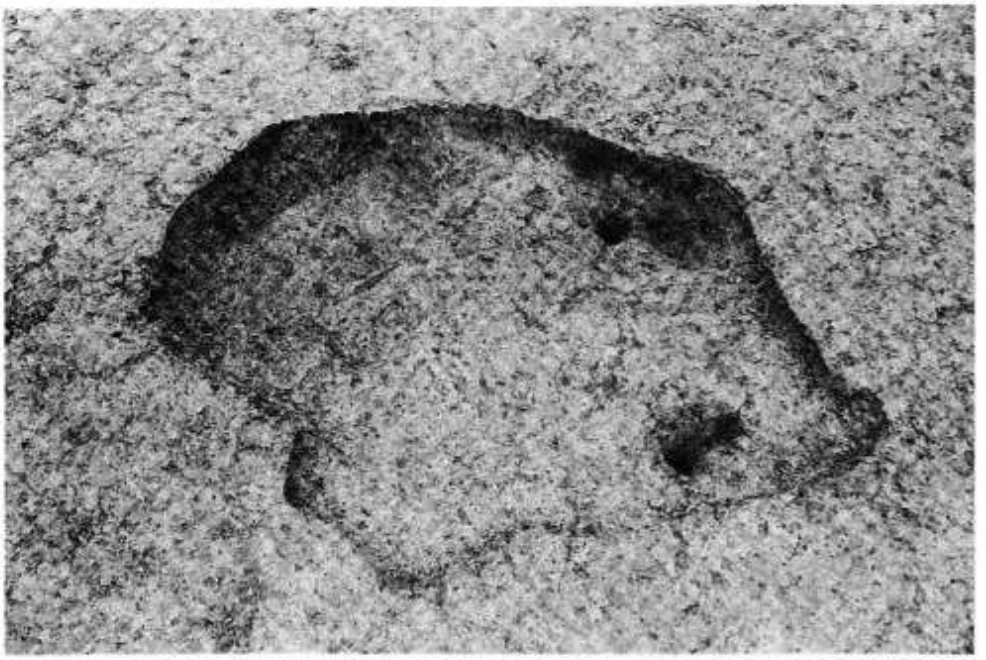
図版101
SK28完掘全景
（南より）



図版102
SK31完掘全景
（南より）



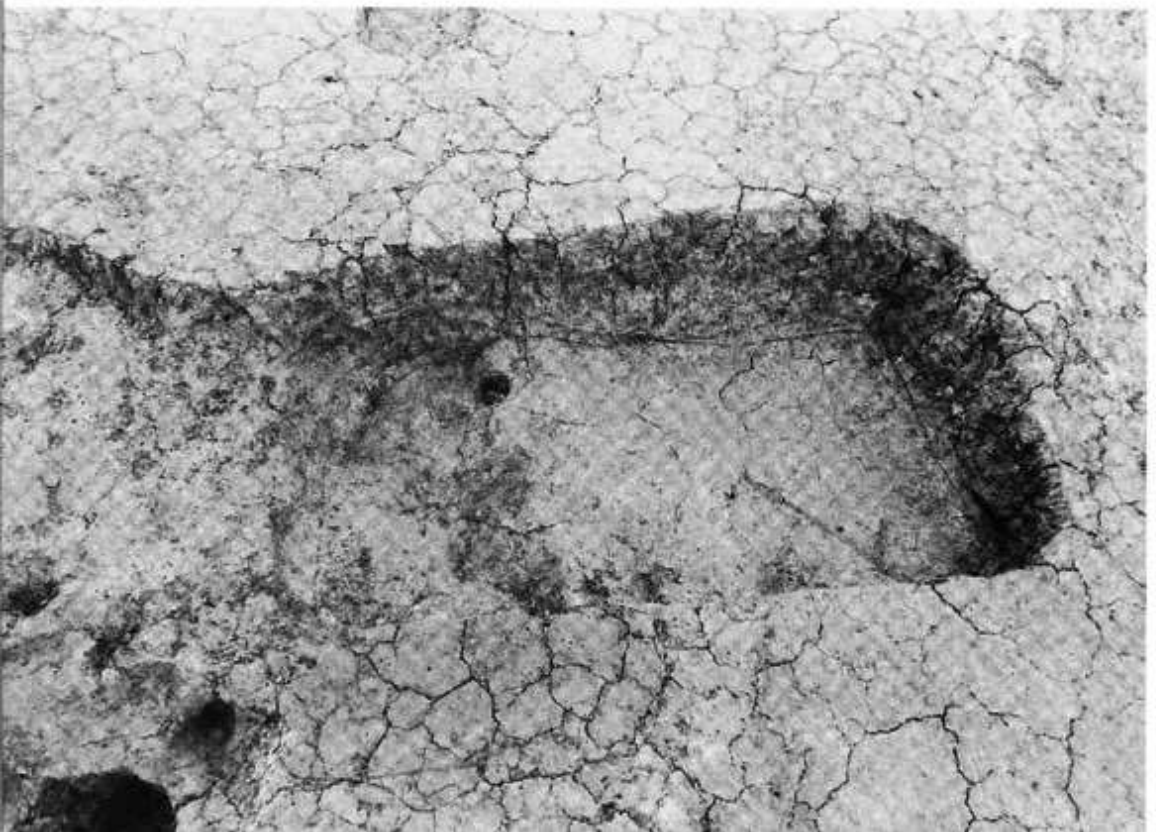
図版103
SK32完掘全景
（南より）



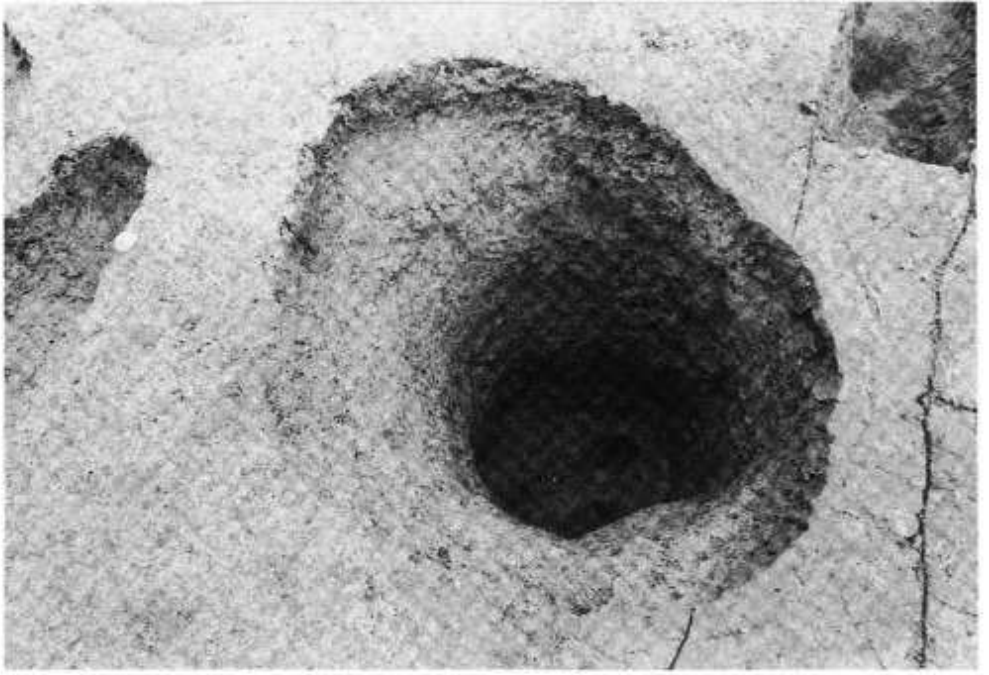
図版104
SK39完掘全景
（南より）

図版105
SK41完掘全景
（南より）

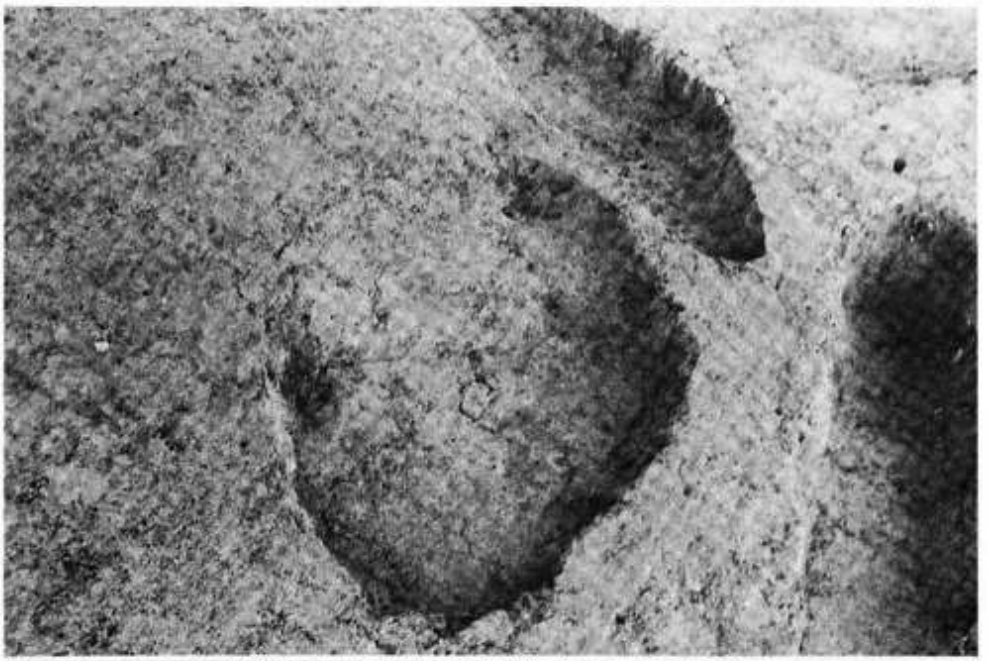
図版106
SK40完掘全景（南より）



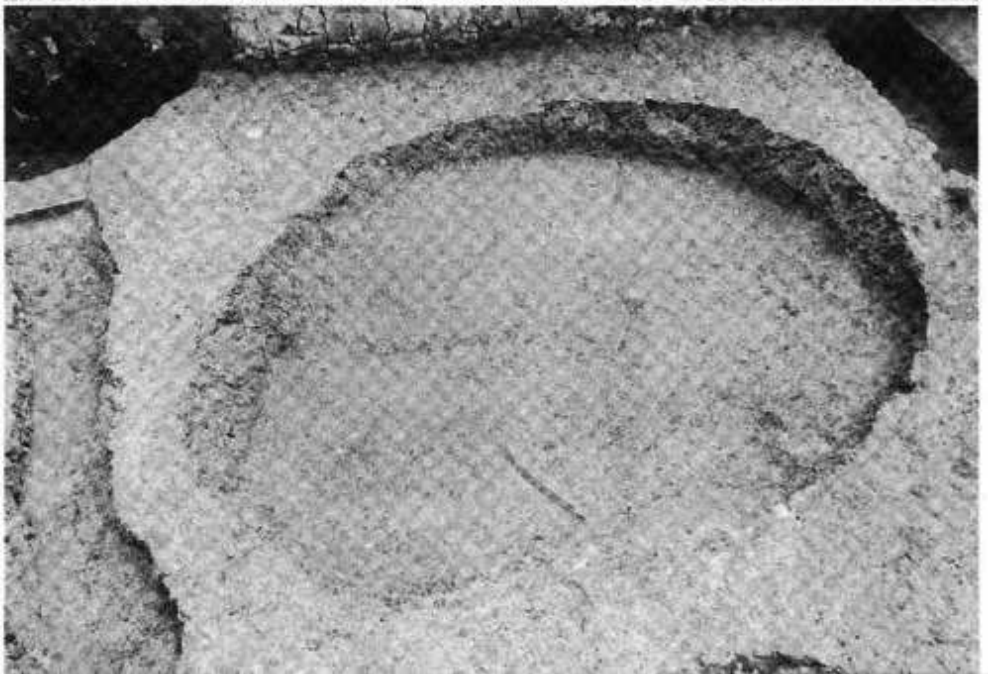
図版107
SK42完掘全景（南より）



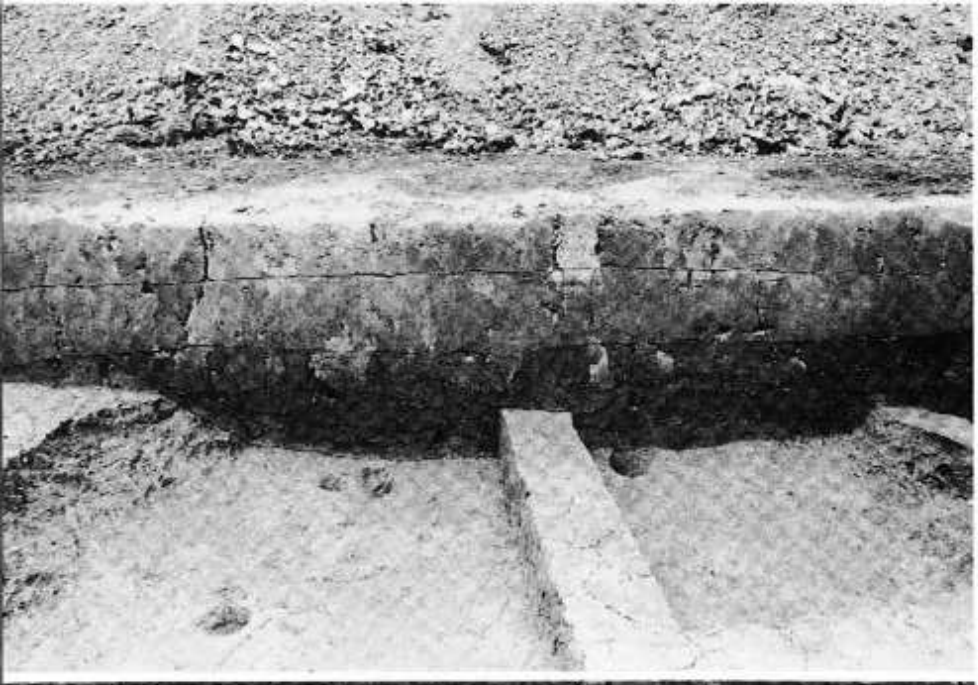
図版108
SK47完掘全景
（南より）



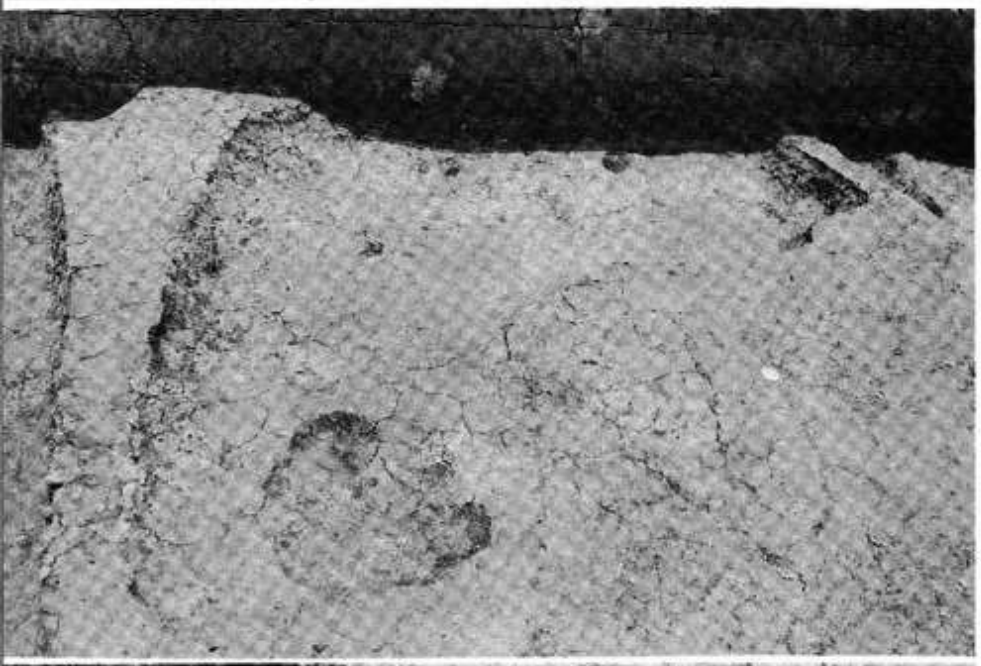
図版109
SK48完掘全景
（南より）



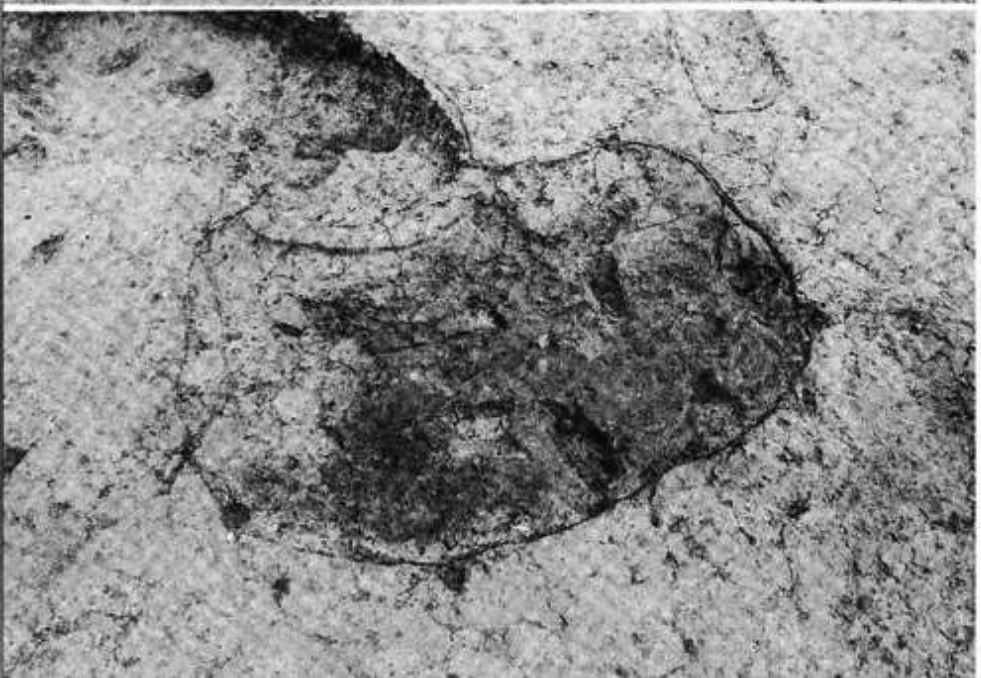
図版110
SK51完掘全景
（南より）



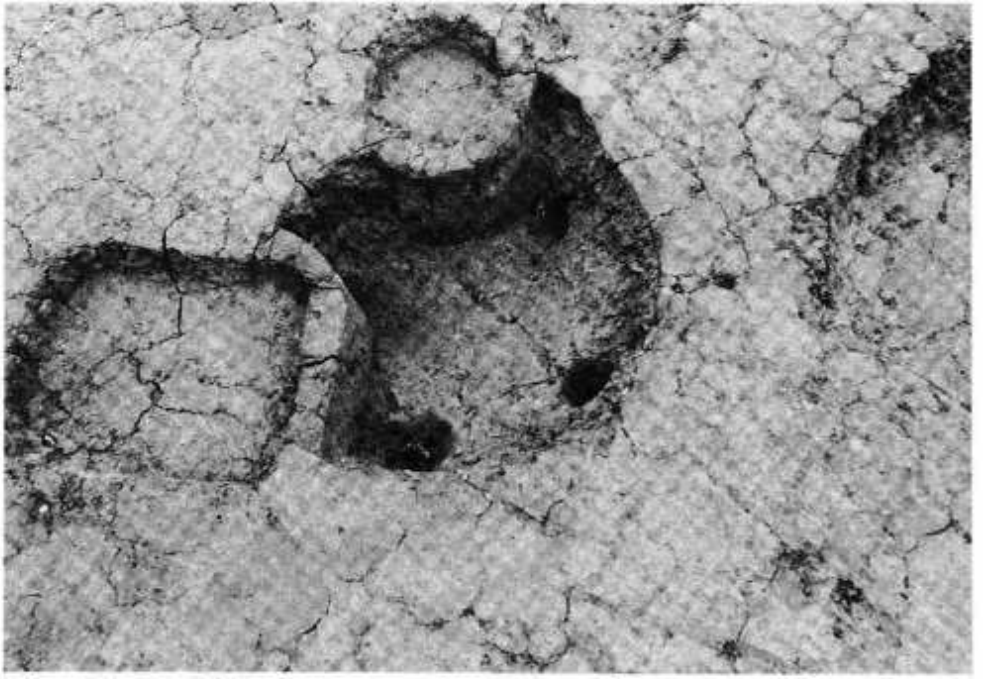
図版111
SK53東西
セクション
（南より）



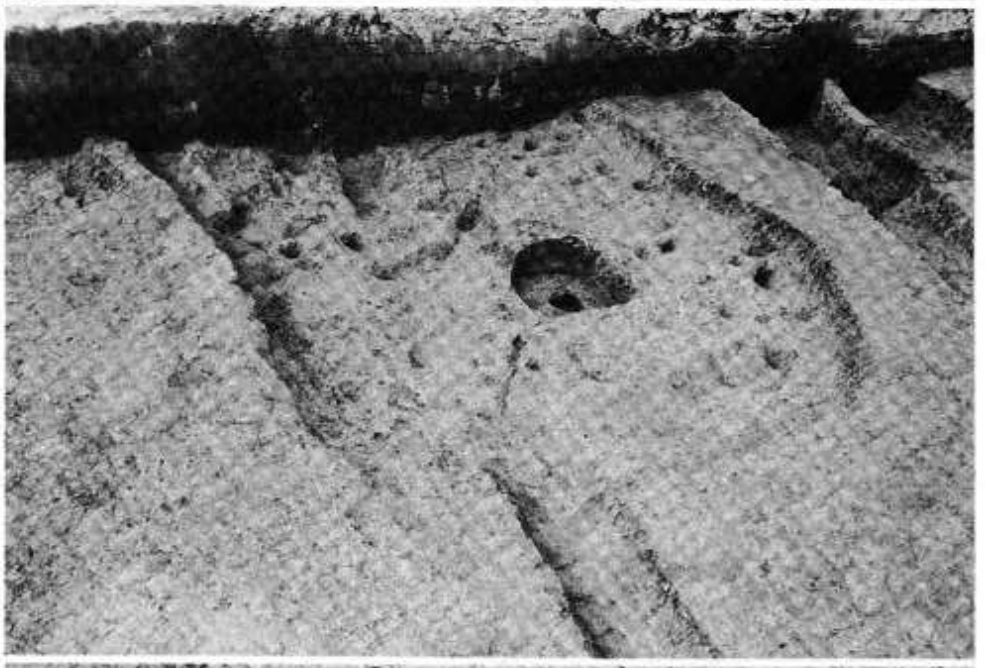
図版112
SK53完掘全景
（南より）



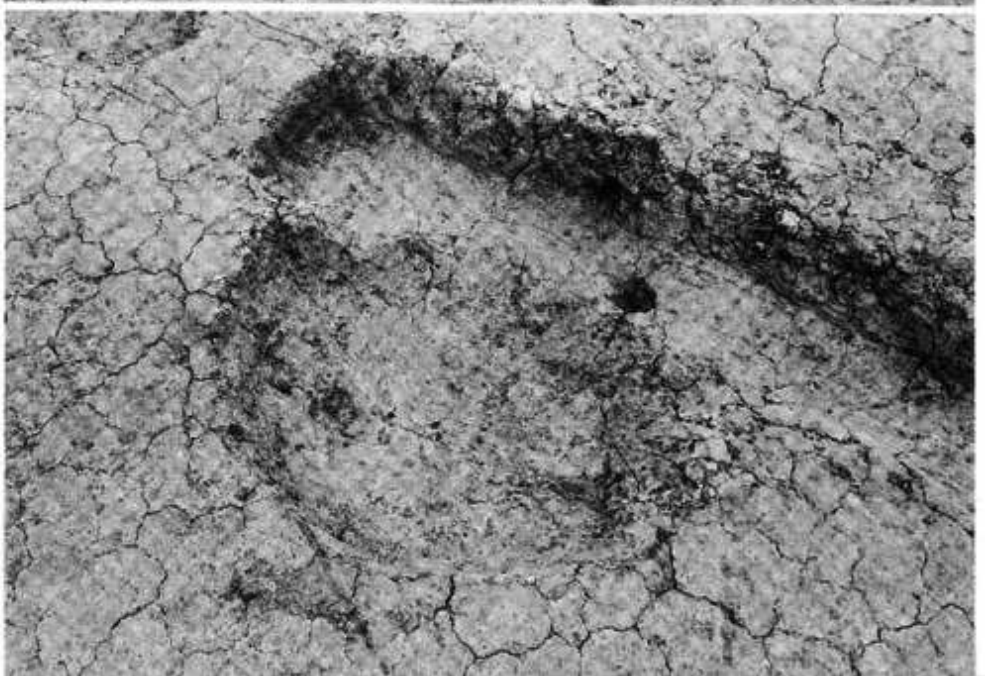
図版113
SK55全景
（南より）



図版114
SK56完掘全景
（南より）

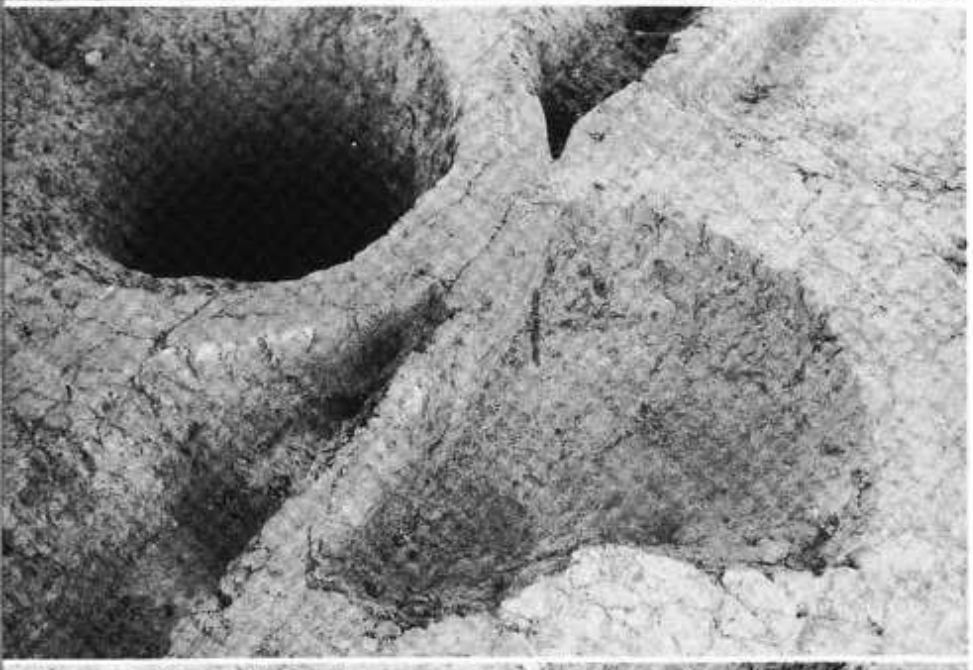


図版115
SK57完掘全景
（南より）



図版116
SK62完掘全景
（南より）

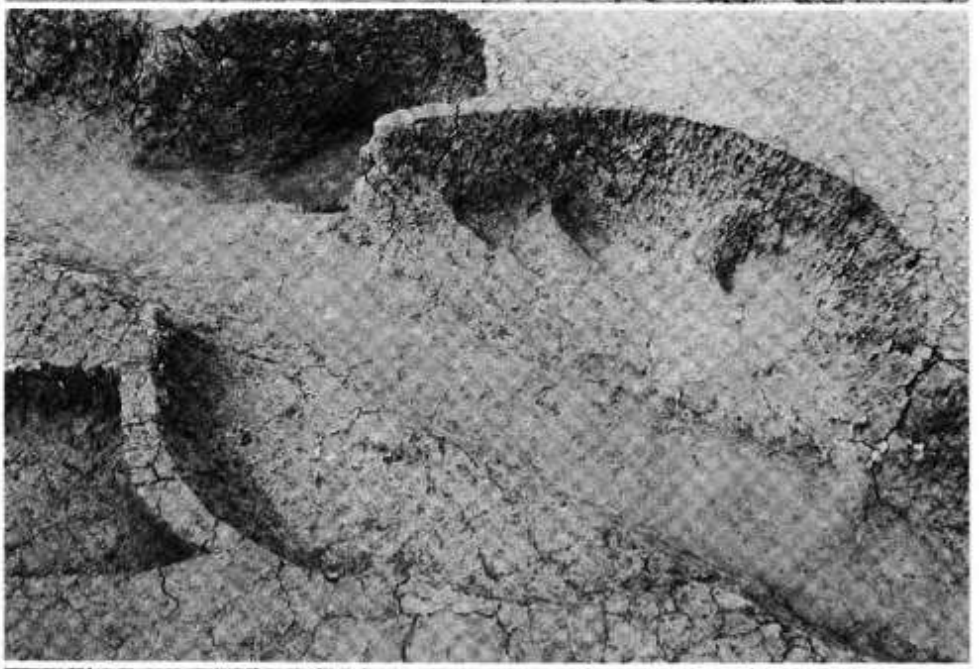
図版117
SK63完掘全景
（南より）



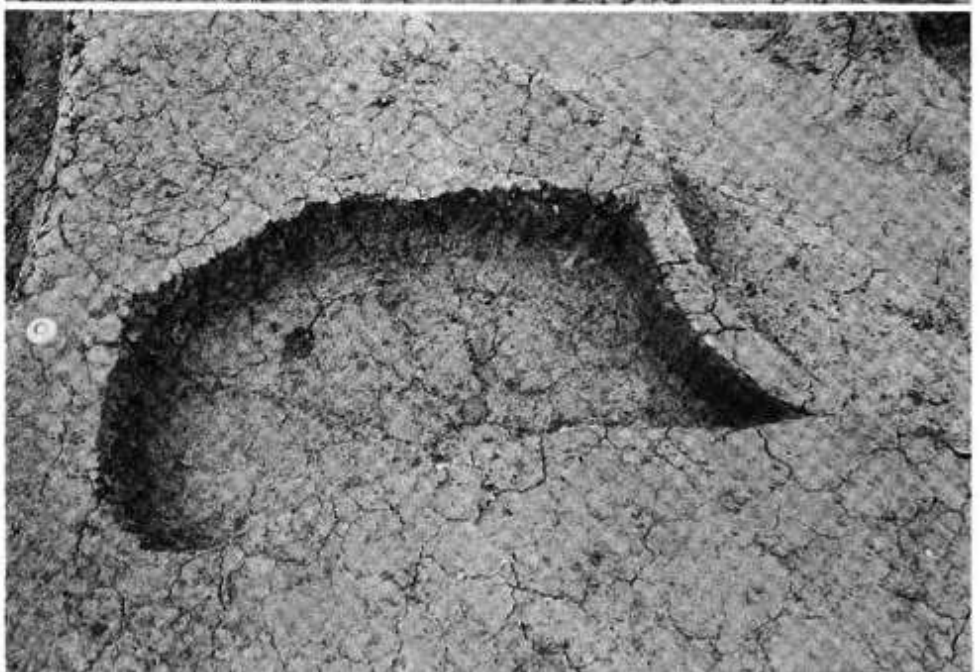
図版118
SK64完掘全景
（南より）

図版119
SK71.72完掘全景
（西より）

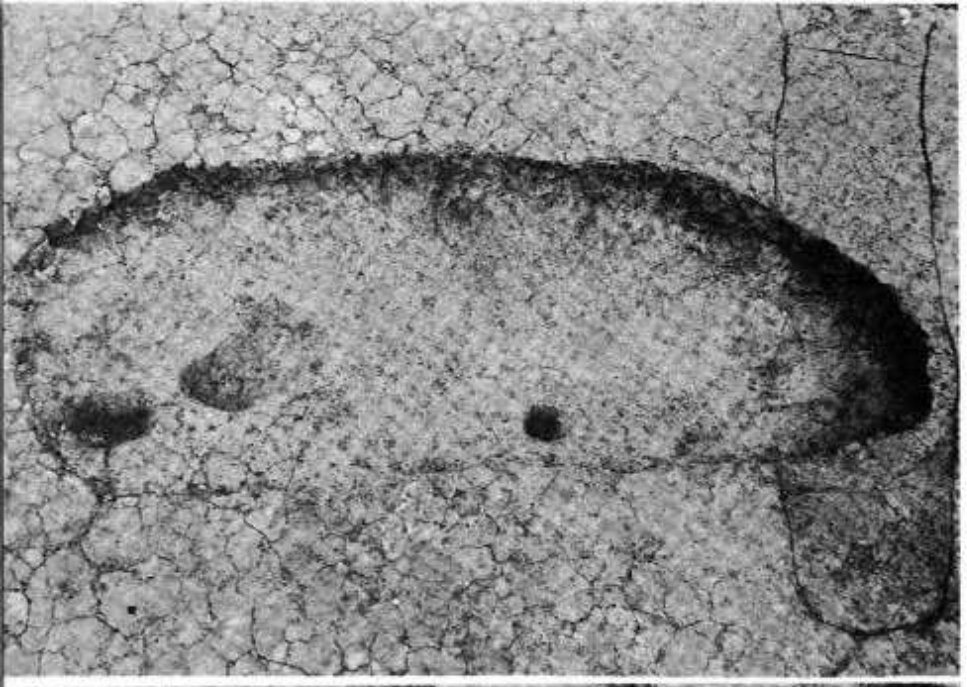
図版120
SK73完掘全景
（西より）



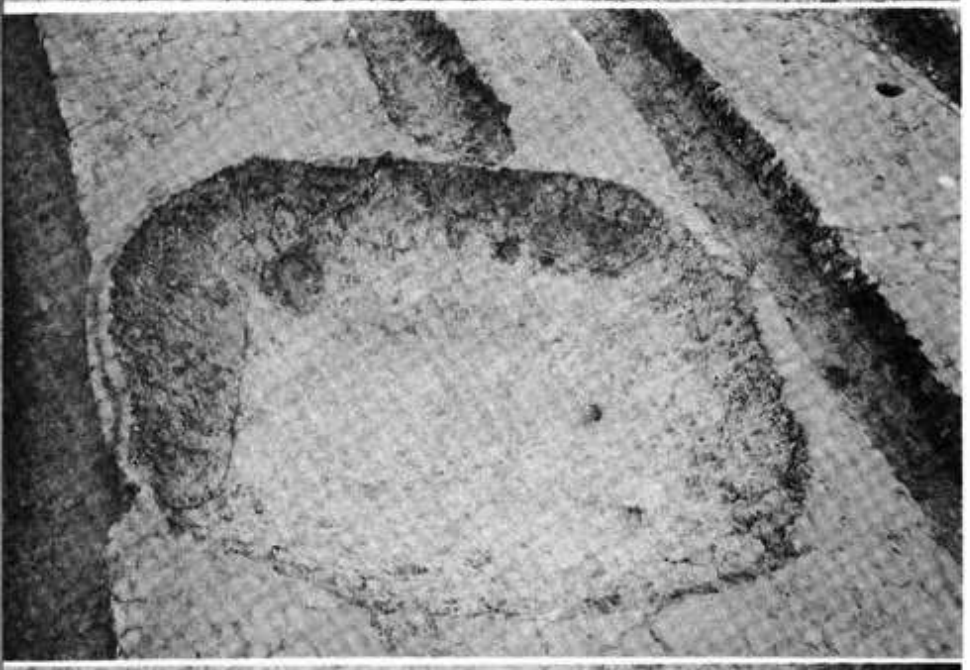
図版121
SK74完掘全景
（南より）



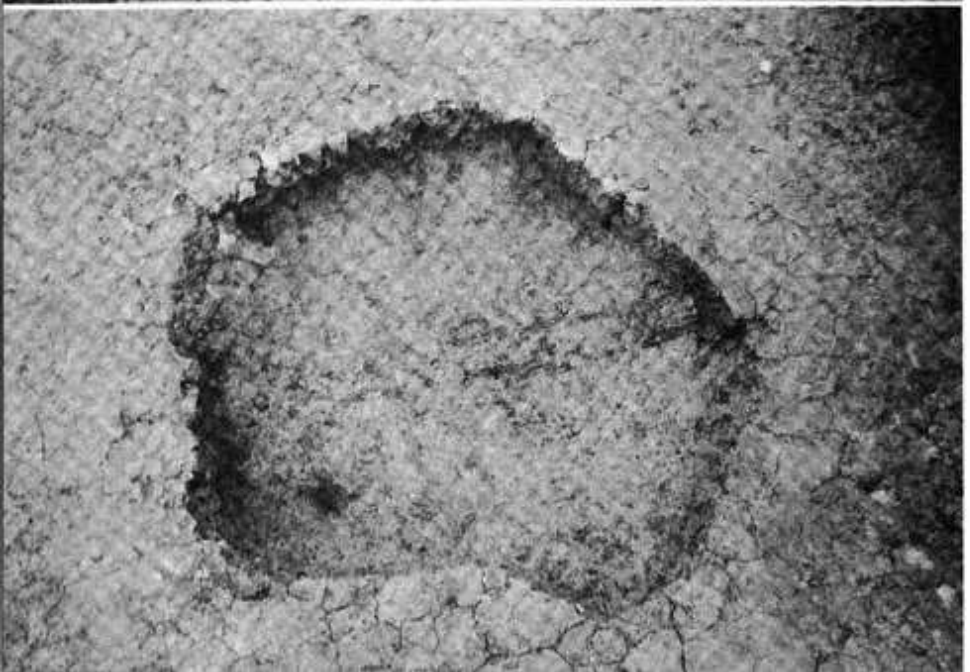
図版122
SK75完掘全景
（南より）



図版123
SK87完掘全景
（南より）

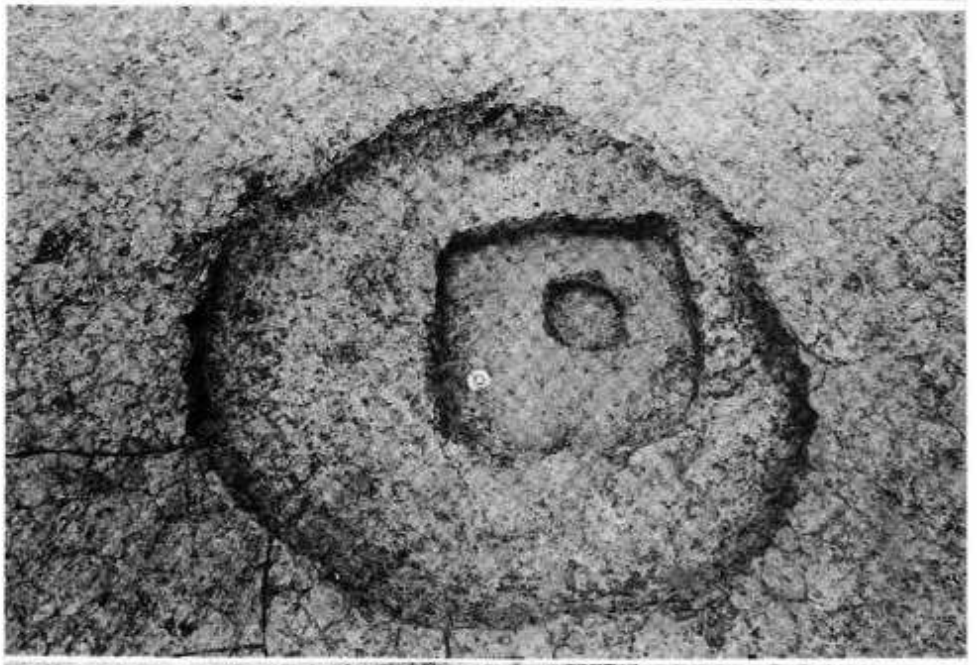


図版124
SK90完掘全景
（南より）

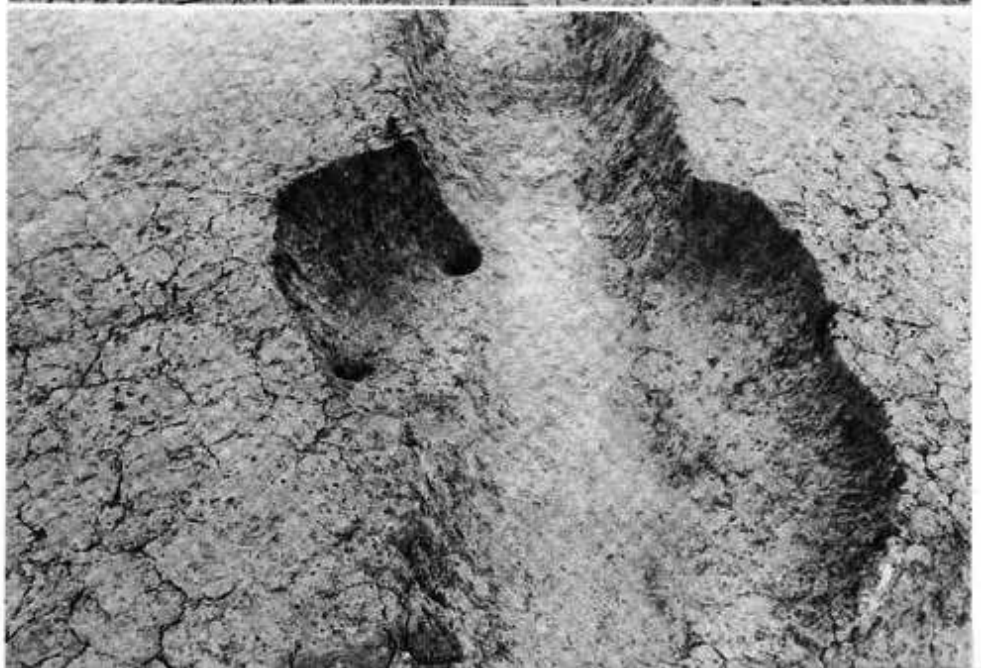


図版125
SK95完掘全景
（南より）

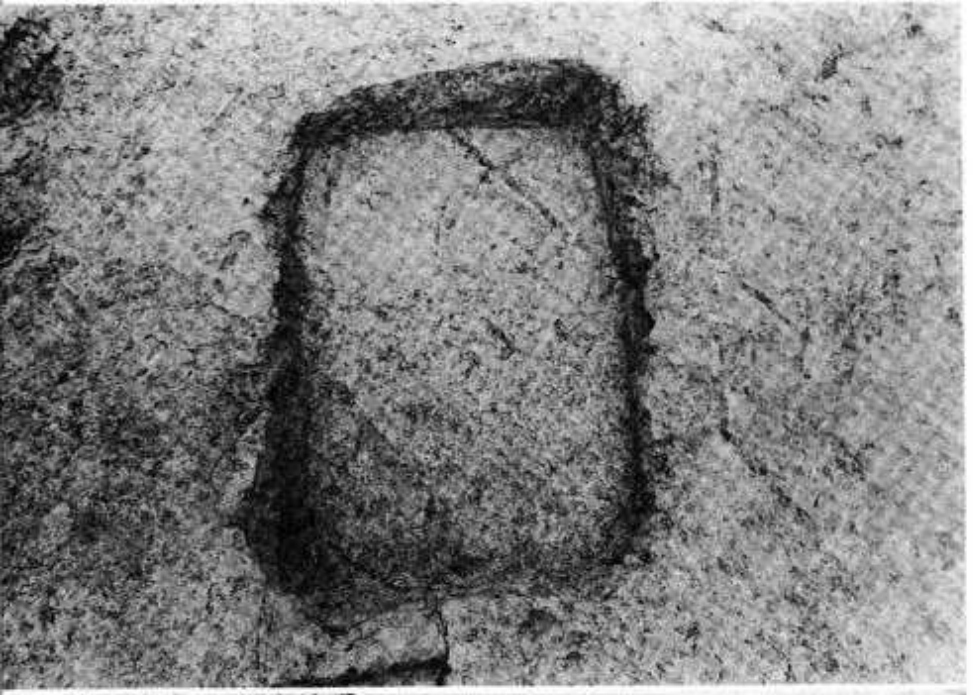
図版126
SK98遺物出土状況
（西より）



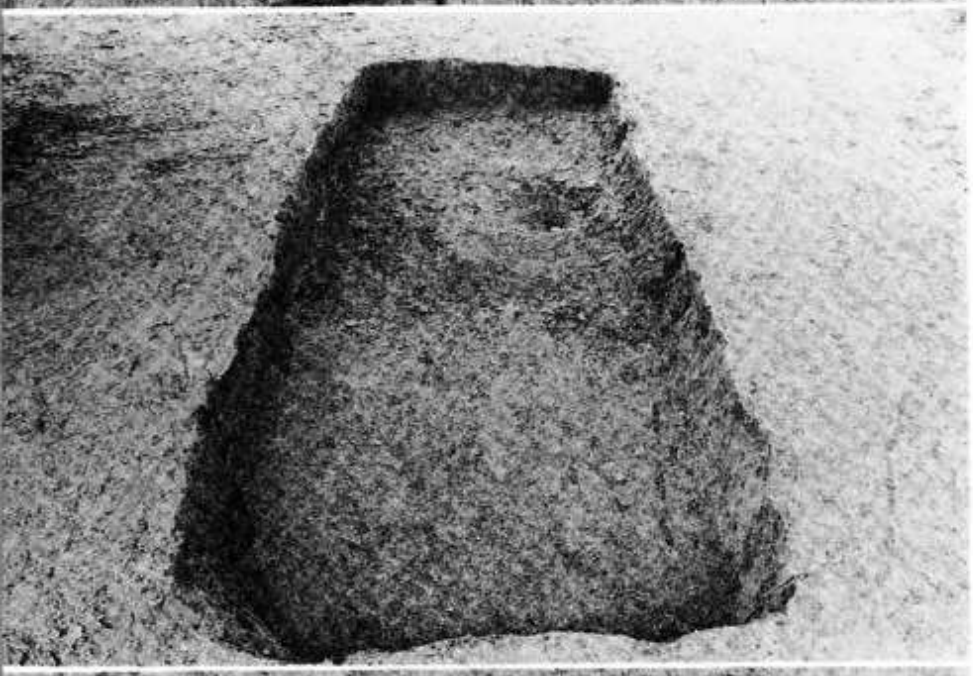
図版127
SK99完掘全景
（南より）



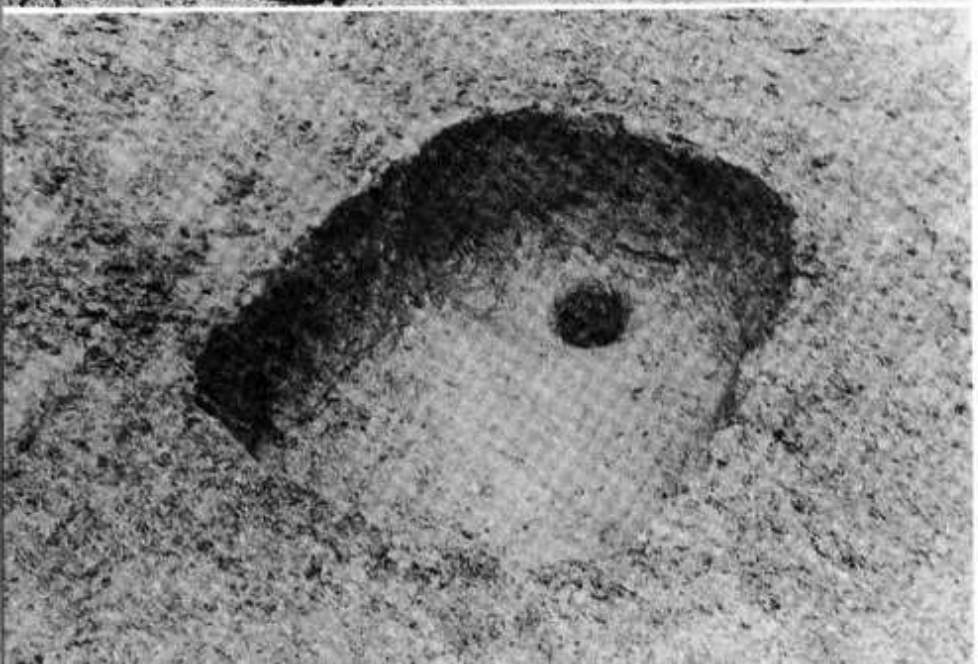
図版128
SK102完掘全景
（南より）



図版129
SK108完掘全景
（南より）



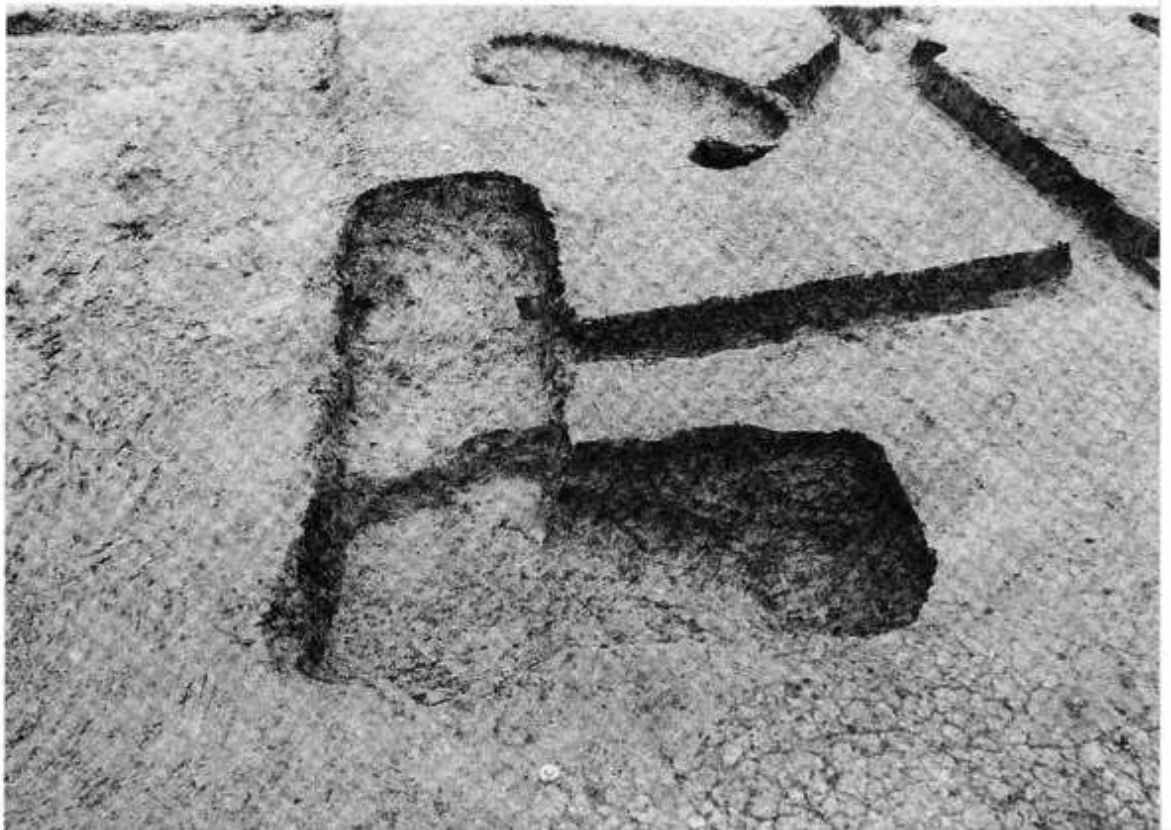
図版130
SK109完掘全景
（南より）

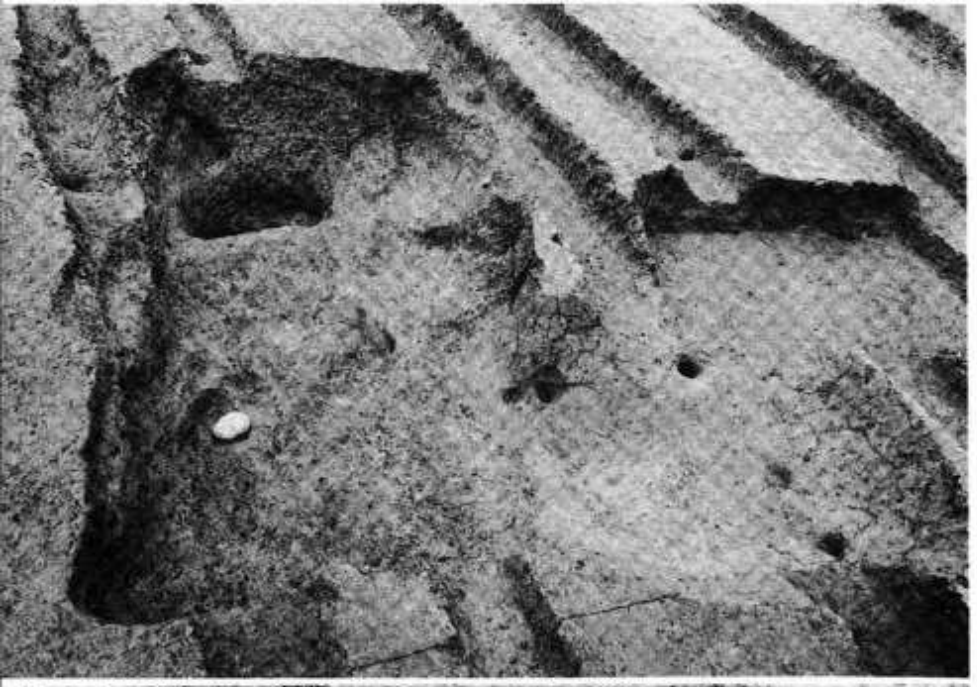


図版131
SK134完掘全景
（南より）

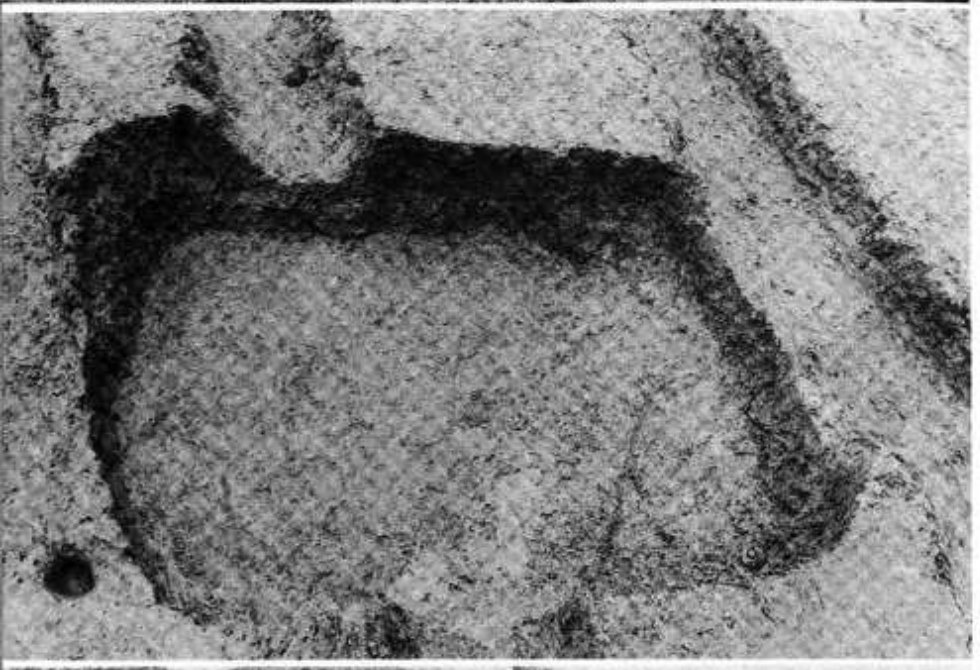
図版132
SK135完掘全景
（西より）

図版133
SK139完掘全景
（南より）

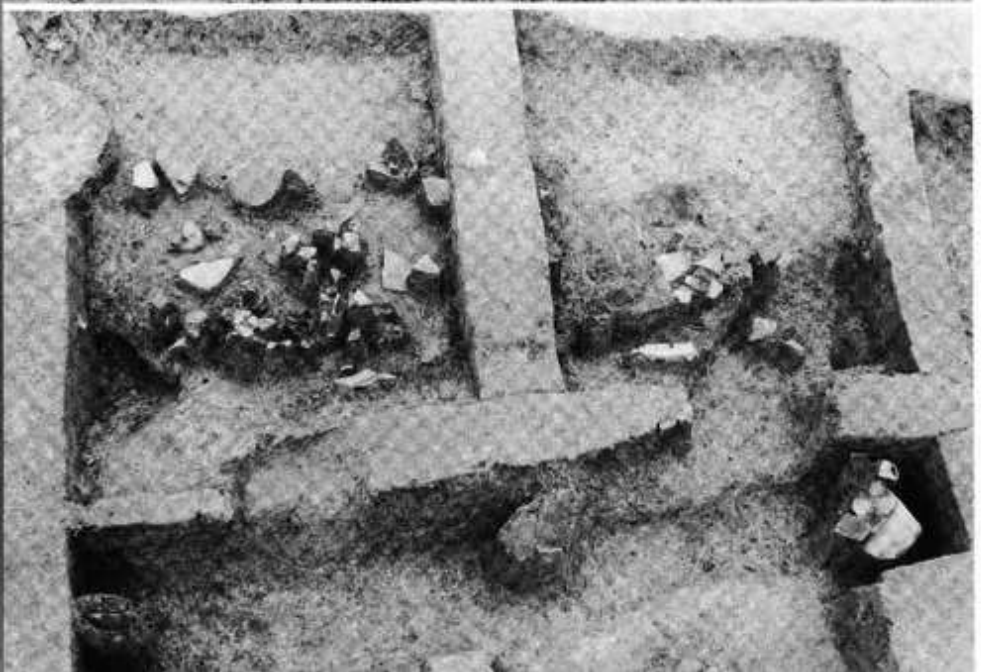




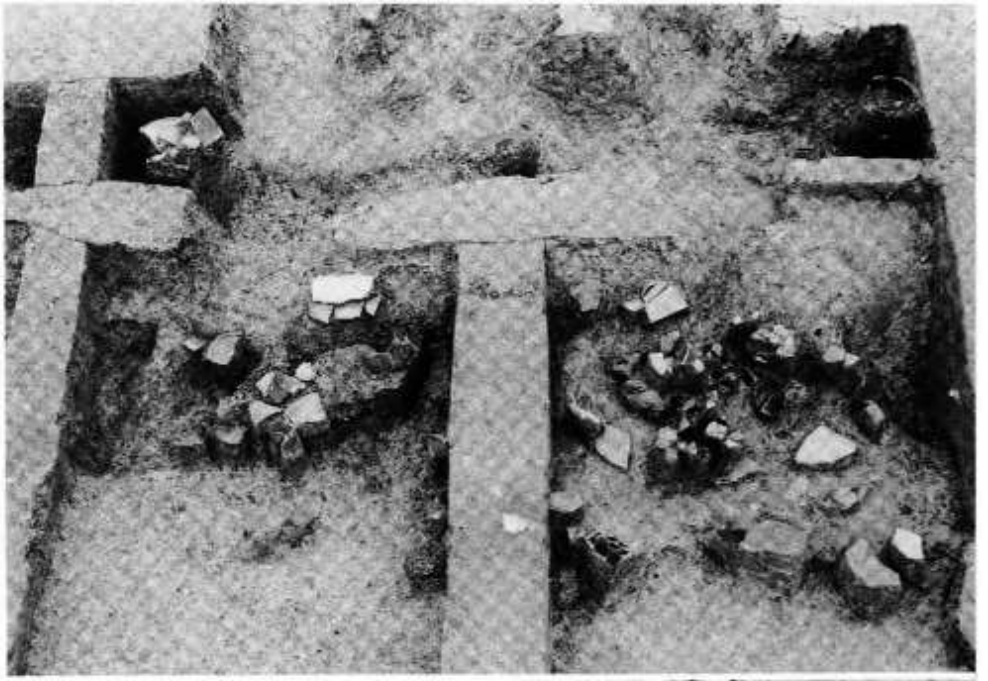
図版134
SK140完掘全景
（南より）



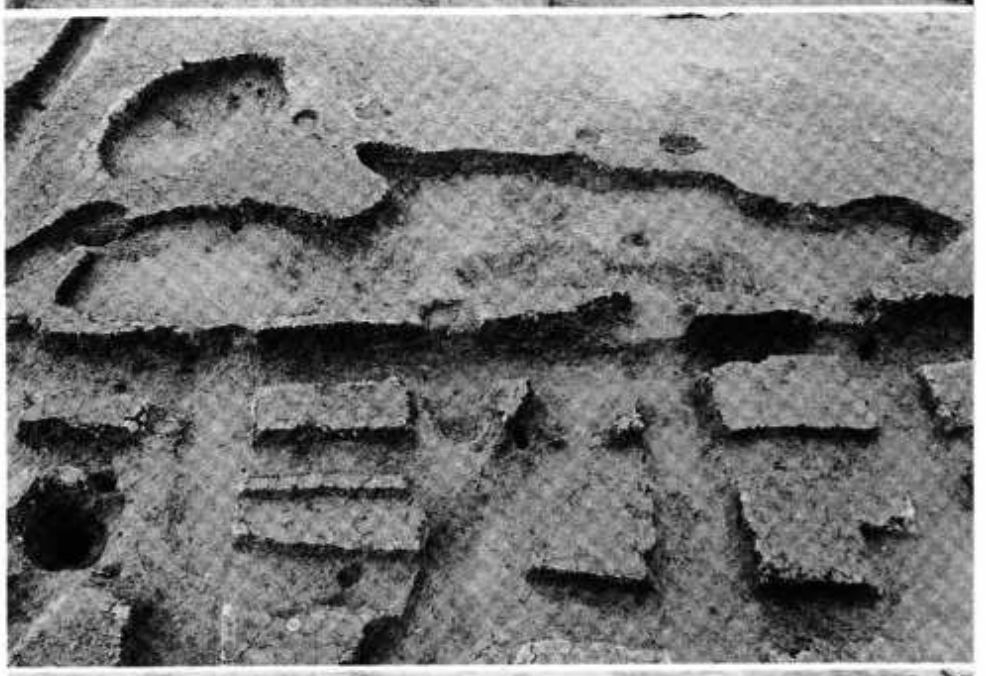
図版135
SK142完掘全景
（南より）



図版136
SK145遺物出土状況
（南より）

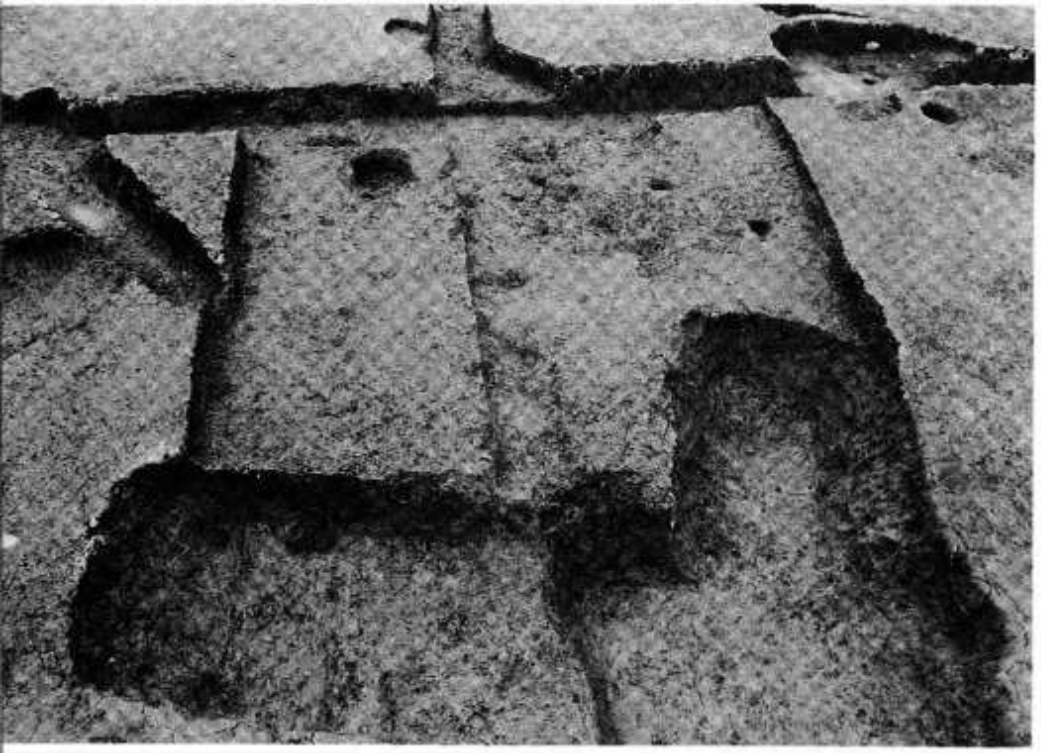


図版137
SK145遺物出土状況
（北より）



図版138
SK145，SD146，147，
148完掘全景
（南より）

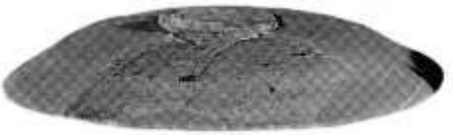
図版139
SX82完掘全景
（南より）



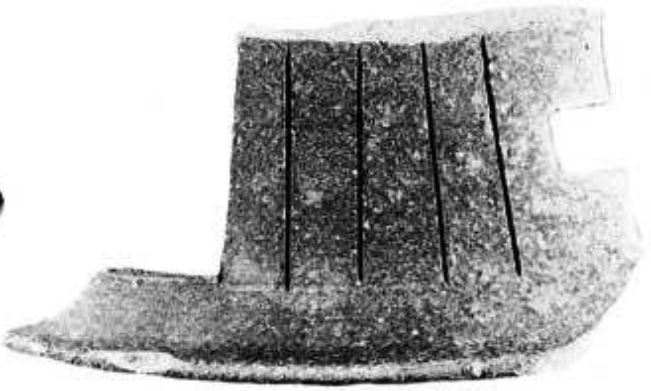
図版140
SX149完掘全景
（西より）

図版141
作業風景
（南より）

1．C-1坏　検出面



2．E-1蓋　検出面



4．E-4円面硯　検出面

6．E-2円面硯　検出面

5．E-3円面硯　SK145他

7．C-14坏（線刻"玉"）
SK145

8．C-17坏（線刻"玉"）
SK145

9．C-13坏（線刻"玉"）SK111A-1

10．C-15坏（線刻"玉"）SK145

11．C-19坏（線刻"玉"）SD146

図版142　出　土　遺　物

1．C-5甕 SK10

2．C-11坏 SK12

3．C-9坏 SK57

4．C−8坏 SK12

5．E-24坏 SK12

6．E-6高台付坏 SK12

7．E-5高台付坏 SK12

8．E-17蓋 SK12

9．C−3埦 SK12

10．C−6埦 SK13

11．E-20蓋 SK31

図版143 出 土 遺 物

1．E-19蓋　SK40

2．C−7坏　SK12

3．E-9高台付坏　SK89

4．E-18蓋　SK139

5．D−2坏　SK140

6．D−3坏　SK140

7．E-21蓋　SK145

8．E-11高台付坏　SK140

9．P−1紡錘車　SK139

10．C−18蓋（ツマミ部のみ）SK89

11．E-14蓋　SK140

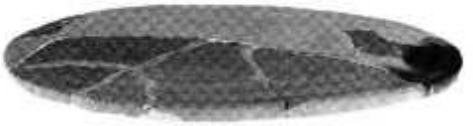
12．E-10坏　SK145

図版144　出　土　遺　物

1．E-7椀蓋　SK145

2．C−10坏　SK145

3．C−4坏　SK153



4．E-15蓋　SD85他

5．E-12坏　SD101

6．E-8高台付坏　SD132他

7．D−6椀　SD132

8．C−19坏（線刻“玉”入り）SD146

9．N-1鉄鏃　SD43

10．K−3小玉　SD96

図版145　出　土　遺　物

文化財課職員録

課長	春一	
管理係		
係長	義幸	錫田
主事	清了	白幡
〃	正幸	佐藤
〃	三也	高橋
〃	司厚	庄

調査第一係		
係長	正範	加藤
主任	幹男	熊谷
教諭	好一	佐藤
主任	信彦	篠原
〃	浩二	木村
主事	洋	佐藤
〃	恭平	吉岡
教諭	淳一	小川
主事	光朗	主浜
〃	榮一	長島
教諭	浩志	神成
〃	祐一	高倉
〃	俊一	稲葉
〃	裕樹	菅原
主事	淳	佐藤
〃	紀	渡部
〃	美智代	大江
教諭	裕行	熊谷

調査第二係		
係長	則和	田中
教諭	昭夫	太田
主事	安孝	金森
〃	甲二	佐藤
〃	弘美	渡部
〃	哲司	工藤
〃	裕彦	斎野
〃	信一郎	工藤
〃	格	荒井
〃	洋	中富
〃	亮輔	平間
教諭	康洋	五十嵐
〃	秀一	川名

仙台市文化財調査報告書第159集
神　棚　遺　跡
発掘調査報告書
平成4年3月
発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目7－1
仙台市教育委員会文化財課
印刷　針生印刷株式会社
仙台市若林区六丁の目西町1－38
TEL　288－5011